

「5カ年推進計画2021～2025」 総括的検証報告書

2026年3月
四国旅客鉄道株式会社

1	「5カ年推進計画2021～2025」の概要	P.3	予讃線（高松～松山） P.8～12
2	基本指標・関連指標の概況	P.4～P.6	予讃線（松山～宇和島） P.13～17
3	各線区の検証	P.7～P.56	予讃海回り線（向井原～伊予大洲） P.18～22
4	利用実態調査（全列車全区間での全旅客調査）	P.57～P.60	高德線（高松～徳島） P.23～27
5	データとファクトによる線区比較	P.61～P.67	土讃線（多度津～高知） P.28～32
6	5カ年推進計画2021～2025の総括検証	P.68～P.72	土讃線（高知～窪川） P.33～37
7	事業の抜本的改善方策の検討	P.73～P.75	徳島線（佐古～佃） P.38～42
8	（参考）5カ年推進計画の取組（各県別）	P.76～P.129	鳴門線（鳴門～池谷） P.43～46
			牟岐線（徳島～阿波海南） P.47～51
			予土線（北宇和島～若井） P.52～56
	別冊…調査結果の詳細		主な取組事例（全線共通） P.76～78
			徳島県内の取組 P.79～91
			香川県内の取組 P.92～103
			愛媛県内の取組 P.104～116
			高知県内の取組 P.117～129

- 本検証は2021年3月に策定した「5カ年推進計画2021～2025」の5年間の取組状況について、幹事会（関係者:徳島県、香川県、愛媛県、高知県、JR四国の各担当者、オブザーバー:国土交通省）において検証を行い、その結果を取りまとめたものである。
- 期間前半は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたが、地域の関係者と一体で、この事業計画（推進計画）に基づき、利便性向上や利用促進等に取り組むとともに、四国の活力の維持・向上を支える持続的な鉄道網の確立に向け、各種実証実験をはじめ2次交通も含めたあるべき交通体系についての検討を行った。
加えて2024年度には、国の補助事業を活用した公共交通の利用状況や潜在的なニーズ調査等を実施し、2025年度には、他交通モードとの連携に関する実証事業にも取り組んだ。
- 利用者数等の指標に対する達成度合い等の検証結果を踏まえ、事業の抜本的な改善方策の検討を実施した。
- 本報告書における「2025年度実績」は、特段の記載がない限り **2025年度上期（2025年4月～9月）の実績を指す。**

<策定の経緯>

- ・2020年3月、JR四国は国土交通省より、経営改善に向けた取り組みを着実に進めることを求める行政指導文書を受領し、その中で、地域の関係者と一体となって、利用促進やコスト削減等の取組を行うとともに、持続的な鉄道網の確立に向け、徹底的な検討を行うため、5年間（2021～2025年度）の事業計画を策定することが示された。

<策定の目的>

- ・JR四国と地域の関係者は一体となって、この事業計画（推進計画）に基づき、利便性向上や利用促進などに取り組むとともに、四国の活力の維持・向上を支える持続的な鉄道網の確立に向け、2次交通も含めたあるべき交通体系について、徹底的な検討を行う。
- ・JR四国は、地域の関係者とともに、推進計画に基づく取組結果を毎年度検証し、推進計画の最終年度（2025年度）には総括的な検証も行う。その際、利用者数等の目標に対する達成度合い等を踏まえ、事業の抜本的な改善方策についても検討を行う。

○ 推進計画の基本的な方針

四国においては、「四国における鉄道ネットワークのあり方に関する懇談会Ⅱ」での議論や同懇談会「中間整理」に基づく県別（地域別）会議等、地域の関係者と一体となった利便性向上・利用促進策等の取組や持続的な鉄道網の確立に向けた、あるべき交通体系の検討等が既に進められていることから、県別（地域別）会議での検討や取組と連携し、5カ年推進計画の策定及び検証等を行う。

◆対象線区

J R 四国管内全線区

◆取組内容等

- ・4 県別に各種施策を取りまとめ
- ・「利便性向上」「利用促進」「その他」の3項目に分類

◆設定する指標

- ・基本指標「平均通過人員」
最終年度（2025年度）、計画開始前の2019年度と同水準を目指す。
- ・関連指標「列車キロ平均輸送人員」
列車運行本数に左右されない1列車あたりの利用人員。

◆進め方

- ・JR四国と地域の関係者が一体となって取組を推進。
- ・取組結果を毎年度検証。
- ・最終年度（2025年度）には、総括的な検証。
- ・検証結果を踏まえた、事業の抜本的な改善方策に関する検討。

○ 5カ年推進計画における具体的取組（骨子）

利便性向上

○駅を中心としたまちづくり	
○交通モード間の利便性向上・連携強化、交通結節機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃体系、ダイヤ面での連携 ・営業面での連携 ・ハード整備 ・その他
○駅や路線の活性化、利用環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・駅環境整備 ・車両環境整備

利用促進

○観光振興への取組	<ul style="list-style-type: none"> ・観光列車等による観光振興 ・イベント開催時の連携 ・その他
○その他利用促進への取組	<ul style="list-style-type: none"> ・利用啓発イベントの開催等 ・補助制度の活用 ・公共交通の周知 ・美化活動

その他

- 中長期的な公共交通ネットワークのあり方の検討
- 自治体による計画の策定及び推進
- 安全性向上への協力
- 新型コロナウイルスへの対応

2 基本指標・関連指標の概況

「平均通過人員」を基本指標、列車運行本数に左右されない「列車キロ平均輸送人員」を関連指標とし、2025年度において2019年度と同水準を目指してきたことから、各指標の達成度合いを確認する。

※基本指標：「平均通過人員（人/日）」＝旅客輸送人キロ（人キロ）÷（営業キロ（[※]）×営業日数（日））

※関連指標：「列車キロ平均輸送人員（人）」＝旅客輸送人キロ（人キロ）÷列車キロ（[※]）

「列車キロ平均輸送人員（人）」とは、1列車あたりの利用人員を表す指標

基本指標の概況

線名	区間	営業キロ (km)	平均通過人員 (人/日)					【基本指標】 2019年度 平均通過人員	【基本指標】 2019年度上期 平均通過人員	【基本指標】 平均通過人員 (2025上期 /2019上期)
			2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度 上期	(人/日)	(人/日)	(%)
本四備讃線	児島 ~ 宇多津	18.1	12,592	17,980	21,581	22,286	23,802	23,017	24,998	95.2
予讃線	高松 ~ 宇和島	327.0	4,240	5,171	5,758	5,799	6,028	6,395	6,939	86.9
	高松 ~ 多度津	32.7	16,317	19,605	21,959	22,494	24,080	24,014	25,915	92.9
	多度津 ~ 観音寺	23.8	5,696	7,207	7,989	7,897	8,080	8,949	9,752	82.9
	観音寺 ~ 今治	88.4	3,376	4,411	4,969	4,892	5,034	5,514	6,009	83.8
	今治 ~ 松山	49.5	4,668	5,549	6,078	6,226	6,293	6,807	7,421	84.8
	松山 ~ 内子	91.6	1,927	2,195	2,420	2,384	2,415	2,769	2,986	80.9
	新谷 ~ 宇和島									
向井原 ~ 伊予大洲	41.0	274	307	317	334	335	364	423	79.2	
内子線	新谷 ~ 内子	5.3	2,248	2,580	2,855	2,853	2,889	3,298	3,561	81.1
高德線	高松 ~ 徳島	74.5	3,145	3,534	3,790	3,804	3,968	4,289	4,666	85.0
	高松 ~ 引田	45.1	3,505	3,880	4,159	4,197	4,390	4,716	5,115	85.8
	引田 ~ 徳島	29.4	2,593	3,003	3,223	3,200	3,319	3,633	3,977	83.5
土讃線	多度津 ~ 窪川	198.7	1,917	2,381	2,513	2,490	2,579	2,803	3,087	83.5
	多度津 ~ 琴平	11.3	3,734	4,556	4,802	4,776	5,061	5,322	5,829	86.8
	琴平 ~ 高知	115.3	1,684	2,259	2,453	2,400	2,542	2,657	2,924	86.9
	高知 ~ 須崎	42.1	2,873	3,188	3,221	3,263	3,220	3,734	4,122	78.1
	須崎 ~ 窪川	30.0	786	898	889	891	888	1,108	1,228	72.3
徳島線	佐古 ~ 佃	67.5	2,156	2,270	2,374	2,312	2,371	2,824	3,109	76.3
鳴門線	池谷 ~ 鳴門	8.5	1,557	1,701	1,799	1,801	1,922	1,925	2,179	88.2
牟岐線	徳島 ~ 阿波海南	77.8	1,379	1,459	1,489	1,436	1,501	1,824	1,977	75.9
	徳島 ~ 阿南	24.5	3,574	3,793	3,921	3,794	3,996	4,749	5,143	77.7
	阿南 ~ 牟岐	43.2	423	437	422	400	394	605	658	59.9
	牟岐 ~ 阿波海南	10.1	146	168	151	148	187	186	206	90.8
予土線	北宇和島 ~ 若井	76.3	195	220	260	250	234	301	340	68.8
JR四国全線		853.7	2,955	3,589	3,961	3,977	4,143	4,416	4,809	86.2

※ JR四国全線が利用できるフリータイプのきっぷについては、2023年度から計上方法を変更していますが、上表のデータにおいては、2019年度の基本指標と同様な計上方法にて算出した数値を使用しています。

関連指標の概況

線名	区間	営業キロ (km)	列車キロ平均輸送人員 (1列車あたりの利用人員)					【関連指標】 2019年度 列車キロ 平均輸送人員	【関連指標】 2019年度上期 列車キロ 平均輸送人員	【関連指標】 列車キロ 平均輸送人員 (2025上期 /2019上期)
			2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度 上期	(人)	(人)	(%)
本四備讃線 予讃線	児島 ~ 宇多津	18.1	92.7	135.3	161.7	168.1	177.2	165.4	183.9	96.4
	高松 ~ 宇和島	327.0	55.0	67.5	75.1	78.2	82.6	77.1	84.1	98.2
	高松 ~ 多度津	32.7								
	多度津 ~ 観音寺	23.8								
	観音寺 ~ 今治	88.4								
	今治 ~ 松山	49.5								
	松山 ~ 内子	91.6								
	新谷 ~ 宇和島									
	向井原 ~ 伊予大洲	41.0								
内子線	新谷 ~ 内子	5.3	43.2	48.0	52.9	55.7	59.0	58.1	63.2	93.4
高德線	高松 ~ 徳島	74.5	40.5	45.2	48.5	49.4	53.9	52.1	57.1	94.4
	高松 ~ 引田	45.1								
	引田 ~ 徳島	29.4								
土讃線	多度津 ~ 窪川	198.7	36.5	45.4	48.2	48.2	50.8	49.9	56.0	90.7
	多度津 ~ 琴平	11.3								
	琴平 ~ 高知	115.3								
	高知 ~ 須崎	42.1								
	須崎 ~ 窪川	30.0								
徳島線	佐古 ~ 佃	67.5	45.8	47.6	49.6	47.4	52.6	53.1	59.8	88.0
鳴門線	池谷 ~ 鳴門	8.5	46.7	51.1	54.1	54.3	57.5	55.3	62.0	92.7
牟岐線	徳島 ~ 阿波海南	77.8	39.4	41.6	42.6	40.3	45.0	48.4	55.4	81.2
	徳島 ~ 阿南	24.5								
	阿南 ~ 牟岐	43.2								
	牟岐 ~ 阿波海南	10.1								
予土線	北宇和島 ~ 若井	76.3	15.6	17.7	21.0	20.4	20.1	19.1	22.3	90.1
JR四国全線		853.7	49.2	59.9	66.1	67.6	72.3	68.3	75.3	96.0

3 各線区の検証

各線区で取り組んできた利便性向上や利用促進策にかかる主な取組内容と基本指標・関連指標の状況、2024年度に実施した沿線住民に対する公共交通のニーズ調査の結果について分析・検証し、各線区の課題等を把握する。なお、関連指標の特性から、検証と指標の区間が一致しない場合がある。

※予讃線（松山～宇和島）には内子線（新谷～内子）を含む。

※モーダルミックスの取組（JR乗車券類を所持していればJR路線と並行運行するバスにも乗車可能）は、特に高校生通学利用との親和性が高いため、高校生向けアンケートにおいて、すべての線区で利用意向を調査している。

予讃線（高松～松山）の取組

特徴的な取組内容と効果・検証

◆ 利便性向上

○ 高松駅周辺整備

- ・ 2024.3.22「TAKAMATSU ORNE（タカマツ オルネ）」開業
- ・ 2025.2.24県立アリーナ（あなぶきアリーナ香川）オープン
- ・ 2025.2.24～サンポート高松地区において社会実験を経て、土日休日プロムナード化



○ 松山駅周辺整備

- ・ 2024.9.29 高架線への切替及び新松山駅開業
高架下商業エリア「JR松山駅だんだん通り」同時開業、特急列車「しおかぜ・いしづち」と「宇和海」が同一ホームで乗換可能（対面乗換方式）



	利用者数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果
高松オルネ (2024.4～2025.3)	高松駅乗車人員 160人/日増	+26.9人 高松～多度津	約43,000千円*
あなぶきアリーナ (2025.3～4月)	四国内約14,000名 四国外約18,000名	+11.7人 高松～宇多津	約67,000千円
松山駅高架開業 (2024.10～ 2025.3)	松山駅乗車人員 80人/日増	+3.6人 松山～伊予北条	約6,000千円*

*記載区間を片道利用したものとして試算

- ◎ まちづくりによる主要駅周辺の開発等により賑わい創出
- ◎ 目的地となる施設整備やイベント開催によりJR利用・関連事業共に増加

○ 鉄道とタクシーの乗継連携強化

2024.6.24～11.30
特急列車内からタクシーの手配サービスの
の実証実験



予讃線特急停車駅6駅を対象にスマートフォン等で特急列車内の2次元コードからタクシーを予約手配

2025.8.1～12.31 令和7年度「交通空白解消」等
リ・デザイン全面展開プロジェクトの一環で、日本版
MaaS推進・支援事業を活用し、鉄道駅から目的地へ
の確実かつシームレスな移動環境構築を実証



	特急列車からの配車総数	効果
2024年度	335件	一定のニーズを把握（異常時、二次交通が十分ではない駅）
2025上期	113件	

- ◎ タクシー不足の課題に対するソリューションの展開
- 一定のニーズを把握した一方、鉄道利用への寄与度は不透明
- ▲ 持続可能なサービス供給スキームの構築が課題

○ チケットアプリ（スマえき）の展開

定期券（通勤・通学）利用者数 ※高松、丸亀、新居浜、今治発着の定期券利用者数（一日平均）

	アプリ利用者数	全利用者数	アプリ定期券 移行率
2023年度	286人	11,283人	3%
2024年度	1,298人	11,266人	12%
2025上期	1,968人	11,979人	16%

予讃線（高松～松山）の取組

特徴的な取組内容と効果・検証

◆ 利便性向上

○ 駅環境整備

地域との連携による駅舎整備や活用、公衆トイレの整備等
 高瀬駅 三豊市によるパブリックスペース、トイレ等の整備（2025.12.24）
 観音寺駅 観音寺市によるコワーキングスペース整備（2025.9.1）



高瀬駅



COCO-BEN観音寺

- ◎ 待合環境改善による利便性向上
- ◎ 地域の拠点としての魅力向上、観光振興
- 維持管理コストの削減

◆ 利用促進

○ サイクルトレイン（えひめ・しまなみリンリントレイン）

伊予西条駅～松山駅間で一部普通列車の車内に自転車をそのまま持ち込める混乗試験

	利用者数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
2021年度	62人	+0.04人	約60千円
2022年度	838人	+0.6人	約800千円
2023年度	466人	+0.3人	約500千円
2024年度	353人	+0.3人	約380千円
2025上期	71人	+0.1人	約80千円



*今治⇒松山を利用したものとして試算

- 非利用層（サイクリスト）の取り込み
- 自治体事業との連携
- ▲ 訴求範囲が狭く、基本指標への寄与は限定的

○ 観光施設と連携した企画乗車券の発売

「四国水族館きっぷ」販売
 宇多津駅までの往復JR券と四国水族館入館券の引換券がセット



	総発売枚数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
2021年度	1,852枚	+1.4人	約8,000千円
2022年度	3,725枚	+2.7人	約15,000千円
2023年度	1,540枚	+1.1人	約8,000千円
2024年度	3,805枚	+2.8人	約15,000千円
2025上期	2,201枚	+3.2人	約8,000千円

*基本指標貢献度は高松⇄宇多津を利用したものとして試算、増収効果は発売実績から試算

- ◎ 観光需要の創出とJR利用への誘導
- ▲ 吸引力の高い観光施設であり、発売枚数も多いが基本指標への寄与は限定的

○ 周年記念イベントの開催

- ・ 開通100周年記念行事
 伊予土居駅～伊予西条駅（2021）
 伊予西条駅～今治駅（2023）
- ・ 高松駅（四代目駅舎）開業20周年イベント（2021.10）
- ・ 瀬戸大橋線開業35周年記念キャンペーン（2023.4～）



○ 「THE ROYAL EXPRESS」の運行

東急の豪華観光列車「THE ROYAL EXPRESS」が四国・瀬戸内クルーズトレインとして運行

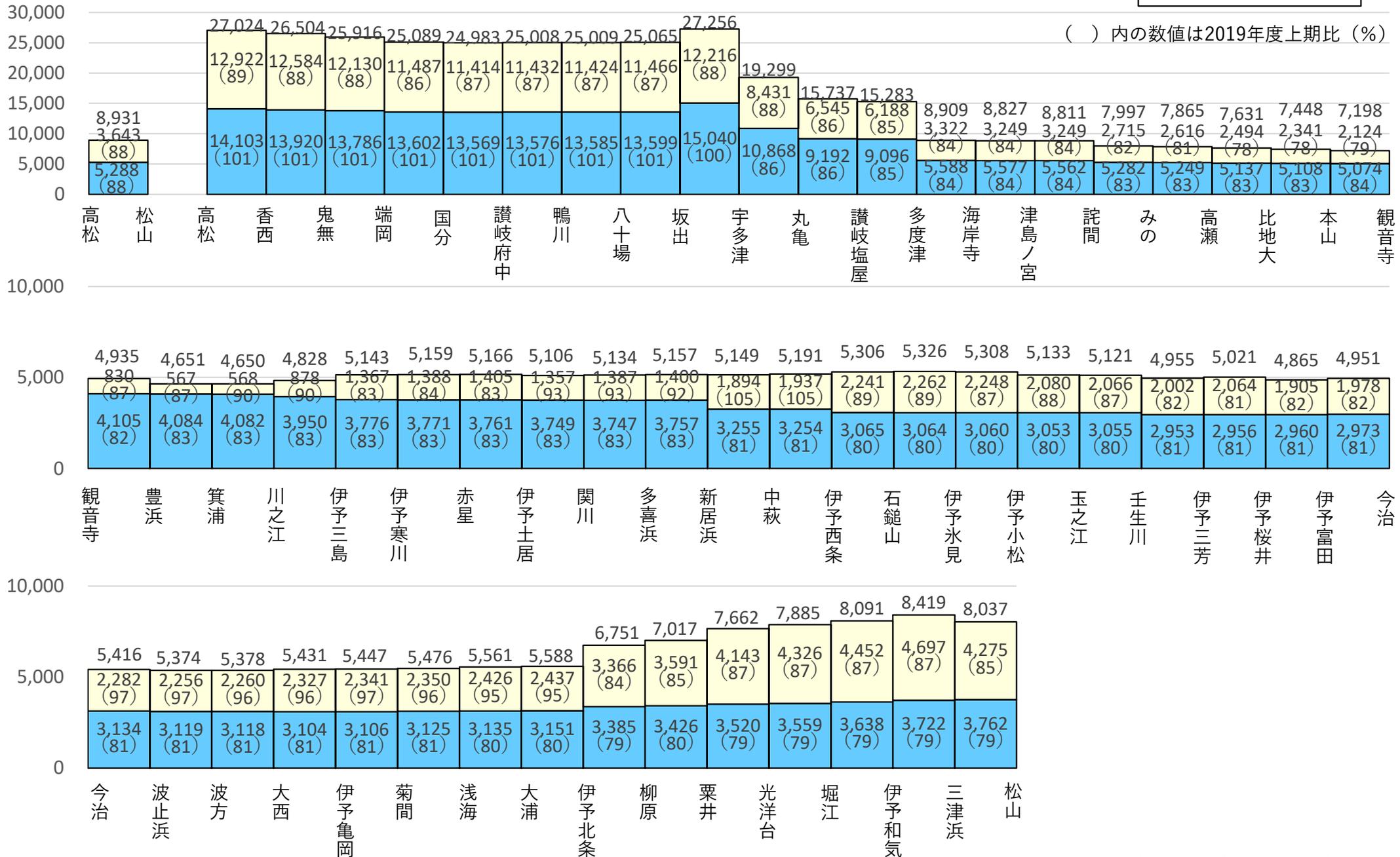
- 【2024.1～3】
3泊4日 計6回
- 【2025.1～3】
3泊4日 計6回



予讃線（高松～松山）の駅間平均通過人員

● 平均通過人員（2025年度上期実績）：営業キロ1km当たりの1日平均旅客輸送人員（人/日）

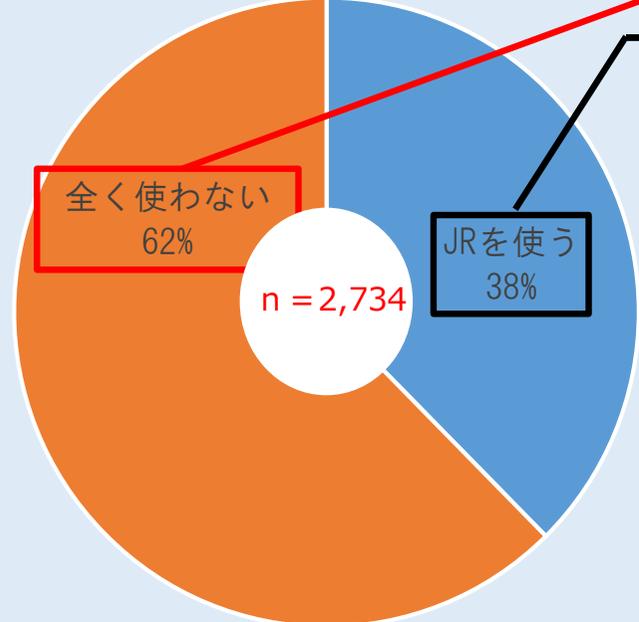
■ 定期外 □ 定期



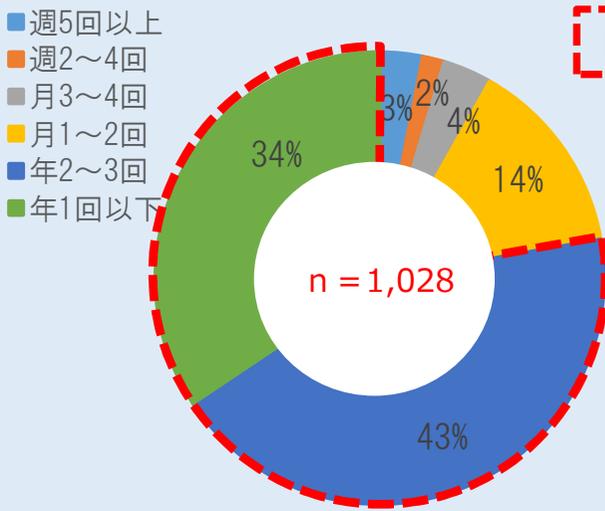
※端数処理により、合計値が合わない場合がある。

予讃線（高松～松山）の調査結果（抜粋）

非日常利用も含めたJR予讃線の利用状況



JR予讃線の利用頻度

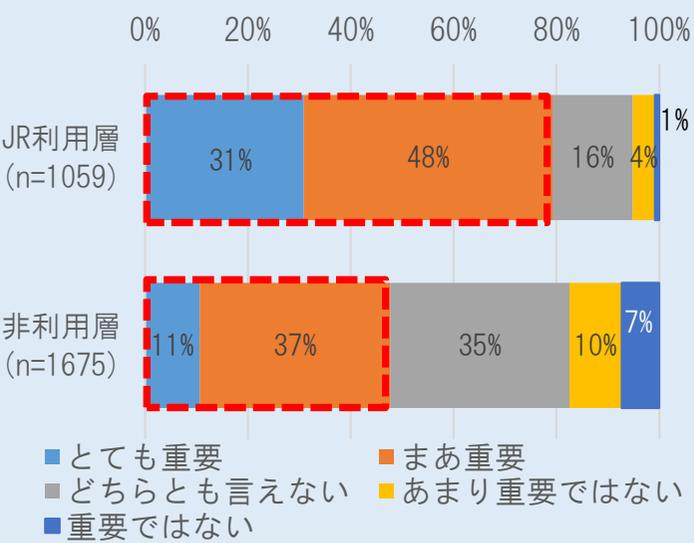


JR予讃線を全く使わない理由TOP5(1,706件中)



沿線住民ニーズ

JR予讃線の重要度認識(2734件中)

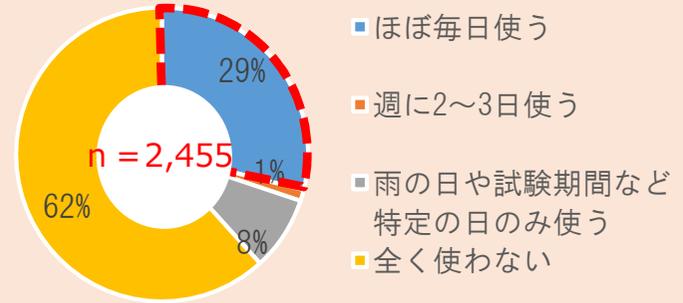


JR予讃線が重要だと思う理由TOP5 (1638件中)

- ・無くなると地域が寂れる 831件 (51%)
- ・観光客のため 722件 (44%)
- ・高齢者や体の不自由な方のため 611件 (37%)
- ・将来使うかもしれない 596件 (36%)
- ・自分自身の遊び・レジャーのため 533件 (33%)

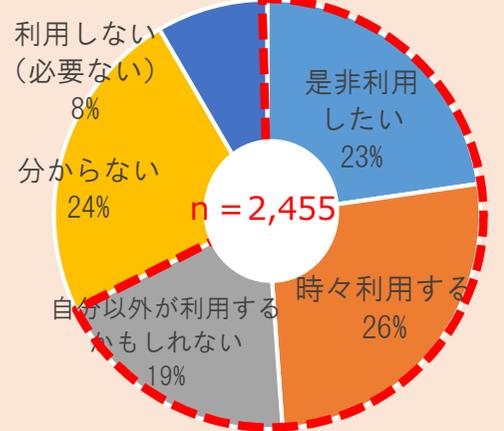
※複数回答

JR予讃線通学利用

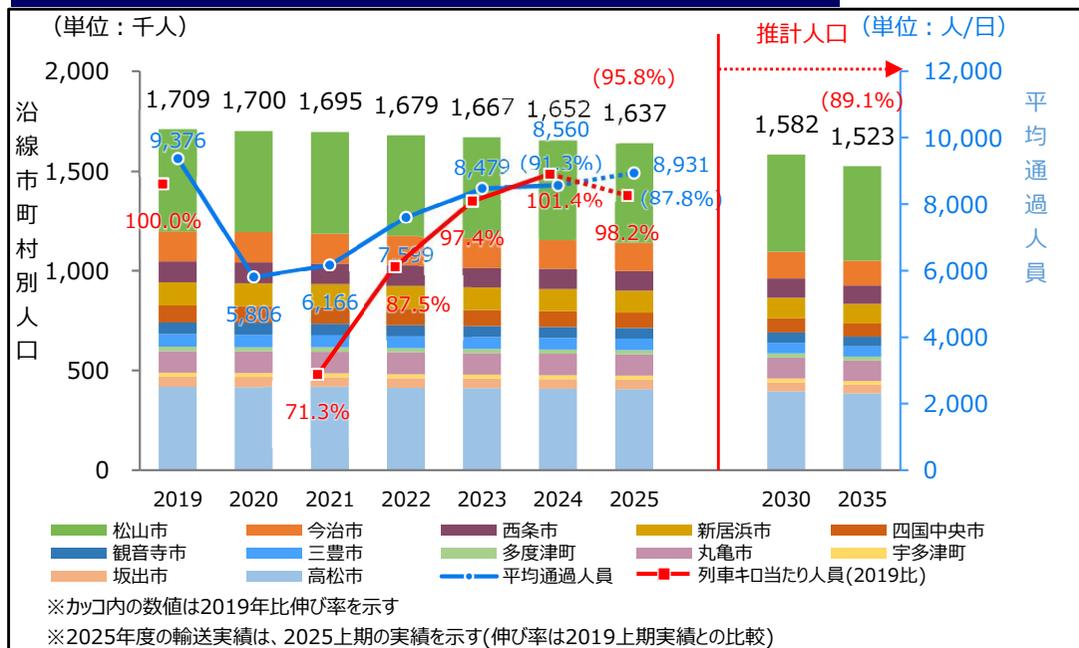


沿線高校生ニーズ

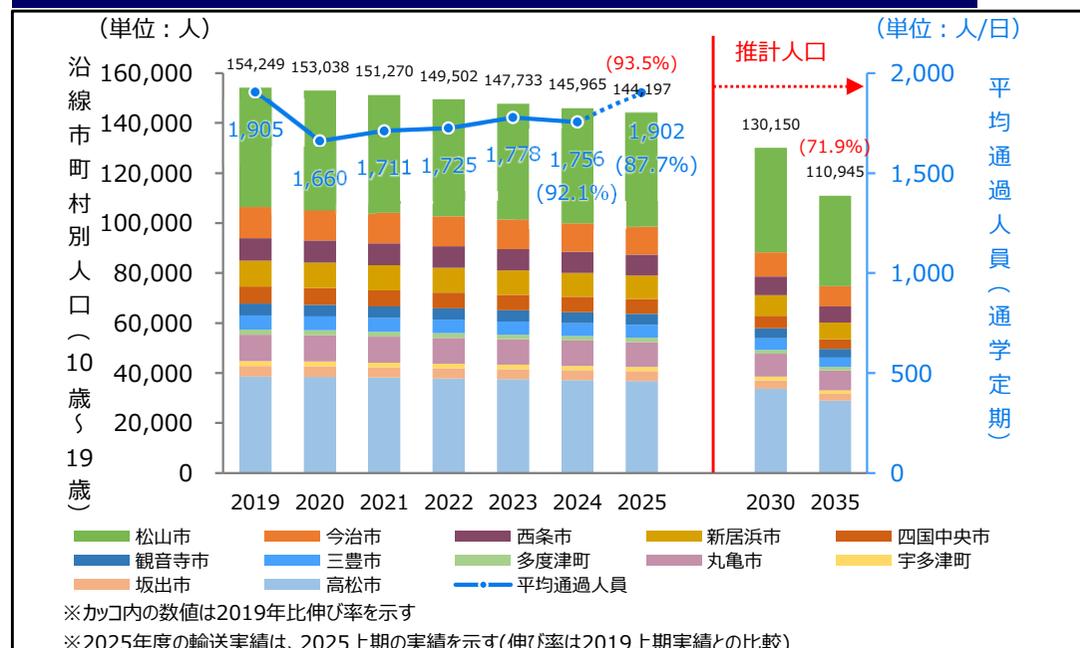
モーダルミックスの取組が実施された場合の利用意向



沿線人口および基本指標・関連指標の推移



沿線人口（10～19歳）および通学定期利用の推移



各項目の分析・検証

◆取組内容

- ・主要駅周辺整備の進展、目的地となる施設整備により、ご利用が回復
- ・タクシーと連携したMaaSの推進にチャレンジし、一定のニーズを確認
- ・地域と連携した駅舎等整備により、地域の拠点として利活用するとともに、駅待合環境を改善
- ・利用促進効果は限定的であるが、観光施設等と連携した需要創出を推進
- ・「THE ROYAL EXPRESS」の運行など地域ブランドの向上に貢献

◆基本指標／関連指標

- ・平均通過人員は12%減少（未達）、1列車当たりの利用人員も2%減少（未達）
- ・平均通過人員は定期、定期外ともに12%減少したが、高松～宇多津駅間では定期外が2019年度と同レベルにまで回復し、新居浜～伊予西条駅間では定期が5%増加
- ・駅間平均通過人員は4,700～27,000人/日で、本四備讃線のご利用が含まれる高松～宇多津間はほぼ25,000人/日を超えているが、沿線人口は減少が進んでおり、特に通学定期利用層は急激に減少が進む見込み

◆沿線住民、利用者等の利用実態・ニーズ等

- ・6割（62%）の方が非日常利用も含めてJRを全く使っておらず、使っている方でも8割程度（78%）が利用頻度は年2～3回以下と非常に少ない
- ・JRを使わない理由では「自家用車の方が自由度が高い」「自宅から駅が遠い」など、2次交通を含め、利便性の低さに対する意見が多い
- ・JRを利用している方は8割程度（79%）、利用していない方でも半数程度（48%）が予讃線は重要と思っている
- ・重要と思う理由では「無くなると地域が寂れる」が最も多く、次いで「観光客・高齢者等のため」「将来使うかもしれない」など、地域の足としての役割に加え、特に地域のシンボルとしての役割や自家用車が運転できなくなった場合の代替移動手段としての役割に対する意見が多い

◆沿線高校生の利用状況・ニーズ等

- ・通学で予讃線をほぼ毎日使う高校生は3割程度（29%）で、6割（62%）は全く使っていない
- ・鉄道とバスのモーダルミックスに対する利用意向は自分以外も含め7割程度（68%）と非常に高い

特徴的な取組内容と効果・検証

◆ 利便性向上

○ 卯之町駅周辺整備

卯之町「はちのじ」まちづくり整備事業

- ・卯之町駅舎、駅前複合施設、駅前広場、自由通路等を一体的に整備
- 2022.11.5 駅舎新築工事を西予市が施工し、供用開始



- ◎ 主要駅周辺のまちづくり（複合施設等一体整備）により賑わい創出
- ◎ 自由通路の整備により地域の回遊性・一体性が向上するとともに、歩行者の安全性・利便性を向上

○ 南予観光型MaaS実証実験

「えひめいやしの南予デジタルフリーパス」内で、JR四国、伊予鉄南予バス、宇和島自動車が連携した「南予全域フリーパス」「内子・大洲町並散策1日パス」を発売

	総発売枚数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
2022年度	166枚	+0.9人	約1,000千円

- ◎ 観光利用における移動の利便性向上
- ◎ 官民連携の促進
- 移動データの可視化
- ▲ 採算性と持続可能性に課題

*基本指標貢献度は松山⇄宇和島を利用したものとして試算、増収効果はフリーパスの価格から試算



○ 駅、車両環境整備

- ・ 2022.2伊予大洲駅案内サインの多言語化
- ・ 2000系車両の車内案内表示器の多言語化
※2022年度 2000系全量産型に導入
- ・ N2000系のトイレの洋式化整備
※2021年度3両、2024～2025年度3両整備
- ◎ インバウンド増加を見据えた満足度向上、トラブル防止
- ◎ 高齢者や体に不自由のある方への対応強化



○ チケットアプリ（スマえき）の展開

定期券（通勤・通学）利用者数 ※松山、八幡浜、宇和島発着の定期券利用者数（一日平均）

	アプリ利用者数	全利用者数	アプリ定期券移行率
2023年度	101人	4,027人	3%
2024年度	567人	3,888人	15%
2025上期	1,073人	4,060人	26%

特徴的な取組内容と効果・検証

◆利用促進

○観光列車「伊予灘ものがたり」の定期区間外運行

- ・「えひめ南予きずな博」と連携し、「伊予灘ものがたり南予きずな旅」として伊予灘ものがたり（初代）の定期運転区間外特別運行
※伊予大洲駅～宇和島駅間（2021.12）
- ・「卯之町歴史探訪の旅」として、「2代目伊予灘ものがたり」初の定期運転区間外運行
※松山駅～卯之町駅間（2022.8.30）
- ・「伊予灘ものがたり南予きずな旅～愛媛南予きずな博イベント列車～」
※伊予大洲～宇和島間（2022.12.24,25）
- ・以降、イベント等に合わせた伊予大洲～宇和島駅間などを運行



	ツアー名	利用者数	基本指標 貢献度
2021年度	伊予灘ものがたり南予きずな旅	88人	+0.1人
2022年度	卯之町歴史探訪の旅	104人	+0.2人
	伊予灘ものがたり南予きずな旅～愛媛南予きずな博イベント列車～	100人	+0.1人

◎沿線自治体等関係者との連携強化

○普段運転しない区間での観光列車運行による利用促進効果

▲一時的なイベント集客であり、基本指標への寄与は限定的

○松山中央公園（市坪駅）でのイベント開催に合わせた臨時列車の運行

プロスポーツやコンサート等イベント開催日に松山～市坪駅間臨時列車の運行や特急宇和海の市坪駅臨時停車を実施

	利用者数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
2021年度	5,098人	+0.5人	約1,000千円
2022年度	24,958人	+2.5人	約5,200千円
2023年度	7,170人	+0.7人	約1,700千円
2024年度	18,428人	+1.8人	約4,400千円
2025上期	8,788人	+1.7人	約2,100千円

*松山⇒市坪を利用したものとして試算

◎会場周辺の渋滞対策や観戦（鑑賞）後の足の確保

○イベント開催時の移動手段ではなく日常の移動手段としての認知度向上

▲一時的なイベント集客であり、基本指標への寄与は限定的

○「内子・大洲町並散策1日パス」発売

歴史的な町並で情緒あふれる愛媛県内子町と大洲市散策に便利な企画乗車券（施設の割引などの特典もあり）、近隣のホテル等でも購入可能

	総発売枚数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
2021年度	678枚	+1.9人	約1,800千円
2022年度	1,040枚	+2.9人	約2,700千円
2023年度	5,775枚	+15.9人	約17,400千円
2024年度	13,615枚	+37.6人	約48,000千円
2025上期	5,602枚	+30.8人	約22,000千円

*基本指標貢献度は松山⇄伊予大洲を利用したものとして試算、増収効果はパスの価格から試算

◎インバウンドを中心に発売枚数が増加傾向

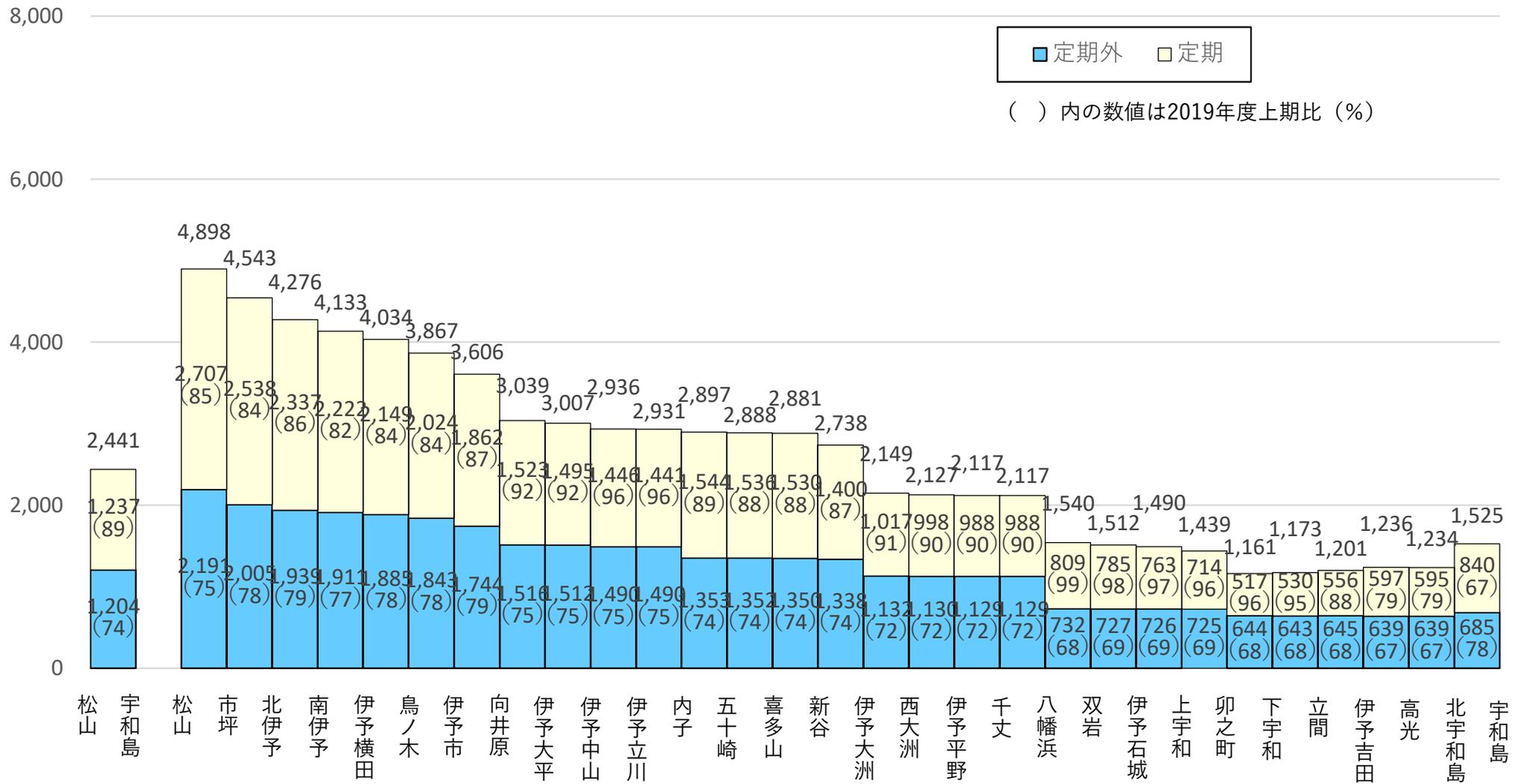
◎Klookでも購入可能なため、今後更にインバウンド訴求を期待

◎クーポン付与により沿線施設の需要拡大に貢献

○基本指標への寄与も他の企画乗車券に比べて高い

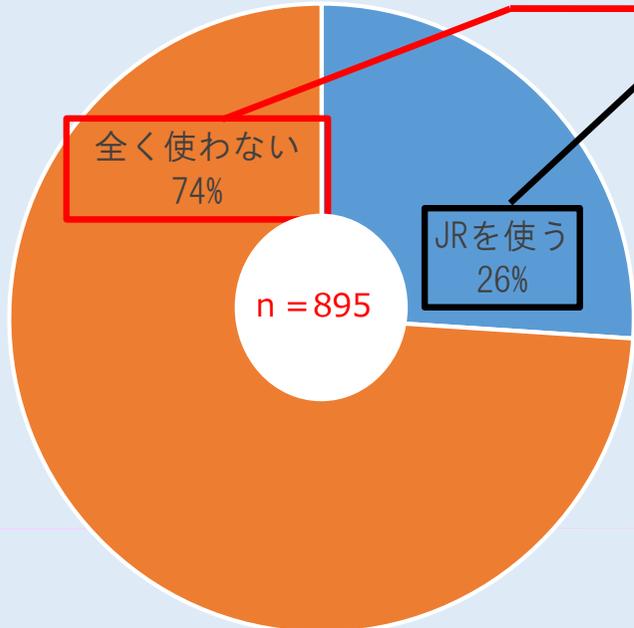
予讃線（松山～宇和島）の駅間平均通過人員

● 平均通過人員（2025年度上期実績）：営業キロ1km当たりの1日平均旅客輸送人員（人/日）

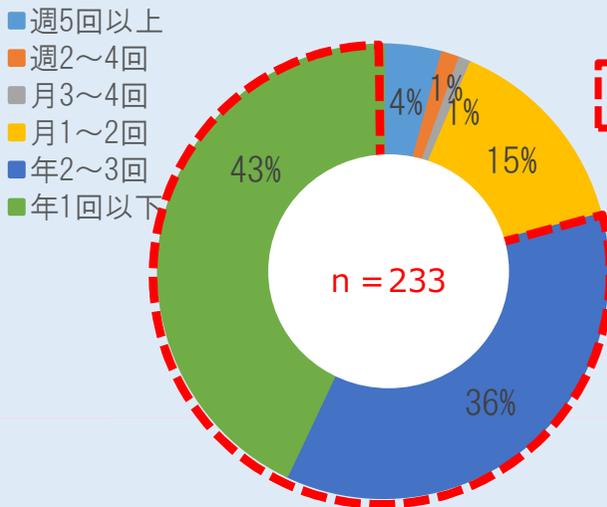


※端数処理により、合計値が合わない場合がある。

非日常利用も含めたJR予讃線の利用状況



JR予讃線の利用頻度

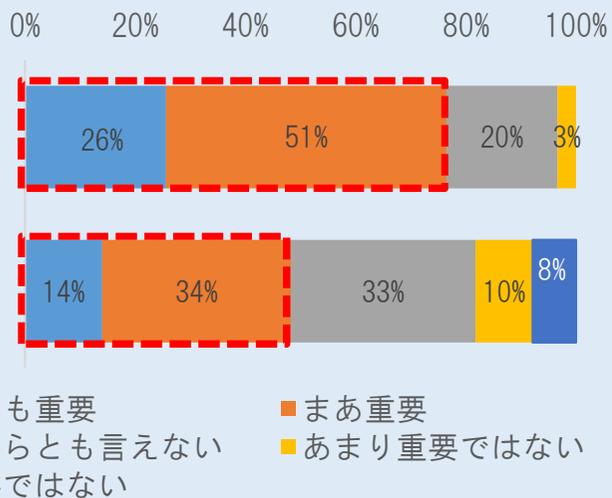


JR予讃線を全く使わない理由TOP5(662件中)



沿線住民ニーズ

JR予讃線の重要度認識(895件中)

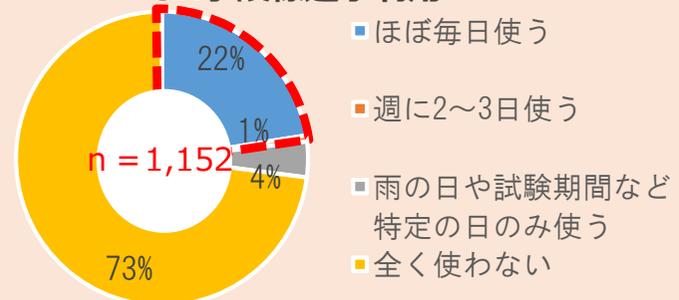


JR予讃線が重要だと思う理由TOP5(499件中)

- ・無くなると地域が寂れる 285件 (57%)
- ・観光客のため 234件 (47%)
- ・高齢者や体の不自由な方のため 211件 (42%)
- ・将来使うかもしれない 198件 (40%)
- ・通勤、仕事のため 116件 (23%)

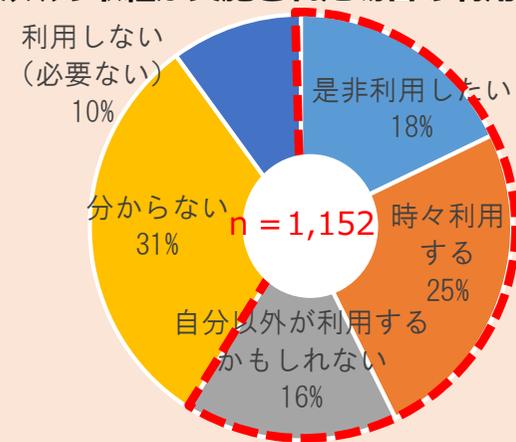
※複数回答

JR予讃線通学利用

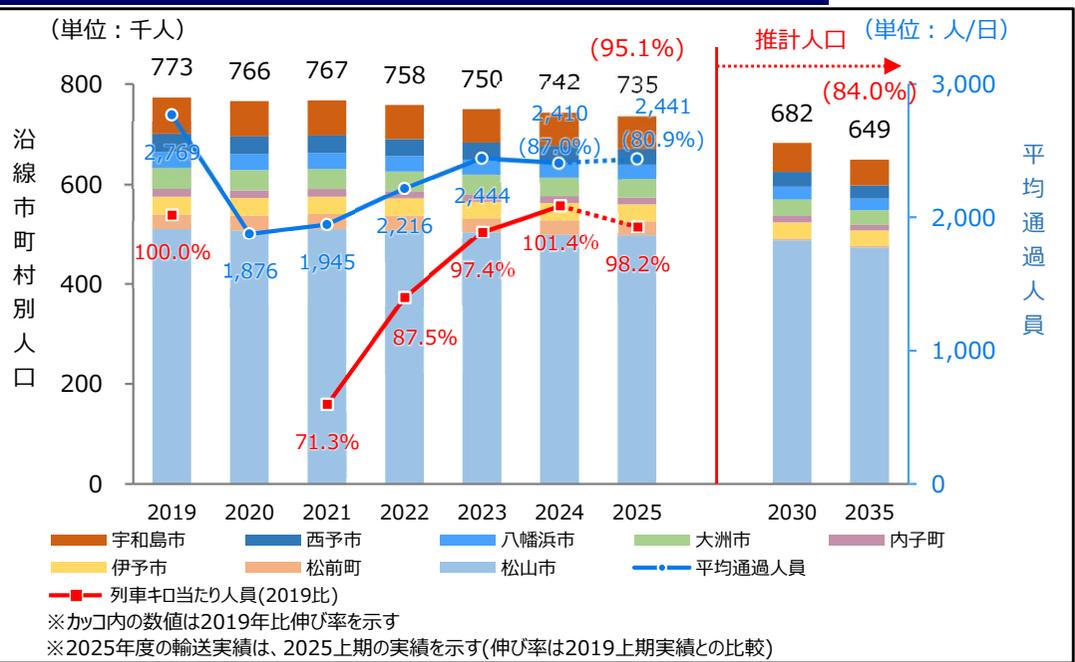


沿線高校生ニーズ

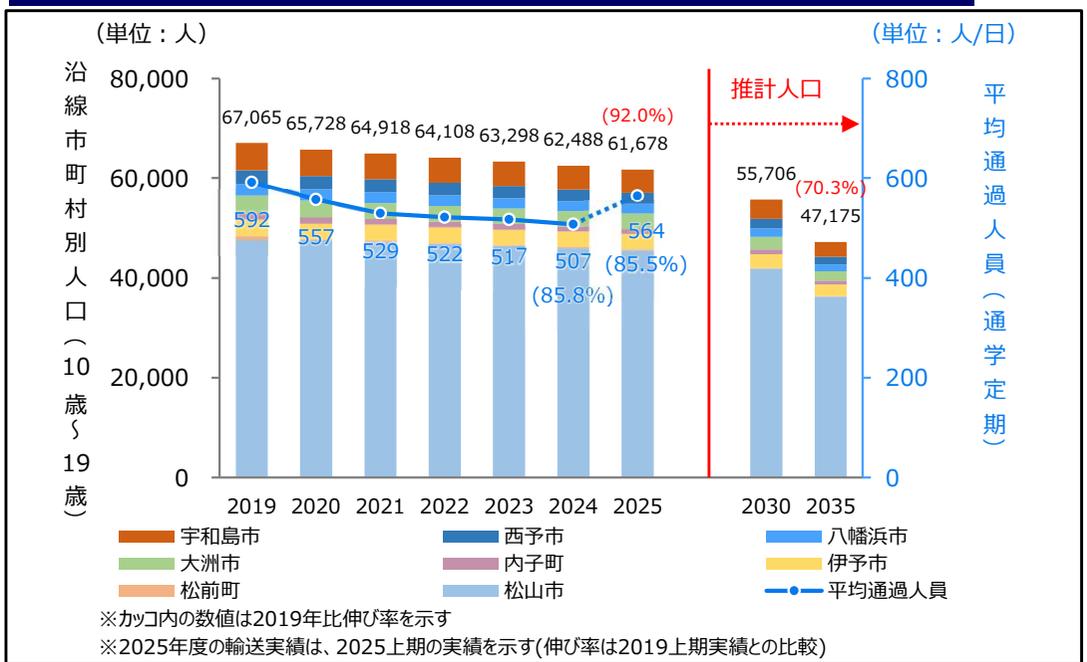
モーダルミックスの取組が実施された場合の利用意向



沿線人口および基本指標・関連指標の推移



沿線人口（10～19歳）および通学定期利用の推移



各項目の分析・検証

- ◆ **取組内容**
 - ・ 駅周辺の一体的な整備により、利便性向上及びにぎわい創出を実現
 - ・ 大幅な利用増には至らなかったが、自治体によるMaaS実証事業に参画
 - ・ インバウンド補助金を活用し、利用環境等の整備を推進
 - ・ 利用促進効果は限定的であるが、観光列車の定期区間外運行にチャレンジ
 - ・ インバウンドを中心に、観光資源を活かした企画乗車券の利用が逡増
- ◆ **基本指標／関連指標**
 - ・ 平均通過人員は19%減少（未達）、1列車当たりの利用人員も2%減少（未達）
 - ・ 平均通過人員は定期で11%、定期外で26%と定期外が大幅に減少
 - ・ 定期では減少率が低い駅間もあるが、定期外は全線で一様に減少
 - ・ 駅間平均通過人員は1,200～4,900人/日で、松山駅から宇和島駅に向かうにつれてご利用が漸減
 - ・ 沿線人口も減少が進んでおり、特に通学定期利用層は急激に減少が進む見込み

- ◆ **沿線住民、利用者等の利用実態・ニーズ等**
 - ・ 7割（74%）の方が非日常利用も含めてJRを全く使っておらず、使っている方でも8割程度（79%）が利用頻度は年2～3回以下と非常に少ない
 - ・ JRを使わない理由では「自宅から駅が遠い」「自家用車の方が自由度が高い」など、2次交通を含め、利便性の低さに対する意見が多い
 - ・ JRを利用している方は8割程度（77%）、利用していない方でも半数程度（48%）が予讃線は重要と思っている
 - ・ 重要と思う理由では「無くなると地域が寂れる」が最も多く、次いで「観光客・高齢者等のため」「将来使うかもしれない」など、地域の足としての役割に加え、特に地域のシンボルとしての役割や自家用車が運転できなくなった場合の代替移動手段としての役割に対する意見が多い
- ◆ **沿線高校生の利用状況・ニーズ等**
 - ・ 通学で予讃線をほぼ毎日使う高校生は2割（22%）で、7割（73%）は全く使っていない
 - ・ 鉄道とバスのモーダルミックスに対する利用意向は自分以外も含め6割程度（59%）と高い

予讃海回り線（向井原～伊予大洲）の取組

特徴的な取組内容と効果・検証

◆ 利便性向上

○ 大洲市におけるモーダルミックス実証実験の実施

2025.7.7～2026.2.27

予讃海回り線伊予長浜～伊予大洲間を有効区間とするJR定期券で、並行運行する伊予鉄南予バス（長浜駅前～大洲駅前）を無料で利用できる取組

※地域公共交通再構築調査事業を活用



上期延利用人員	人/日	増便効果*	(参考) 増便効果金額換算*
172	3.1	8本	約1,925千円相当

*伊予長浜～伊予大洲のバス上下本数

*バス増便の総走行距離に対し、鉄道運行経費を基準単価として仮想的に換算

- ◎ JR乗車券類で並行路線バスを利用可能とすることで**実質的な増便効果**
- ◎ **輸送資源の総動員**による効率的な移動サービスの提供
- ▲ 定期利用者に限定した取組であり、大幅な利用増にはつながらない

○ 沿線小学校の下校時刻を意識したダイヤ設定

校区外通学が盛んな沿線小学校の下校時刻に合わせて最寄りの伊予上灘駅の時刻を設定

伊予上灘発着通学定期（小中）の推計人数				
2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025上期
15人	12人	14人	18人	17人

○ チケットアプリ（スマえき）の展開

定期券（通勤・通学）利用者数 ※伊予上灘、伊予長浜発着の定期券利用者数（一日平均）

	アプリ利用者数	全利用者数	アプリ定期券移行率
2023年度	2人	160人	1%
2024年度	17人	159人	11%
2025上期	22人	148人	15%

◆ 利用促進

○ 下灘駅における観光利用者向け物品販売

2023.9～10地元住民団体等と連携した実証販売実施

来駅の思い出を彩るとともに更なる地域活性化を目的に土休日を中心に下灘商店（(一社)いよのミライカイギ）が継続実施



- ◎ 下灘駅限定グッズ（8種類）販売によるホスピタリティ向上
- ◎ 下灘駅のイメージアップ
- ◎ 地元への経済効果

○ 観光列車「伊予灘ものがたり」による観光振興

地域の方と一体でのおもてなし

周年イベント、〇万人乗車達成記念、沿線地域招待等様々な取組を展開

2021.4～2025.3まで延べ89千人のご利用があり、平均乗車率は85%



	乗車人員	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
2021年度	13,955人	+38.2人	約27,000千円
2022年度	26,245人	+71.9人	約96,000千円
2023年度	24,638人	+67.3人	約93,000千円
2024年度	24,068人	+65.9人	約96,000千円
2025上期	12,232人	+66.8人	約49,000千円

*松山⇒伊予大洲を利用したものとして試算

予讃海回り線（向井原～伊予大洲）の取組

特徴的な取組内容と効果・検証

◆利用促進

○「サイクルトレイン愛ある伊予灘号」の運行

	利用台数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
2021年度	63台	+0.2人	約80千円
2022年度	58台	+0.2人	約70千円
2023年度	22台	+0.1人	約30千円
2024年度	27台	+0.1人	約40千円
2025年度 10/18,25 ,11/2	76台	+0.2人	約110千円

*松山⇒伊予大洲を利用したものと試算

- 非利用層（サイクリスト）の取り込み
- 自治体事業（愛ある伊予灘サイクルトレイン利用促進協議会）との連携
- ▲訴求範囲が狭く、基本指標への寄与は限定的
- ▲継続に向けては利用台数の増加に向けた改善方策の検討が必要



○「夕焼けビールトロッコ」の運行

藍よしのがわトロッコの車両を使用し、松山～伊予長浜駅間を往復オープニングセレモニー運転を開催し、長浜町商工会による物販、沿線高校水族館部によるおさかなクイズを実演

- ◎非日常空間の提供による本源需要層の取り込み
- 自治体事業との連携
- ▲一時的なイベント集客であり、基本指標への寄与は限定的

	利用者数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
2023年度 (延25日運行)	1,140人	+3.7人	約9,000千円
2024年度 (延8日運行)	429人	+1.4人	約3,500千円
2025年度 (延14日運行)	748人	+2.5人	約7,000千円

*増収効果は旅行代金を基に試算
*松山⇄伊予長浜を利用したものと試算



○夕焼けプラットホームコンサートの開催

2023.9.2、2024.9.7、2025.9.6下灘駅にて開催

- ◎自治体との連携による機運醸成と下灘駅のイメージアップ
- 駅空間の活用
- ▲一時的なイベント集客であり、基本指標への寄与は限定的

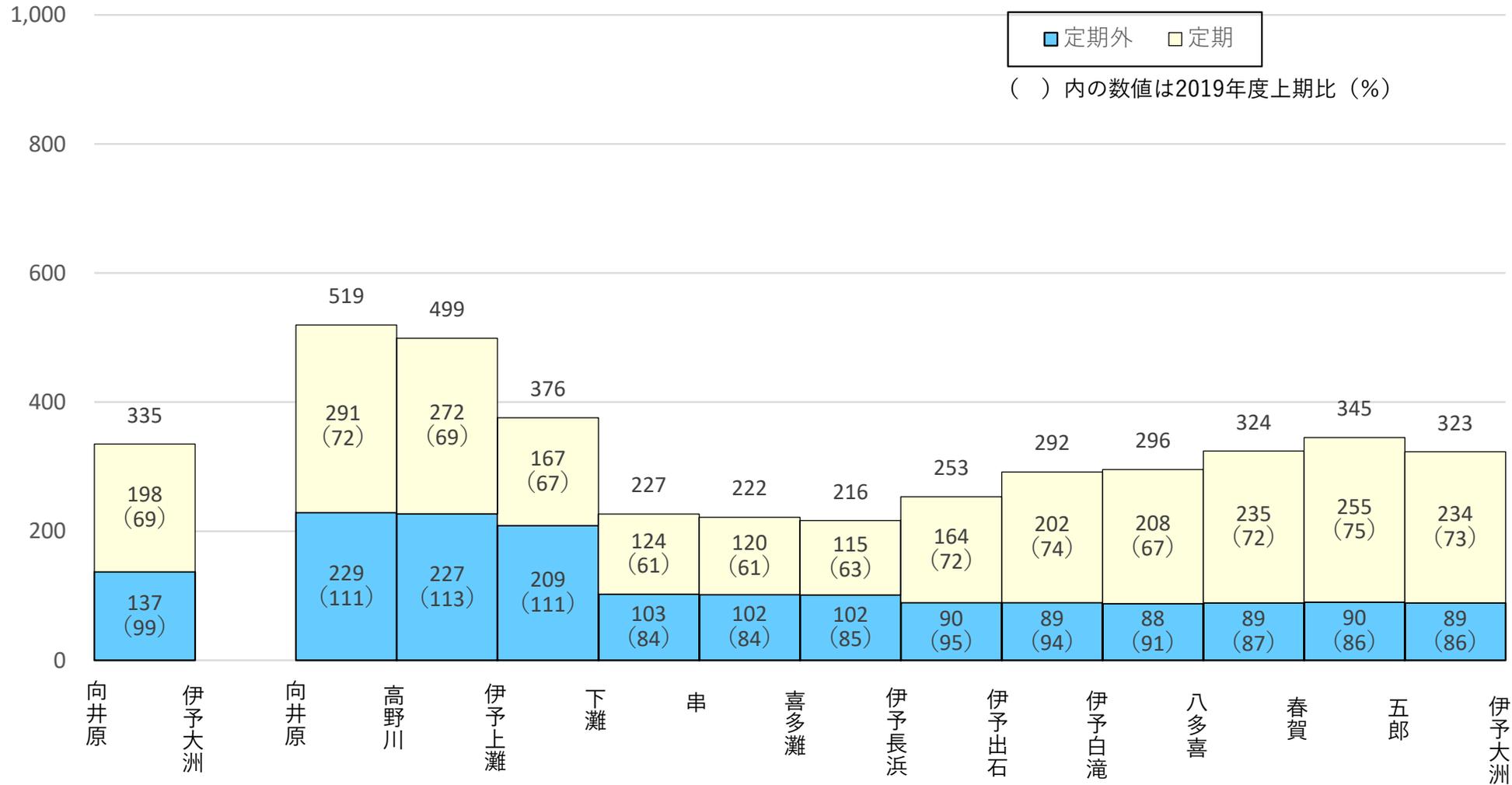
	観客動員数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
2023年度	約500人	+0.2人	約90千円
2024年度	約500人	+0.2人	約90千円
2025年度	約200人	+0.1人	約45千円

*100名（2025年度は50名）が伊予市⇄下灘利用したものと試算



予讃海回り線（向井原～伊予大洲）の駅間平均通過人員

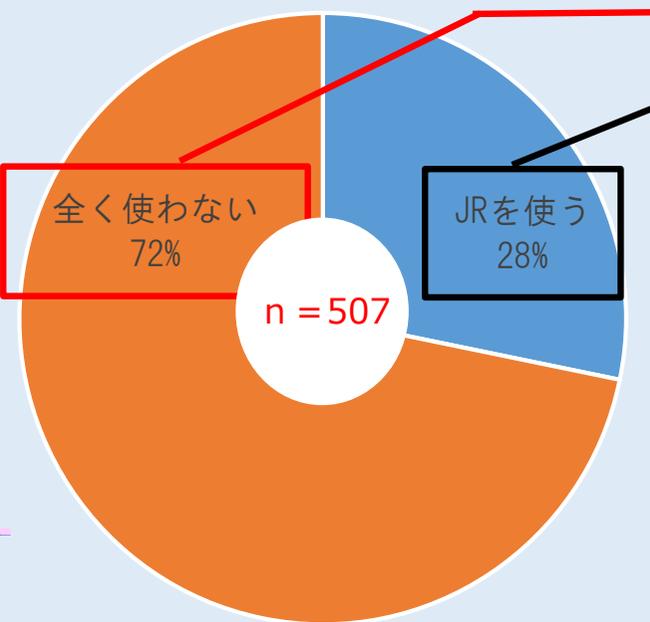
● 平均通過人員（2025年度上期実績）：営業キロ1km当たりの1日平均旅客輸送人員（人/日）



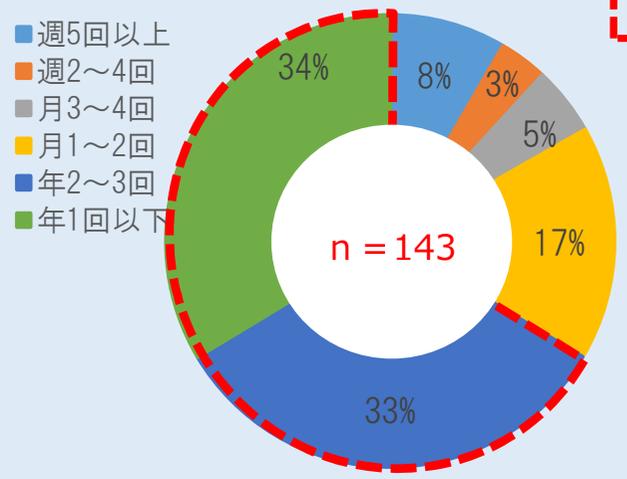
※端数処理により、合計値が合わない場合がある。

予讃海回り線（向井原～伊予大洲）の調査結果（抜粋）

非日常利用も含めたJR予讃海回り線の利用状況



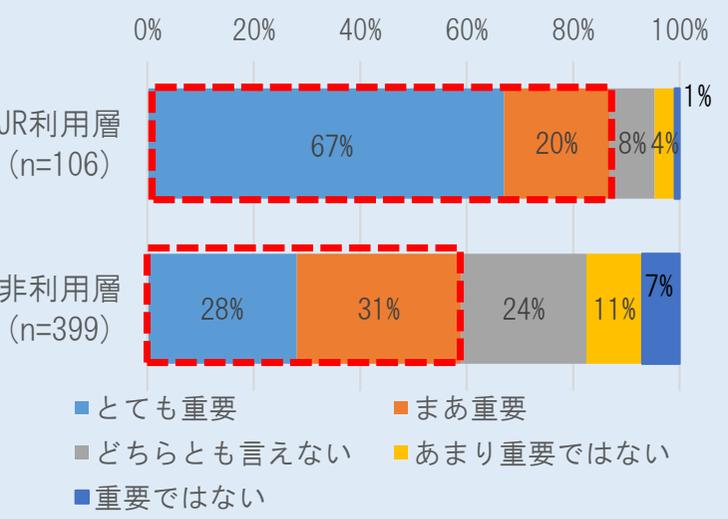
JR予讃海回り線の利用頻度



JR予讃海回り線を全く使わない理由TOP5(351件中) ※複数回答



JR予讃海回り線の重要度認識(505件中)

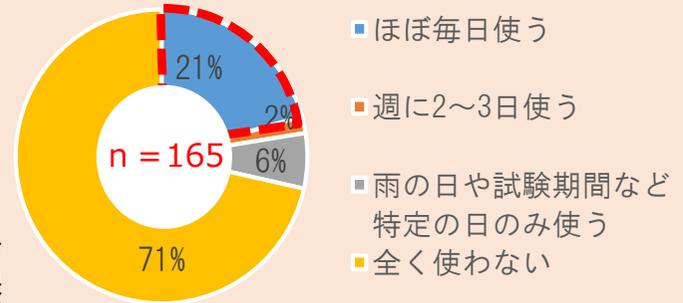


JR予讃海回り線が重要だと思ふ理由TOP5 (327件中)

- ・高齢者や体の不自由な方のため 200件 (61%)
- ・無くなると地域が寂れる 185件 (57%)
- ・通学のため 153件 (47%)
- ・観光客のため 143件 (44%)
- ・将来使うかもしれない 127件 (39%)

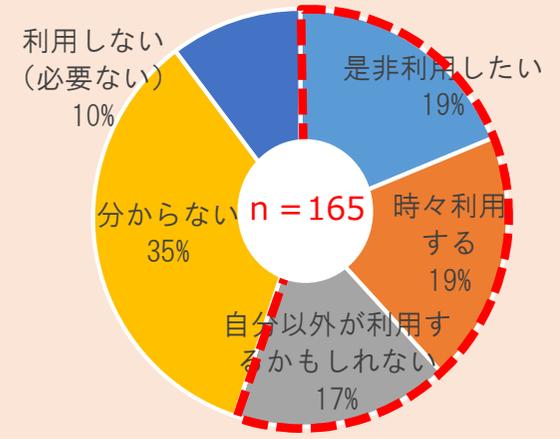
※複数回答

JR予讃海回り線通学利用

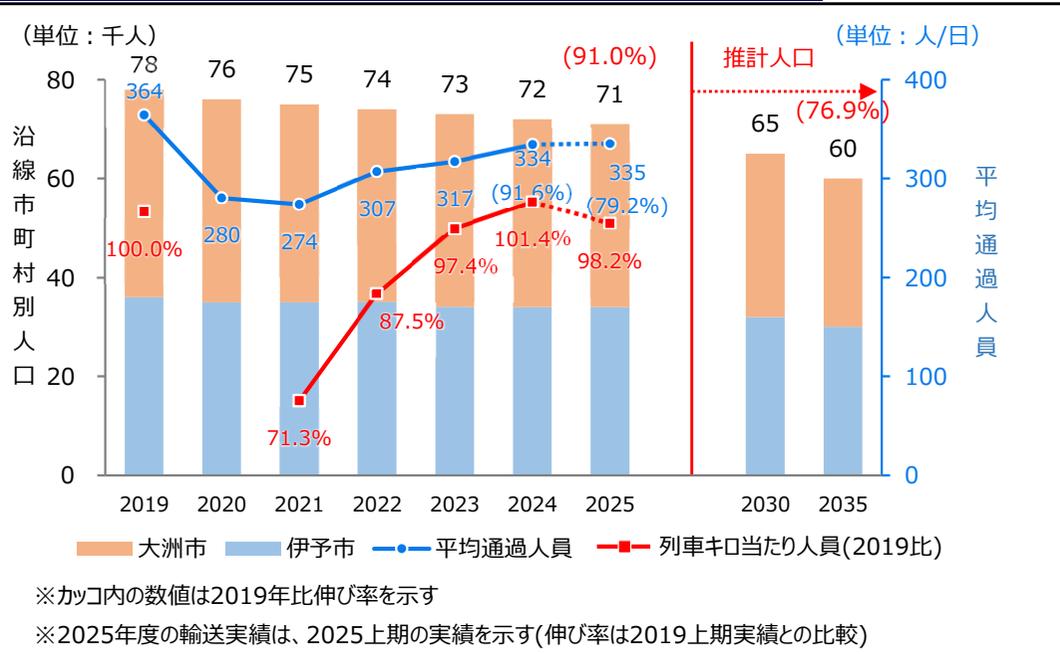


沿線高校生ニーズ

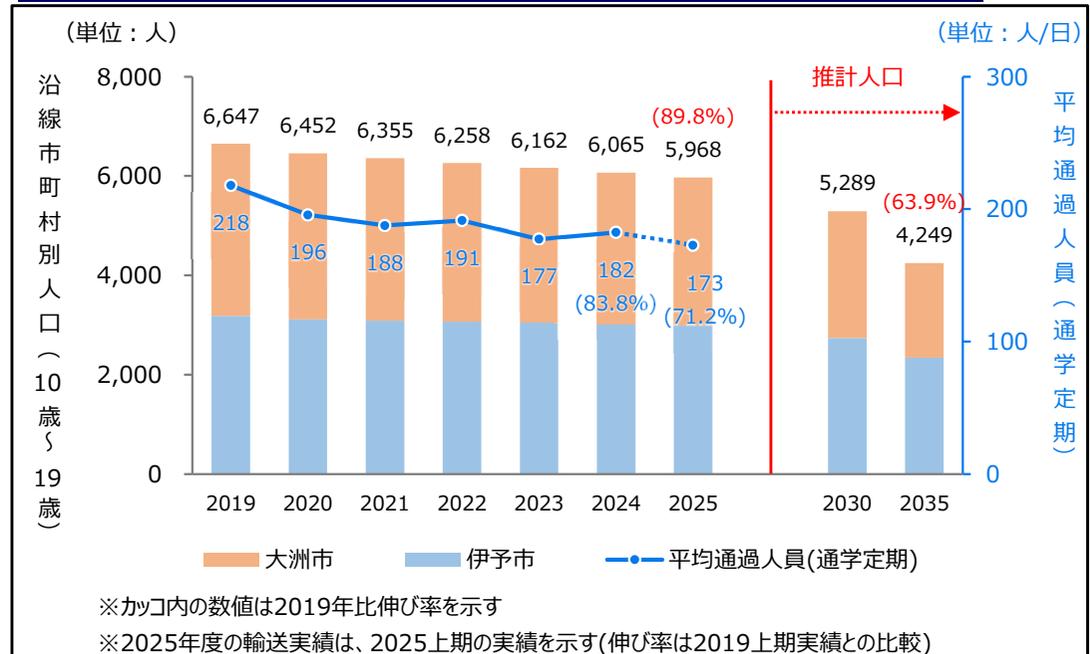
モーダリティの取組が実施された場合の利用意向



沿線人口および基本指標・関連指標の推移



沿線人口（10～19歳）および通学定期利用の推移



各項目の分析・検証

◆取組内容

- ・モーダルミックスの実証実験を実施し、定期利用の利便性を向上
- ・利用促進効果は限定的であるが、自治体事業と連携した観光資源の有効活用にチャレンジ
- ・観光列車は高い乗車率を維持し、地域主体のおもてなしは観光列車のブランディングに大きく貢献

◆基本指標/関連指標

- ・平均通過人員は21%減少（未達）、1列車当たりの利用人員も2%減少（未達）
- ・平均通過人員は定期が31%と大幅に減少した一方、定期外は1%の減少に留まり、特に向井原～下灘駅間ではインバウンド需要等により定期外が11～13%と大幅に増加
- ・駅間平均通過人員は200～500人/日で、全線にわたってご利用が非常に少ない
- ・沿線人口も減少が加速しており、特に通学定期利用層は大幅に減少する見込み

◆沿線住民、利用者等の利用実態・ニーズ等

- ・7割（72%）の方が非日常利用も含めてJRを全く使っておらず、使っている方でも7割程度（67%）が利用頻度は年2～3回以下と非常に少ない
- ・JRを使わない理由では「自家用車の方が自由度が高い」など、利便性の低さに対する意見が多い
- ・JRを利用している方は9割程度（87%）、利用していない方でも6割程度（59%）が予讃海回り線は重要と思っている
- ・重要と思う理由では「高齢者等のため」が最も多く、次いで「無くなると地域が寂れる」「通学・観光客のため」「将来使うかもしれない」など、地域の足としての役割に加え、地域のシンボルや自家用車が運転できなくなった場合の代替移動手段としての役割に対する意見も多い

◆沿線高校生の利用状況・ニーズ等

- ・通学では予讃海回り線をほぼ毎日使う高校生は2割（21%）で、7割（71%）は全く使っていない
- ・鉄道とバスのモーダルミックスに対する利用意向は自分以外も含め6割近く（55%）と高い

高德線（高松～徳島）の取組

特徴的な取組内容と効果・検証

◆ 利便性向上

○ 東かがわ市モーダルミックス推進事業の実施

- 2024.4.1～東かがわ市モーダルミックス推進事業として、高德線三本松～引田駅間を有効区間とするJR通学定期券で、並行運行する大川バス引田線（三本松～引田）を無料で利用できる取組を実装
- 通学支援を目的に、東かがわ市、大川バスが正規のバス運賃を按分負担



2024年度利用人員	人/日	増便効果*	(参考) 増便効果金額換算*
932人	2.6	32本	約40,000千円相当

*三本松～引田（平日）のバス上下本数
*バス増便の総走行距離に対し、鉄道運行経費を基準単価として仮想的に換算

- ◎ JR通学定期で並行路線バスを利用可能とすることで**実質的な増便効果**
- ◎ **輸送資源の総動員**による効率的な移動サービスの提供
- バス交通の認知度および持続可能性向上
- ▲ 通学定期利用者に限定した取組であり、大幅な利用増にはつながらないものの通学利便性の向上により、中長期的に定期利用者増を期待

○ さぬき市におけるモーダルミックスによる利便性向上実証実験

- 2022.10.5～1.31
JR高德線の志度駅、造田駅からコミュニティバス（志度-造田-多和線）へ乗継ぐ利用者を対象にバス運賃を減額（香川県公共交通燃料高騰・利用回復対策事業費補助金を活用）



- 四国霊場88番札所への遍路利用を中心に延115名利用
- ▲ 観光利用に対する周知不足もあり、ご利用の増加にはつなげっていない

○ 徳島駅におけるタクトダイヤ導入

2024.3.16～徳島駅の到着・発車時間帯を統一
各路線をパターンダイヤ化したうえで、徳島駅での乗換え利便性を向上

直通線区	2023年春改正	2024年春改正	効果*
高德線⇔牟岐線	3本	7本	+4本
徳島線⇔牟岐線	5本	20本	+15本
鳴門線⇔牟岐線	3本	3本	±0本
計	11本	30本	+19本

*タクトダイヤ導入前後の徳島駅における線区直通列車（乗換え不要）設定の変化

○ 引田駅新駅舎の整備

2025.3.28 東かがわ市との連携により、
公衆トイレ、待合所等整備

- ◎ 待合環境改善による利便性向上
- ◎ 地域の拠点としての魅力向上
- 維持管理コストの削減



○ チケットアプリ（スマえき）の展開

定期券（通勤・通学）利用者数 ※栗林、勝瑞、徳島発着の定期券利用者数（一日平均）

	アプリ利用者数	全利用者数	アプリ定期券移行率
2023年度	174人	5,164人	3%
2024年度	880人	4,999人	18%
2025上期	1,317人	5,313人	25%

高德線（高松～徳島）の取組

特徴的な取組内容と効果・検証

◆利用促進

○「ゆうゆうアンパンマンカー」運行による観光振興

	利用者数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
2021年度	2,545人	+14.0人	約16,000千円
2022年度	3,181人	+17.4人	約20,000千円
2023年度	2,720人	+14.9人	約18,000千円

*高松⇄徳島を利用したものとして試算
 ※高德線での運行は2024年3月をもって終了



2021.10.30東かがわ市教育委員会等との連携により、三本松駅停車時、ハロウィン仮装でお見送りを実施



- ◎土休祝日を中心とした定期運行により、認知度・路線価値向上
- ◎子供世代へのアプローチにより、親世代、祖父母世代にも波及
- ▲旧型車両のため、パターンダイヤ化に支障→運行終了

○アンパンマントロッコクリスマスツアー

臨時列車として高松～徳島駅間のアンパンマントロッコ乗車や、JRホテルクレメント徳島での昼食がセットになった特別ツアー



	利用者数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
2022年度	193人	+1.1 人	約1,400千円
2023年度	193人	+1.1 人	約1,500千円
2024年度	36人	+0.2 人	約 350千円

*基本指標貢献度は高松⇄徳島を利用したものとして試算、増収効果はツアーの価格から試算

○公共交通リレーシンポジウムの開催

地域住民が交通サービスについて考えるきっかけとするため、2022年度徳島県内3圏域で開催（県東部：徳島市）



○第22回「日本鉄道賞」における「表彰選考委員会による特別賞」受賞

東讃地区の実証実験を含む「公共交通ネットワークの四国モデル追求に向けた鉄道とバスの連携施策」が、あらゆる方面からの協調・連携による「ローカル鉄道の生き残り戦略」として評価され、特別賞を受賞



◎モーダルミックスの全国的な情報発信

○公共交通利用促進イベントの開催

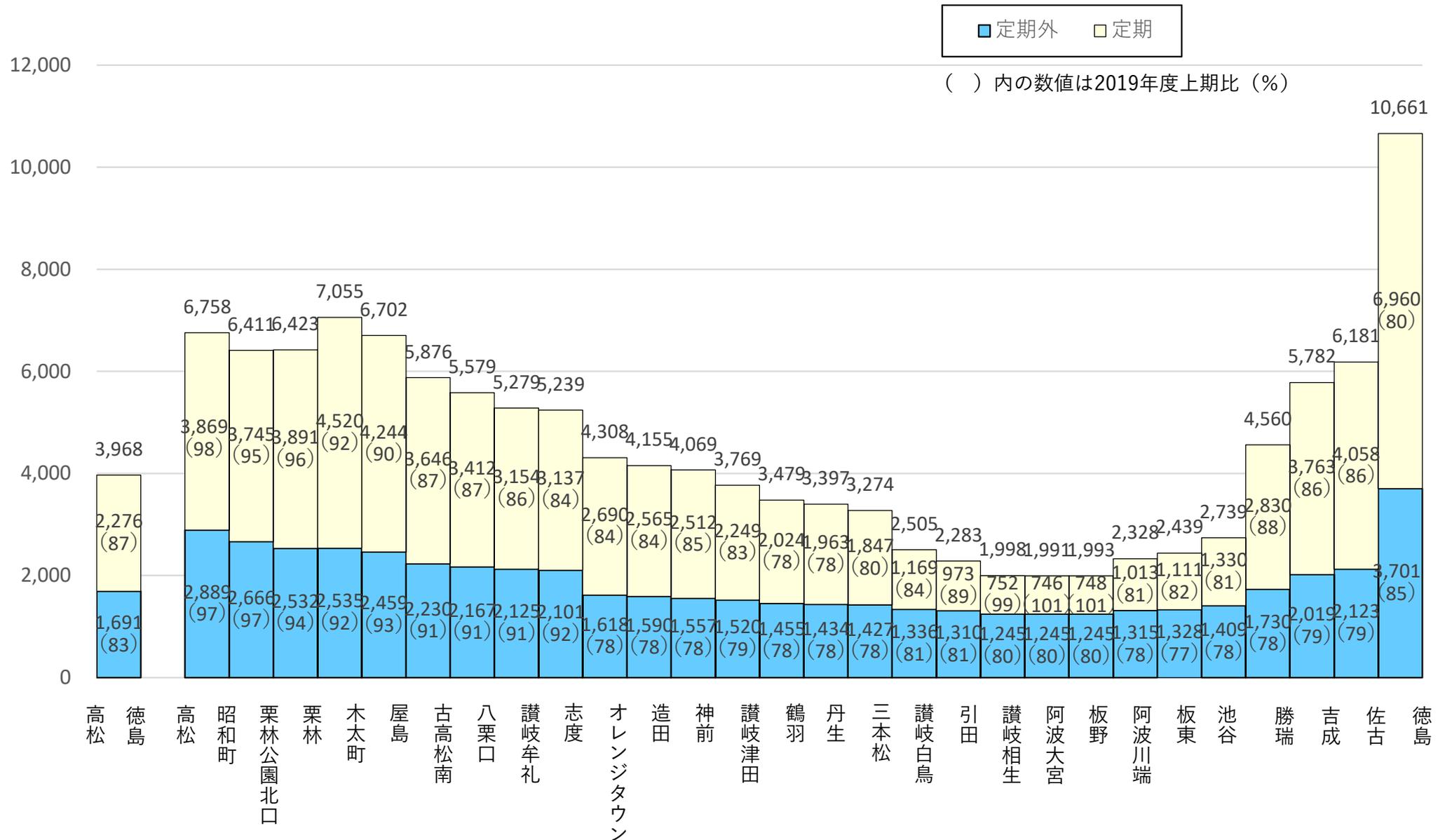
- ・2022.10.15四国まるごと公共交通利用促進キャンペーン 於:イオンモール綾川（香川県）東讃地区モーダルミックス実証実験のPR等
- ・2023.10.14鉄道の日イベントの開催 親子で行く鉄道施設見学会 於:徳島運転所
- ・2024.3.3乗って応援!!みんなの乗り物GOGOキャンペーン! 於:イオンモール徳島（徳島県）
- ・2024.10.20 徳島市立図書館主催の「四国・徳島の鉄道をもっと知ろう2024」に協力 車両の運転席・運賃箱の説明や車内放送体験、駅改札の業務見学や券売機でのきっぷの買い方などを体験



- ◎地域等関係者と一体となった利用促進の機運醸成
- ◎大型ショッピングセンター等での開催により、非利用層への訴求力強化

高德線（高松～徳島）の駅間平均通過人員

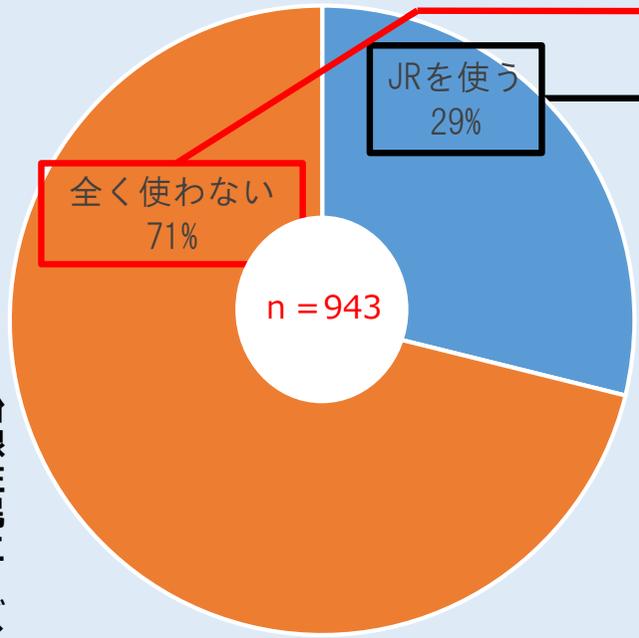
● 平均通過人員（2025年度上期実績）：営業キロ1km当たりの1日平均旅客輸送人員（人/日）



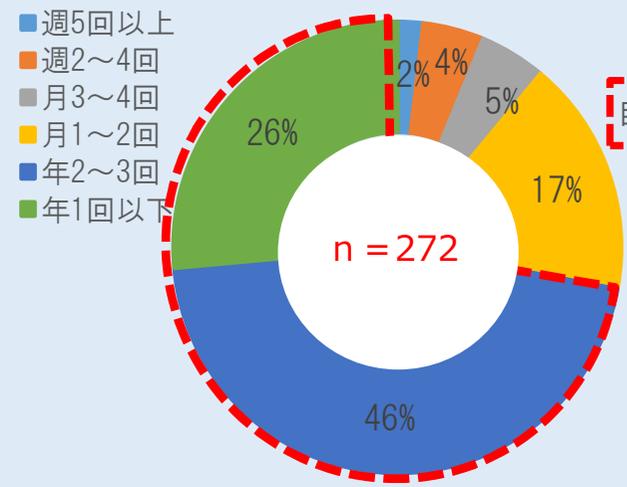
※端数処理により、合計値が合わない場合がある。

高德線（高松～徳島）の調査結果（抜粋）

非日常利用も含めたJR高德線の利用状況



JR高德線の利用頻度

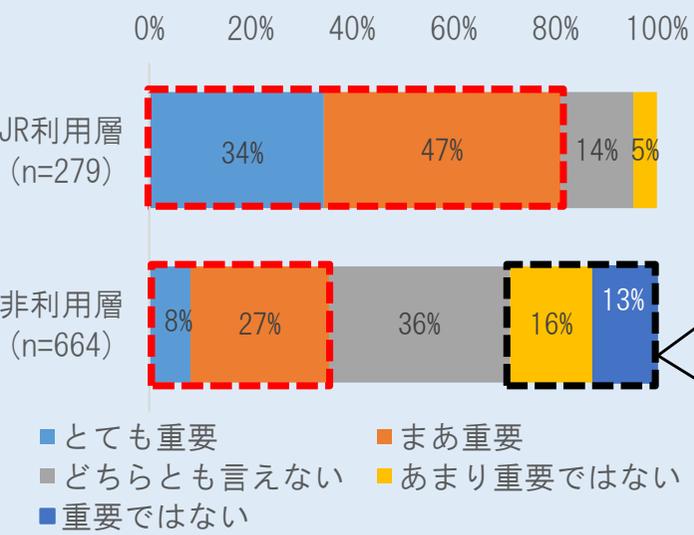


JR高德線を全く使わない理由TOP5(671件中)



沿線住民ニーズ

JR高德線の重要度認識(943件中)



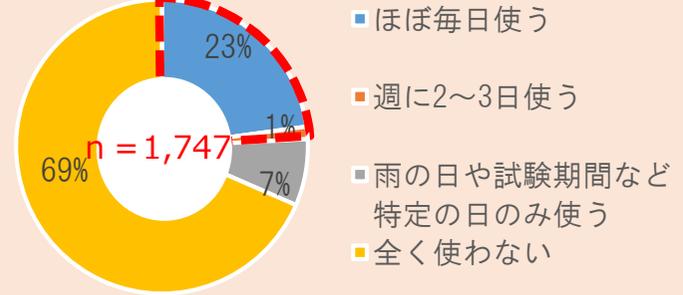
JR高德線が重要だと思う理由TOP5 (461件中)

- ※複数回答
- 無くなると地域が寂れる 240件 (52%)
 - 高齢者や体の不自由な方のため 183件 (40%)
 - 将来使うかもしれない 163件 (35%)
 - 観光客のため 144件 (31%)
 - 通勤、仕事のため 129件 (28%)

JR高德線が重要だと思わない理由TOP5 (192件中)

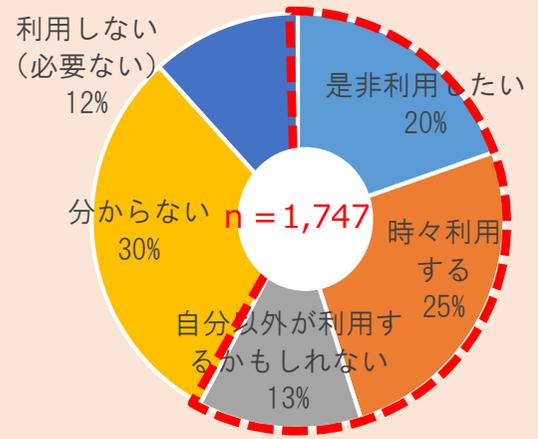
- ※複数回答
- 自家用車があるため不要 156件 (81%)
 - ダイヤ、路線等が不便 50件 (26%)
 - 目的地に直行できず不便 41件 (21%)
 - 仕事や生活リズムに合わない 29件 (15%)
 - 所要時間がかかり過ぎる 25件 (13%)

JR高德線通学利用

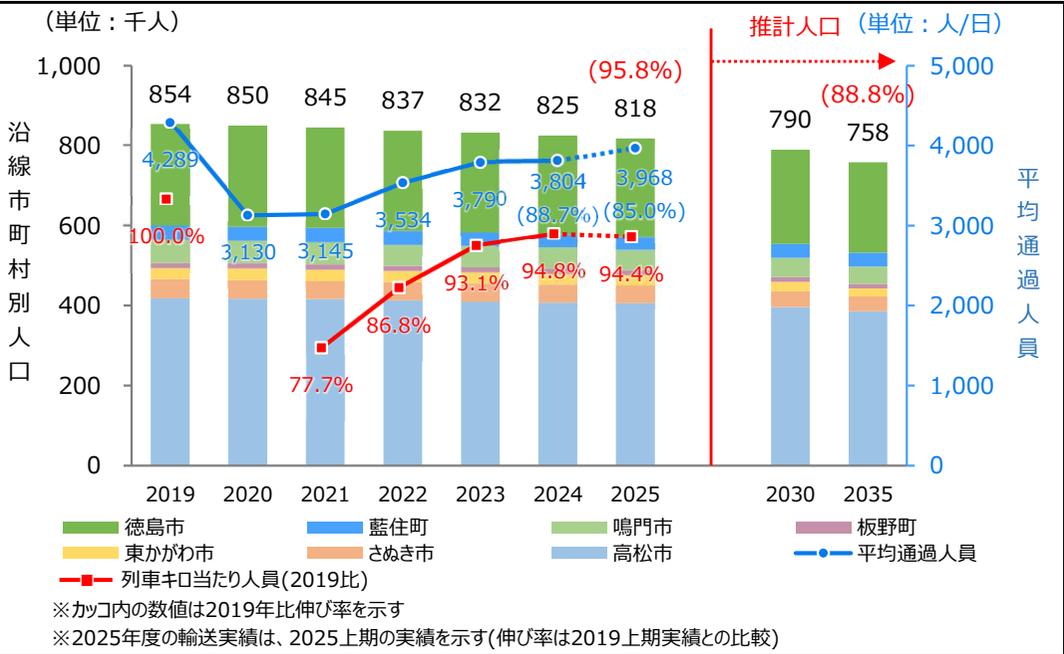


沿線高校生ニーズ

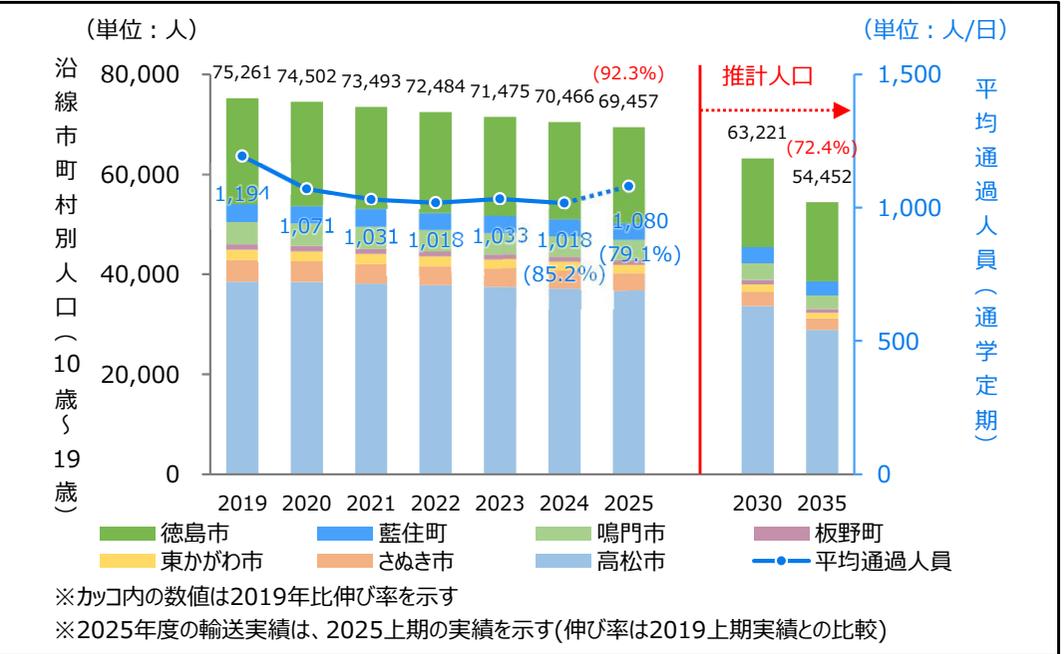
モーダルミックスの取組が実施された場合の利用意向



沿線人口および基本指標・関連指標の推移



沿線人口（10～19歳）および通学定期利用の推移



各項目の分析・検証

◆取組内容

- 自治体が主体となったモーダルミックスの実装により、通学利便性を向上
- タクトダイヤの導入により、特に線区を跨ぐ乗換利便性を向上
- 地域と連携した駅舎等整備により、地域の拠点として利活用するとともに駅待合環境を改善
- 自治体によるリレーシンポを開催し、公共交通利用に対する機運を醸成

◆基本指標/関連指標

- 平均通過人員は15%減少（未達）、1列車当たりの利用人員も6%減少（未達）
- 平均通過人員は定期で13%、定期外で17%減少
- 駅間では定期、定期外ともに高松駅近郊での減少率が低く、引田～板野駅間では定期が2019年度と同レベルを維持
- 駅間平均通過人員は2,000～10,700人/日で、香川県・徳島県の県境に向かうにつれてご利用が漸減
- 沿線人口も減少が進んでおり、特に通学定期利用層は急激に減少が進む見込み

◆沿線住民、利用者等の利用実態・ニーズ等

- 7割（71%）の方が非日常利用も含めてJRを全く使っておらず、使っている方でも7割（72%）が利用頻度は年2～3回以下と非常に少ない
- JRを使わない理由では「自宅から駅が遠い」「自家用車の方が自由度が高い」など、2次交通を含め、利便性の低さに対する意見が多い
- JRを利用している方は8割（81%）が高徳線を重要と思っているが、利用していない方は4割近く（35%）と低い
- 重要と思う理由では「無くなると地域が寂れる」が最も多く、次いで「高齢者等のため」「将来使うかもしれない」「観光客・通勤等のため」など、地域の足としての役割に加え、特に地域のシンボルとしての役割や自家用車が運転できなくなった場合の代替移動手段としての役割に対する意見が多い
- 重要と思わない理由では「自家用車があるため不要」という意見が最も多く、移動の足として選択肢にされていない

◆沿線高校生の利用状況・ニーズ等

- 通学で高徳線をほぼ毎日使っている高校生は2割（23%）で、7割程度（69%）は全く使っていない
- 鉄道とバスのモーダルミックスに対する利用意向は自分以外も含め6割程度（58%）と高い

土讃線（多度津～高知）の取組

特徴的な取組内容と効果・検証

◆ 利便性向上

○ 鉄道と路線バスによる代替輸送（※）の実施

- ・土讃線阿波池田～大歩危駅間において、並行運行する四国交通と代替輸送契約を締結、2021.9～運用開始
- ・山城線の三好市移管に合わせ、三好市とも代替輸送契約を締結し、2024.4～運用開始

※事故や災害などで長時間運転を見合わせる事象が発生した場合、鉄道と路線バスが相互に代替輸送手段として利用可能



○ バス路線再編に合わせた交通結節点の接続改善

- ・とさでん交通田井線の一部を嶺北観光自動車に移管し、2021.10～新たに大杉駅前に乗入れ開始
- ・バス路線再編に合わせ、JRダイヤ改正（2022.3）において大杉駅での特急停車本数を2本増
→大杉駅での鉄道⇔バス接続の改善
- ※高知県嶺北地域公共交通網形成計画に基づく取組



- ◎いずれかのモードが運休の際の代替手段確保
- バス、鉄道の乗り換え利便性向上による双方の利用促進

○ 公衆トイレ整備による駅環境改善

- ・自治体による駅公衆トイレの整備と維持管理
2024.1讃岐財田駅（三豊市）
2024.4三縄駅（三好市）



- ◎待合環境改善による利便性向上、利用促進
- ◎地域の拠点としての魅力向上
- 維持管理コストの低減

○異なる交通モードが利用できる企画乗車券の発売

- ・「徳島・室戸・高知55フリーきっぷ」販売
（旧）四国みぎした55フリーきっぷ
JR四国、阿佐海岸鉄道、土佐くろしお鉄道、高知東部交通が連携した徳島県南部と高知県東部地域の企画乗車券
- ・「ひがしこうち観光1日フリーきっぷ」販売
高知駅～奈半利駅の区間が1日乗り降り自由で、高知県東部地域のご旅行に便利でおトクな企画乗車券
- ・「やなせたかしさん ふるさとの地を巡る高知ものべ周遊パス」発売
JR四国、土佐くろしお鉄道、ジェイアール四国バス、とさでんバスが連携やなせたかしさんのふるさとである物部川エリアを周遊



	2024年度	総発売枚数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
徳島・室戸・高知55フリーきっぷ*		1,348枚	+0.6人	約8,000千円
ひがしこうち観光1日フリーきっぷ		1,734枚	+0.8人	約4,000千円

*牟岐線と重複

*基本指標貢献度は高知⇔後免を利用したものと試算、増収効果はきっぷの価格から試算

○チケットアプリ（スマえき）の展開

定期券（通勤・通学）利用者数 ※善通寺、後免、高知発着の定期券利用者数（一日平均）

	アプリ利用者数	全利用者数	アプリ定期券移行率
2023年度	96人	3,678人	3%
2024年度	811人	3,570人	23%
2025上期	1,037人	3,789人	27%

特徴的な取組内容と効果・検証

◆利用促進

○観光列車「四国まんなか千年ものがたり」による観光振興

- ・地域の方と一体でのおもてなし
- ・周年イベント、○万人乗車達成記念、アテンド特別企画「スイーツ紀行」等様々な取組
- ・2021.4～2025.3まで延べ53千人のご利用があり、平均乗車率は81%
- ・2024.12.4「四国まんなか千年ものがたり」を式場にした結婚披露宴開催



	乗車人員	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
2021年度	10,570人	+30.0人	約67,000千円
2022年度	13,170人	+37.3人	約83,000千円
2023年度	14,584人	+41.2人	約102,000千円
2024年度	14,738人	+41.8人	約103,000千円
2025上期	6,724人	+38.0人	約47,000千円

*多度津⇄大歩危を利用したものと試算

○観光列車「志国土佐 時代の夜明けのものがたり」による観光振興

- ・特定期間の金曜日にごめんなはり線を運行
高知駅 → 奈半利駅 煌海（きらめき）の抄
奈半利駅 → 高知駅 雄飛（ゆうひ）の抄



	乗車人員	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
2022年度	1,597人	+0.7人	約3,000千円
2023年度	1,617人	+0.7人	約5,000千円
2024年度	1,534人	+0.7人	約4,000千円
2025上期	533人	+0.5人	約1,500千円

*高知⇄後免を利用したものと試算

○企画列車の運行

2021.5「Forever2000&2200 さよなら 2000 系」ツアー
「南風・しまんと号」の定期運用を終了した 2000 系を特別貸切運行

2023.5「リバイバル南風号」+瀬戸大橋橋上撮影体験ツアー

瀬戸大橋線開業35周年を記念し、本四備讃線で活躍した2000系「南風」を再現。本四高速（株）との連携事業により、瀬戸大橋橋上からの撮影ツアーも実施



	利用者数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
2021年度	318人	+1.7人	約5,400千円
2023年度	54人	+0.3人	約1,400千円

*基本指標貢献度は多度津⇄高知を利用したものと試算、増収効果はツアー価格から試算

○連続テレビ小説との連携

連続テレビ小説「あんぱん」と連携したラッピング列車の運行（2025.3.29出発式開催）
特急「南風」「しまんと」土佐山田駅及び後免駅到着前、車内自動放送によるやなせたかし氏のふるさとやゆかりの施設の紹介



○南国市地域公共交通通学定期券半額応援キャンペーン

- ・市内に住民登録のある中学生以上のJR通学定期券の1/2を補助
※「スマえき」での購入に限る

	申請件数	補助額
2024年度	約600件	約7,500千円

- ◎学生の移動支援と定住促進及び地域振興
- ◎公共交通の利用促進
- ◎チケットアプリ「スマえき」への移行促進



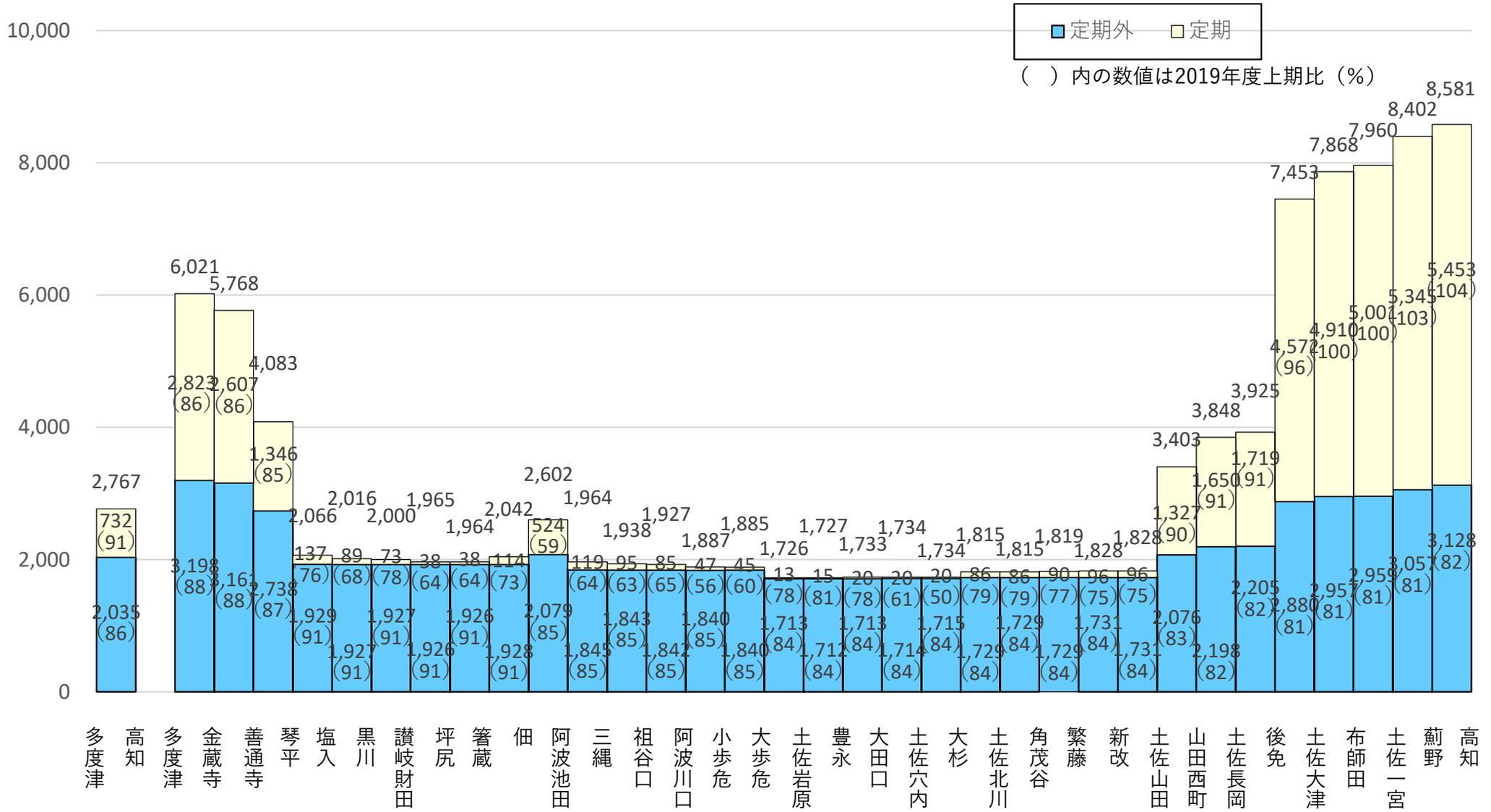
○公共交通リレーシンポジウムの開催

地域住民が交通サービスについて考えるきっかけとするため、2022年度徳島県内3圏域で開催（西部：三好市）



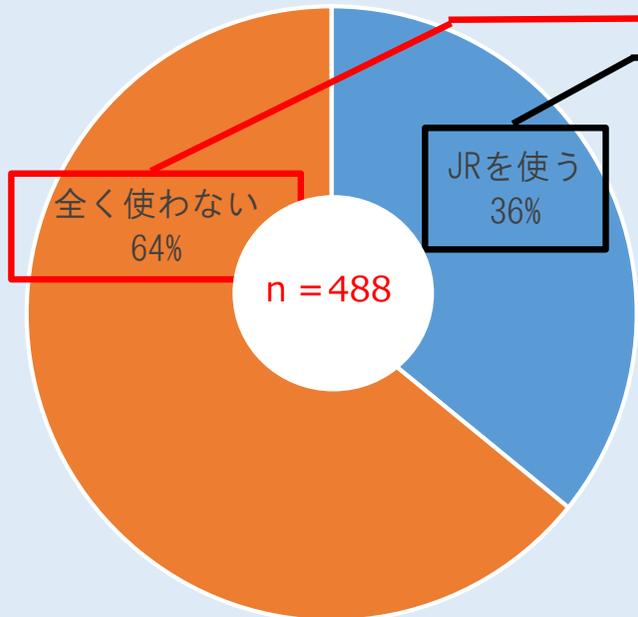
土讃線（多度津～高知）の駅間平均通過人員

● 平均通過人員（2025年度上期実績）：営業キロ1km当たりの1日平均旅客輸送人員（人/日）

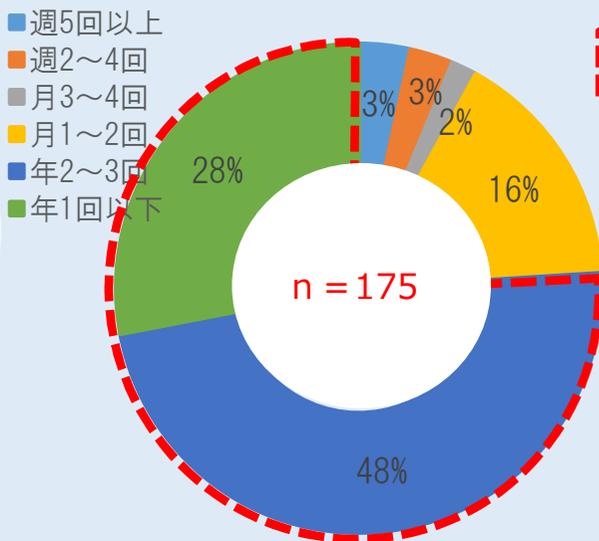


※端数処理により、合計値が合わない場合がある。

非日常利用も含めたJR土讃線の利用状況



JR土讃線の利用頻度



JR土讃線を全く使わない理由TOP5(313件中)

※複数回答



沿線住民ニーズ

JR土讃線の重要度認識(488件中)

0% 20% 40% 60% 80% 100%



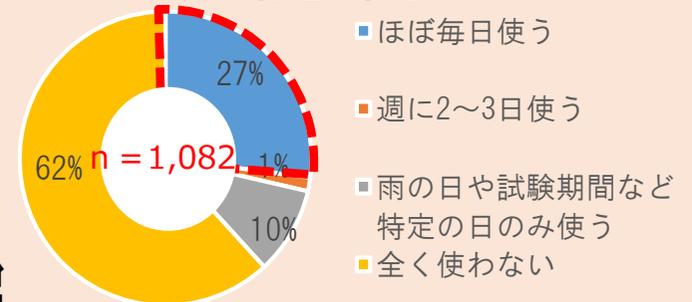
- とても重要
- まあ重要
- どちらとも言えない
- あまり重要ではない
- 重要ではない

JR土讃線が重要だと思う理由TOP5 (310件中)

- ・無くなると地域が寂れる 203件 (66%)
- ・高齢者や体の不自由な方のため 146件 (47%)
- ・観光客のため 146件 (47%)
- ・将来使うかもしれない 122件 (40%)
- ・自分自身の遊び、レジャーのため 89件 (29%)

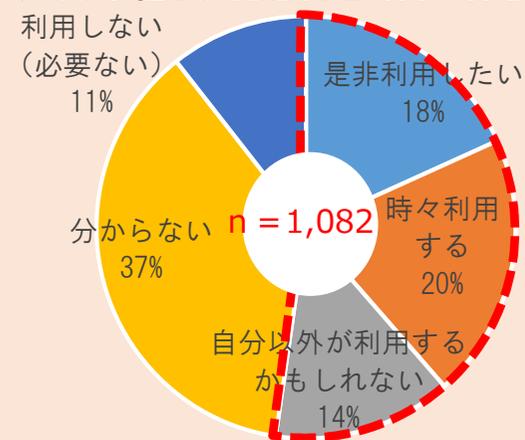
※複数回答

JR土讃線通学利用

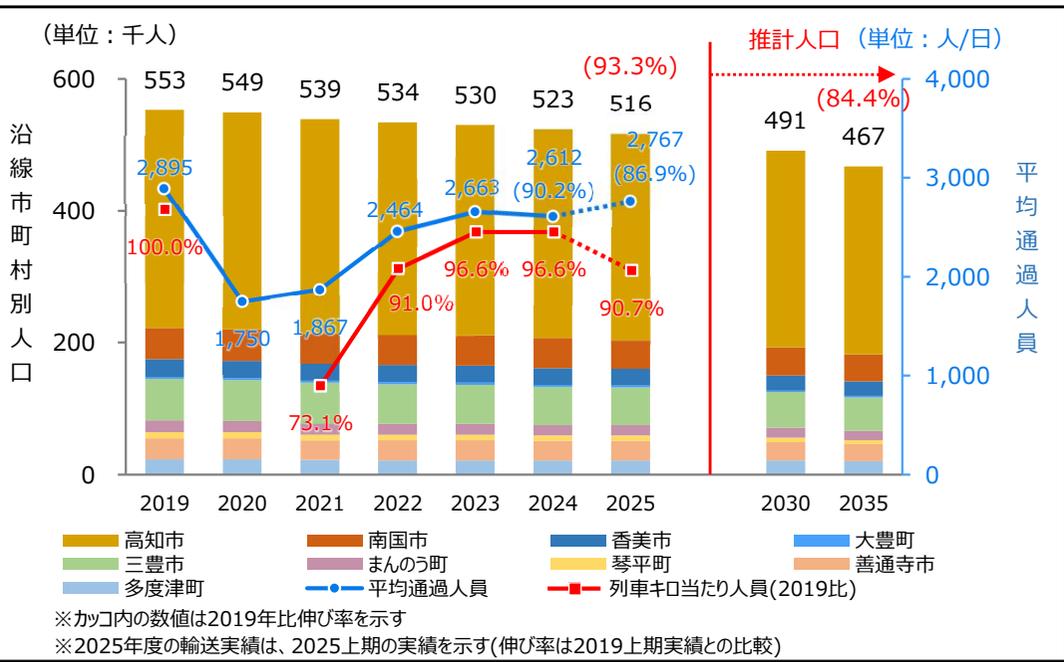


沿線高校生ニーズ

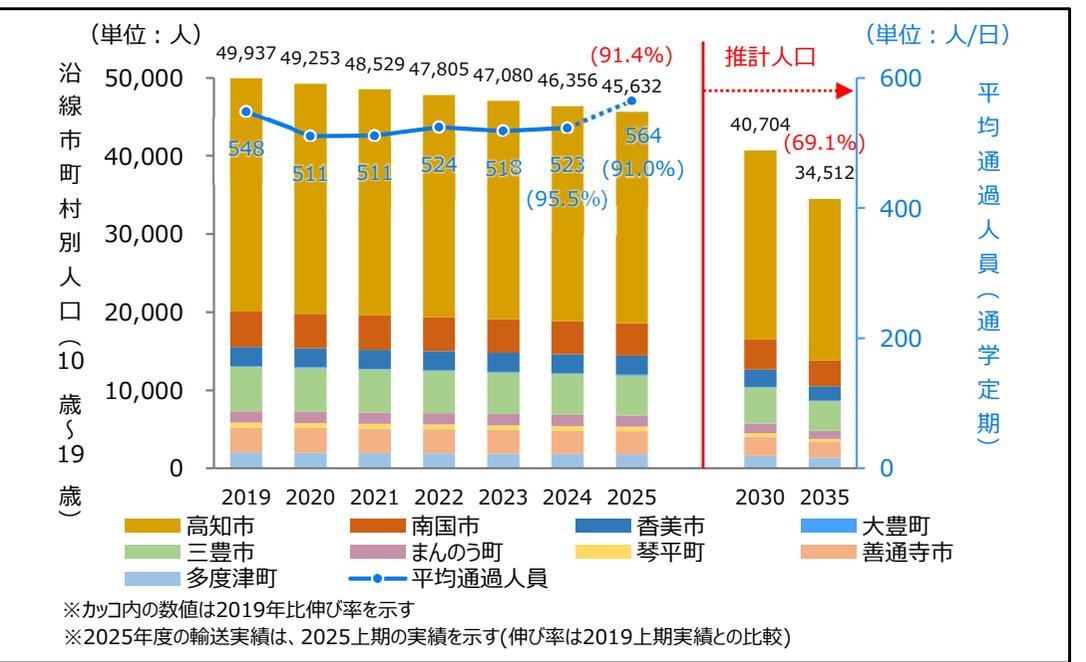
モーダルミックスの取組が実施された場合の利用意向



沿線人口および基本指標・関連指標の推移



沿線人口（10～19歳）および通学定期利用の推移



各項目の分析・検証

- ◆**取組内容**
 - バス路線再編に合わせた駅での接続改善により、公共交通の利便性を向上
 - 自治体による公衆トイレ整備により、駅待合環境を改善
 - 自治体によるリレーシンポを開催し、公共交通利用に対する機運を醸成
 - 観光列車は高い乗車率を維持し、地域主体のおもてなしも継続的に実施
- ◆**基本指標/関連指標**
 - 平均通過人員は13%減少（未達）、1列車当たりの利用人員も9%減少（未達）
 - 平均通過人員は定期で9%、定期外で14%減少
 - 定期外は全線で減少した一方、高知駅近郊では定期の減少率が低く、土佐一宮～高知駅間では定期が3～4%増加
 - 駅間平均通過人員は1,700～8,600人/日で、琴平～土佐山田駅間は他の駅間に比べてご利用が少なく、特に定期のご利用が極端に少ない
 - 沿線人口も減少が加速しており、特に通学定期利用層は大幅に減少する見込み

- ◆**沿線住民、利用者等の利用実態・ニーズ等**
 - 6割（64%）の方が非日常利用も含めてJRを全く使っておらず、使っている方でも8割程度（76%）が利用頻度は年2～3回以下と非常に少ない
 - JRを使わない理由では「自家用車の方が自由度が高い」「自宅から駅が遠い」など、2次交通を含め、利便性の低さに対する意見が多い
 - JRを利用している方は9割程度（88%）、利用していない方でも半数程度（49%）が土讃線は重要と思っている
 - 重要と思う理由では「無くなると地域が寂れる」が最も多く、次いで「観光客・高齢者等のため」「将来使うかもしれない」「レジャー等のため」など、地域の足としての役割に加え、特に地域のシンボルとしての役割や自家用車が運転できなくなった場合の代替移動手段としての役割に対する意見が多い
- ◆**沿線高校生の利用状況・ニーズ等**
 - 通学で土讃線をほぼ毎日使う高校生は3割程度（27%）で、6割（62%）は全く使っていない
 - 鉄道とバスのモーダルミックスに対する利用意向は自分以外も含め半数（52%）ある

特徴的な取組内容と効果・検証

◆ 利便性向上

○ 須崎駅周辺整備

須崎市海のまちプロジェクト
 2027年までに整備予定の図書館複合施設を見据えた中心市街地の活性化やコンテンツの制作等を目指すプロジェクト
 2021.12.18 海のまちのエントランスとなる須崎駅舎をリノベーション
 駅や商店街へのイルミネーションの飾り付けと点灯式を開催



○ 駅環境整備

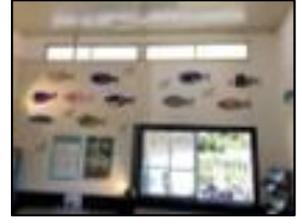
地域との連携による駅舎整備や活用
 安和駅前に地域住民の交流拠点
 「集落活動センターあわ」を整備
 2021.11.27拠点施設完成祝賀会



2024.3.8 日高村に譲渡した日下駅新駅舎の利用開始
 地域住民の交流スペース、観光案内スペース、公衆トイレの整備等



土佐久礼駅リニューアルオープン
 地元観光協会が中心となり、駅舎をリノベーション
 駅舎の中に観光協会の窓口開設、コインロッカー設置
 2024.10.18リニューアルオープンセレモニー開催



自治体による公衆トイレの整備
 2022.9 吾桑駅（須崎市）
 2023.3 伊野駅（いの町）
 土佐加茂駅（佐川町）
 2023.12 影野駅（四万十町）



- ◎ 待合環境改善による利便性向上、利用促進
- ◎ 地域の拠点としての魅力向上、観光振興
- 維持管理コストの削減

○ チケットアプリ（スマえき）の展開

定期券（通勤・通学）利用者数 ※旭、高知商業前、朝倉発着の定期券利用者数（一日平均）

	アプリ利用者数	全利用者数	アプリ定期券移行率
2023年度	48人	1,690人	3%
2024年度	403人	1,717人	23%
2025上期	523人	1,942人	27%

特徴的な取組内容と効果・検証

◆利用促進

○観光列車等による観光振興

・「志国土佐 時代の夜明けのものがたり」の運行
 「須崎駅19分劇場」をはじめ沿線住民によるおもてなし
 沿線学校生徒等による車内ガイド、販売実習実施
 周年イベント、○万人乗車達成記念等様々な取組
 2021.4～2025.3まで延べ48千人のご利用があり、
 平均乗車率は72%



*高知⇄窪川を利用したものと
 して試算

	乗車人員	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
2021年度	8,005人	+43.9人	約53,000千円
2022年度	9,199人	+50.4人	約61,000千円
2023年度	9,138人	+49.9人	約67,000千円
2024年度	8,154人	+44.7人	約60,000千円
2025上期	3,977人	+43.5人	約29,000千円

○イベント開催時の連携

「四国に新幹線を」夏まつり

2024.8.20イベントに合わせて「鉄道ホビートレイン」を特別運行
 (須崎駅～高知駅～土佐山田駅間を往復運行) と高知駅での見学会を実施

土讃線須崎駅～日下駅間開通100周年記念事業
 2024.3.30記念式典の開催(日下駅)、100周年
 マルシェ(須崎駅)、記念列車(鉄道ホビートレイン)
 ツアーの実施等



土讃線日下駅～高知駅間開通100周年記念事業
 2024.11.15 記念式典の開催(高知駅)

ヘッドマーク型ステッカーで装飾した列車の運行、記念きっぷの発売、
 記念看板の設置(日下駅、伊野駅、高知駅)、駅スタンプアプリ「エキタグ」
 スタンプラリーの開催

○アンパンマン列車25周年

「アンパンマン列車」デビュー25周年記念事業として、初代アンパンマン列車のデザインを復刻し、特急「あしずり」号として期間限定運転
 2025.4.12高知駅にて「復刻！初代アンパンマン列車」出発式を開催



○連続テレビ小説との連携

連続テレビ小説「らんまん」放映に合わせた
 情報発信(関西圏でも実施)
 ラッピング列車の運行等
 佐川駅駅名標にバイカオウレンや牧野富太郎の
 イラストラッピング



- ◎2023年度高知県内観光客入込数過去最多更新(約472万人)に貢献
- ◎2023年度上期土讃線のご利用の増加



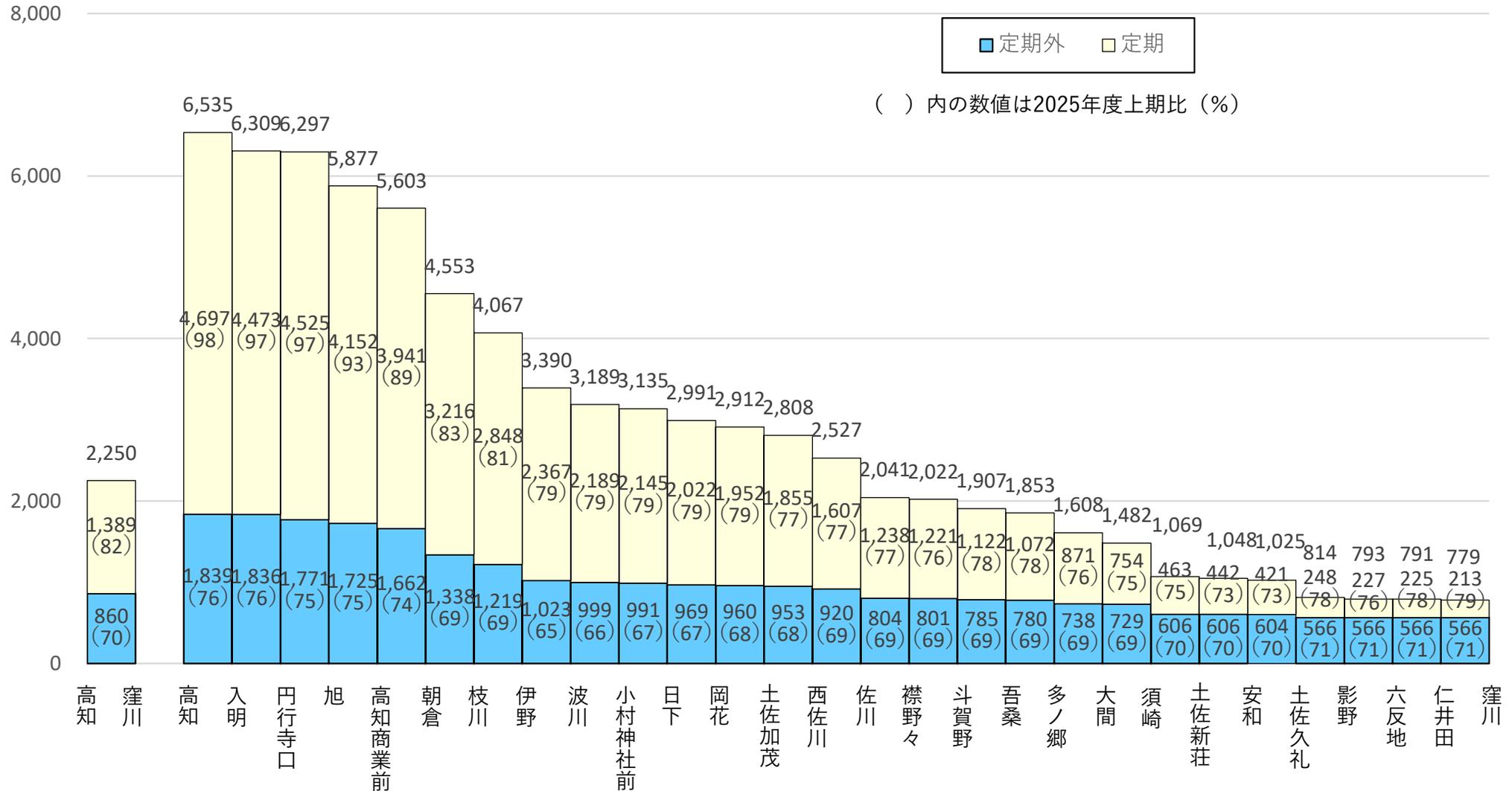
○補助制度の活用

高知県内の就職活動に伴う交通費補助
 県外在住で高知県内で就職活動を行う学生等を対象に
 交通費の一部を補助
 高知県での就職を希望する県外在住の学生、既卒3年
 以内の方が対象 ※県外出身者も対象



土讃線（高知～窪川）の駅間平均通過人員

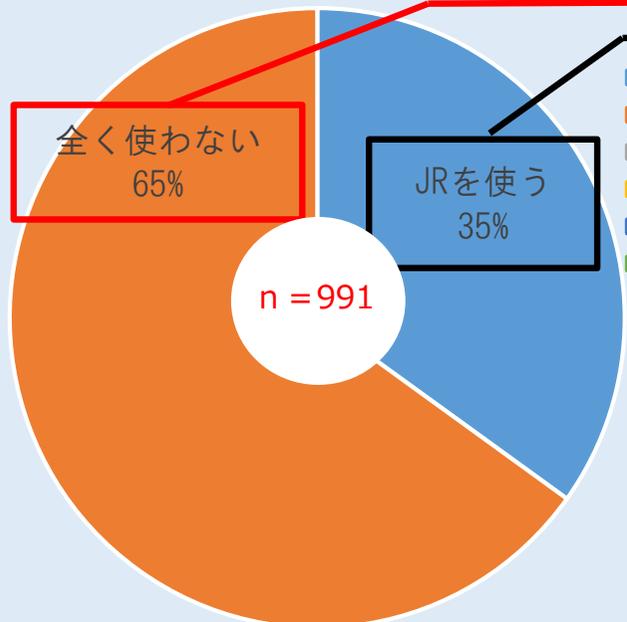
● 平均通過人員（2025年度上期実績）：営業キロ1km当たりの1日平均旅客輸送人員（人/日）



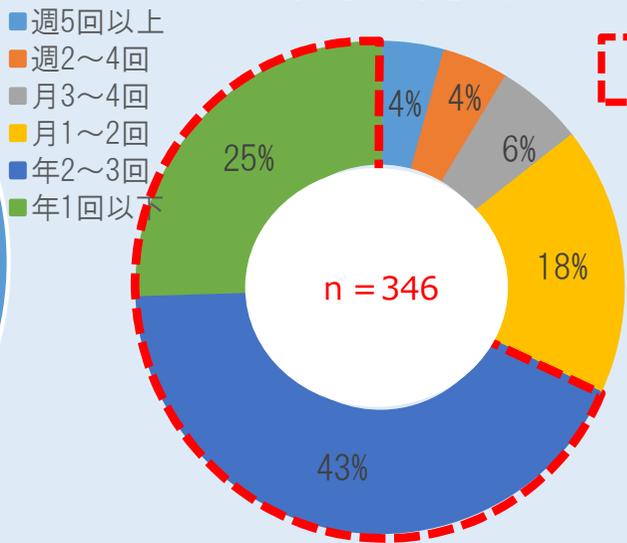
※端数処理により、合計値が合わない場合がある。

沿線住民ニーズ

非日常利用も含めたJR土讃線の利用状況



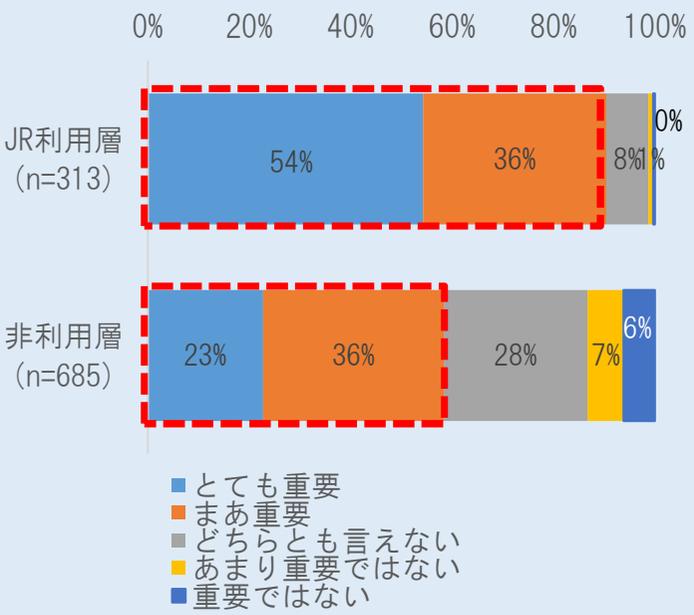
JR土讃線の利用頻度



JR土讃線を全く使わない理由TOP5(645件中)



JR土讃線の重要度認識(998件中)

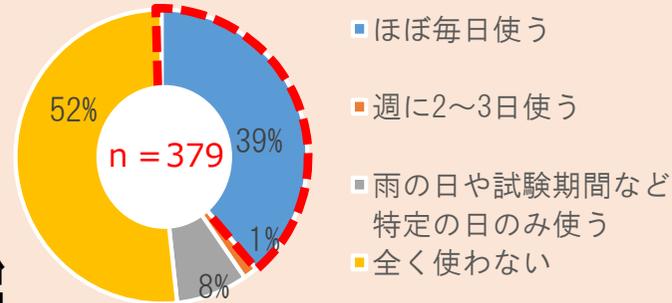


JR土讃線が重要だと思ふ理由TOP5 (682件中)

- ・無くなると地域が寂れる 390件 (57%)
- ・高齢者や体の不自由な方のため 379件 (56%)
- ・将来使うかもしれない 279件 (41%)
- ・観光客のため 260件 (38%)
- ・通学のため 250件 (37%)

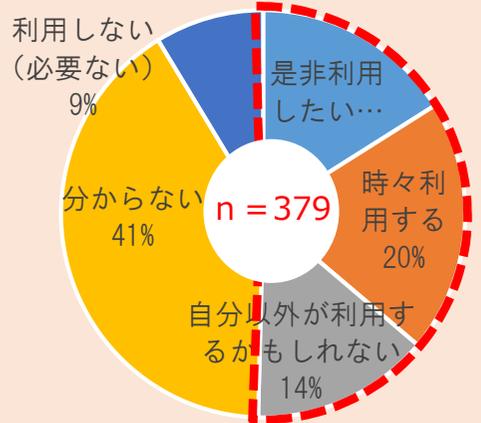
※複数回答

JR土讃線通学利用

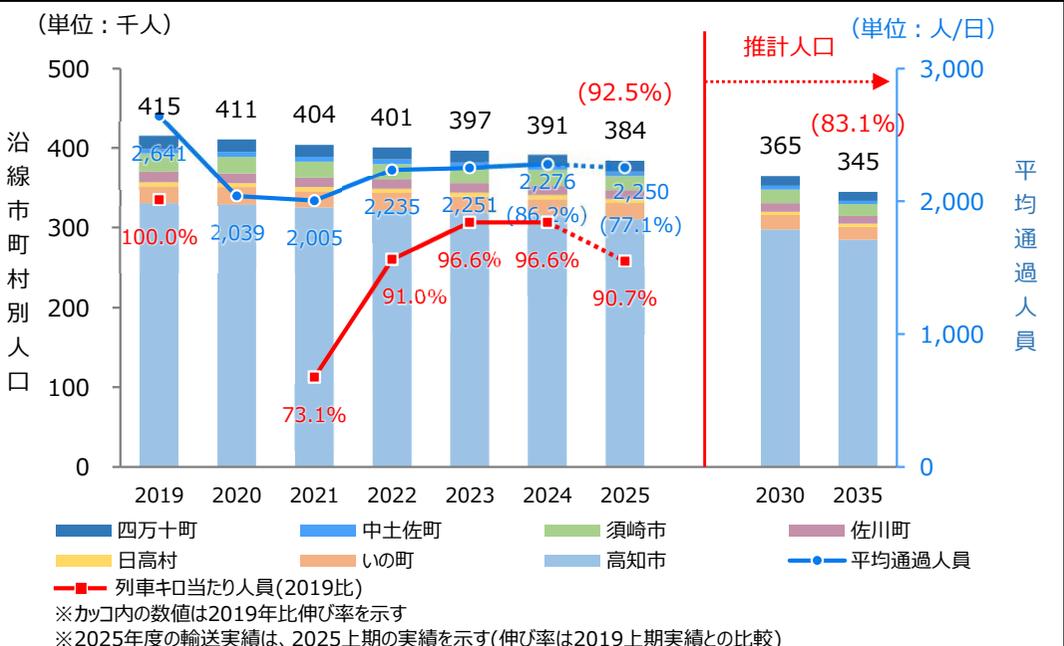


沿線高校生ニーズ

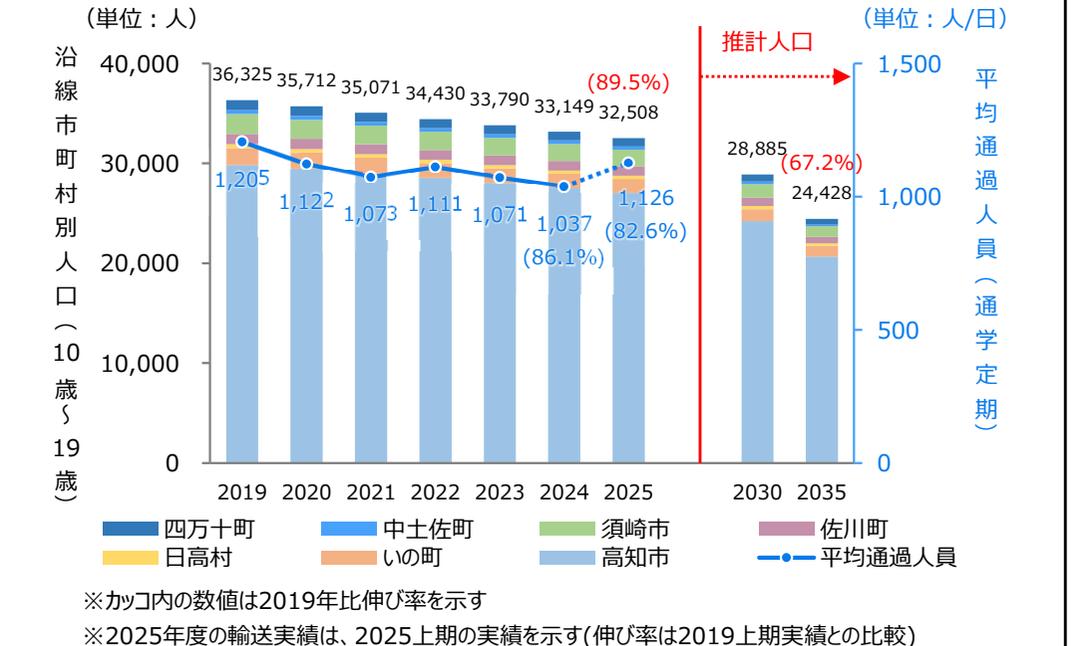
モーダルミックスの取組がなされた場合の利用意向



沿線人口および基本指標・関連指標の推移



沿線人口（10～19歳）および通学定期利用の推移



各項目の分析・検証

- ◆ **取組内容**
 - 駅舎のリノベーション等により、利便性向上及びにぎわい創出を実現
 - 自治体による公衆トイレ整備により、駅待合環境を改善
 - 連続テレビ小説と連携した観光振興の展開により、ご利用が増加
 - 観光列車は高い乗車率を維持し、地域主体のおもてなしも継続的に実施
- ◆ **基本指標/関連指標**
 - 平均通過人員は23%減少（未達）、1列車当たりの利用人員も9%減少（未達）
 - 平均通過人員は定期で18%、定期外で30%と定期外が大幅に減少
 - 定期外は全線にわたって減少したが、高知駅近郊では定期の減少率が低い
 - 駅間平均通過人員は800～6,500人/日で、高知駅から窪川駅に向かうにつれてご利用が急減
 - 沿線人口も減少が加速しており、特に通学定期利用層は大幅に減少する見込み

- ◆ **沿線住民、利用者等の利用実態・ニーズ等**
 - 7割近く（65%）の方が非日常利用も含めてJRを全く使っておらず、使っている方でも7割程度（68%）が利用頻度は年2～3回以下と非常に少ない
 - JRを使わない理由では「自家用車の方が自由度が高い」「自宅から駅が遠い」など、2次交通を含め、利便性の低さに対する意見が多い
 - JRを利用している方は9割（90%）、利用していない方でも6割程（59%）が土讃線は重要と思っている
 - 重要と思う理由では「無くなると地域が寂れる」が最も多く、次いで「高齢者等のため」「将来使うかもしれない」「観光客・通学のため」など、地域の足としての役割に加え、特に地域のシンボルとしての役割や自家用車が運転できなくなった場合の代替移動手段としての役割に対する意見が多い
- ◆ **沿線高校生の利用状況・ニーズ等**
 - 通学で土讃線をほぼ毎日使う高校生は4割程度（39%）で、半数（52%）は全く使っていない
 - 鉄道とバスのモーダルミックスに対する利用意向は自分以外も含め半数（50%）ある

徳島線（佐古～佃）の取組

特徴的な取組内容と効果・検証

◆ 利便性向上

○ 鴨島駅周辺地区都市再生整備計画に基づくロータリー整備

2022.3 広場供用開始（事業主体：吉野川市）
 車両動線の変更、歩道改良、イベント広場新設、タクシー乗場移設



- ◎ 交通結節機能向上
- ◎ イベント開催可能→にぎわい創出

○ 公衆トイレ整備による駅環境改善

自治体による駅公衆トイレの整備

2022.2 貞光駅、阿波半田駅（つるぎ町）、穴吹駅（美馬市）
 2022.4 阿波山川駅（吉野川市）
 2024.11 阿波川島駅（吉野川市）
 2025.3 阿波加茂駅（東みよし町）



- ◎ 待合環境改善による利便性向上
- ◎ 地域の拠点としての魅力向上
- 維持管理コストの削減

○ 徳島レール&バス 東西きっぷ発売

2023.10.28～2024.2.25
 徳島県公共交通利用促進事業により、指定エリアの鉄道、バスが1日乗り降り自由となる企画乗車券を発売 ※スマえき限定発売

総発売枚数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
290枚	+1.6人	約800千円



*基本指標貢献度は佐古⇄佃を利用したものとして試算、増収効果はきっぷの価格から試算

- ◎ 異なる交通モードが利用できる企画乗車券発売による利便性向上・利用促進
- ◎ 県事業との連携
- ◎ チケットアプリ「スマえき」の認知度向上、利用促進
- ▲ 着地との連携など他の企画乗車券との差別化が課題



○ チケットアプリ（スマえき）の展開

定期券（通勤・通学）利用者数 ※石井、鴨島、穴吹発着の定期券利用者数（一日平均）

	アプリ利用者数	全利用者数	アプリ定期券移行率
2023年度	37人	1,624人	2%
2024年度	333人	1,587人	21%
2025上期	537人	1,651人	33%

徳島線（佐古～佃）の取組

特徴的な取組内容と効果・検証

◆利用促進

○「ゆうゆうアンパンマンカー」運行による観光振興

	利用者数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
2021年度	4,615人	+25.3人	約31,000千円
2022年度	5,600人	+30.7人	約38,000千円
2023年度	5,566人	+30.4人	約40,000千円
2024年度	10,178人	+55.8人	約72,000千円
2025上期	5,285人	+57.8人	約38,000千円

*徳島⇄阿波池田
を利用したもの
として試算

○観光列車「藍よしのがわトロッコ」による観光振興

地域の方と一体でのおもてなし
周年イベント、○万人乗車達成記念、沿線地域招待等様々な取組を展開
2021.4～2025.3まで延べ17千人のご利用があり、
平均乗車率は61%
トイレ洋式化、無料Wi-Fiサービスの導入によりさらに快適に



○沿線イベントに合わせた臨時列車運行

全国花火師競技大会「にし阿波の花火」



	利用者数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
2023年度 (11/11)	625人	+1.4人	約900千円
2024年度 (11/9)	894人	+2.0人	約1,300千円

四国酒まつり

*佐古⇒江口を利用したものとして試算

	利用者数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
2022年度 (2/25)	85人	+0.2人	約140千円
2023年度 (2/24)	120人	+0.3人	約220千円
2024年度 (2/22)	120人	+0.3人	約220千円

*徳島⇒阿波池田を利用したものとして試算

◎会場周辺の渋滞対策や鑑賞後の足の確保

▲一時的なイベント集客であり、基本指標への寄与は限定的

○公共交通リレーシンポジウムの開催

地域住民が交通サービスについて考えるきっかけとするため、2022年度徳島県内3圏域で開催
(西部：三好市)



○割引施策の導入

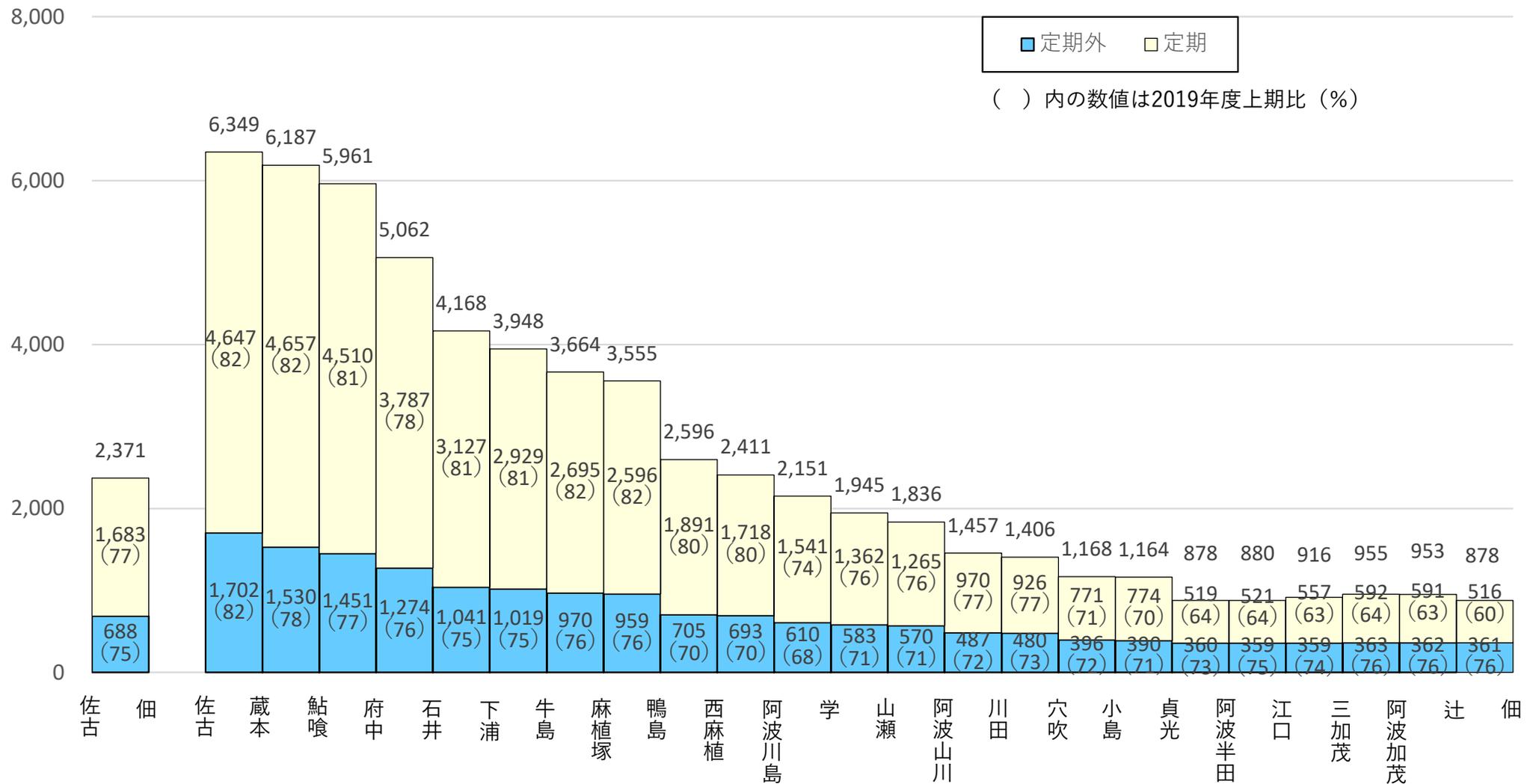
- ・通学定期所持者向け割引特急券：徳島線（穴吹～阿波池田）
2021.4.23～2022.3.31 通学定期券を所持する学生を対象に
「特急列車を安価に利用できる回数券」を発売
列車本数の少ないローカル線区での特急通学利用を促進

*徳島⇄阿波池田
を利用したもの
として試算

	利用者数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
2021年度	5,374人	+29.4人	約23,000千円
2022年度	4,306人	+23.6人	約19,000千円
2023年度	4,318人	+23.6人	約20,000千円
2024年度	3,420人	+18.7人	約16,000千円
2025上期	2,361人	+25.8人	約11,000千円

徳島線（佐古～佃）の駅間平均通過人員

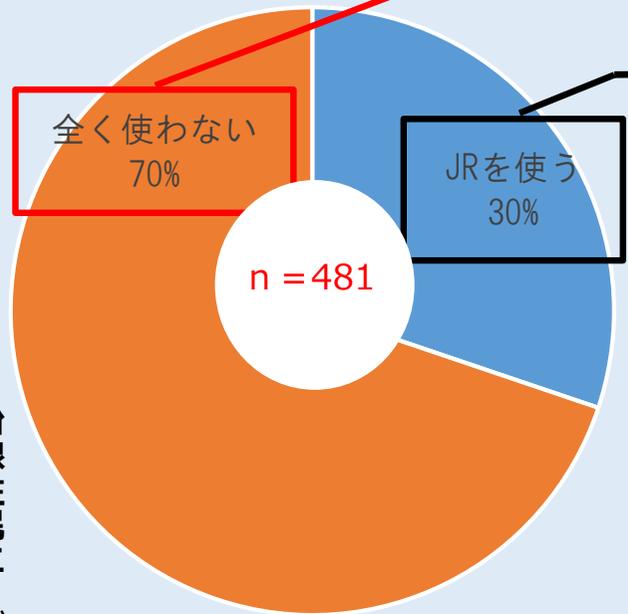
● 平均通過人員（2025年度上期実績）：営業キロ1km当たりの1日平均旅客輸送人員（人/日）



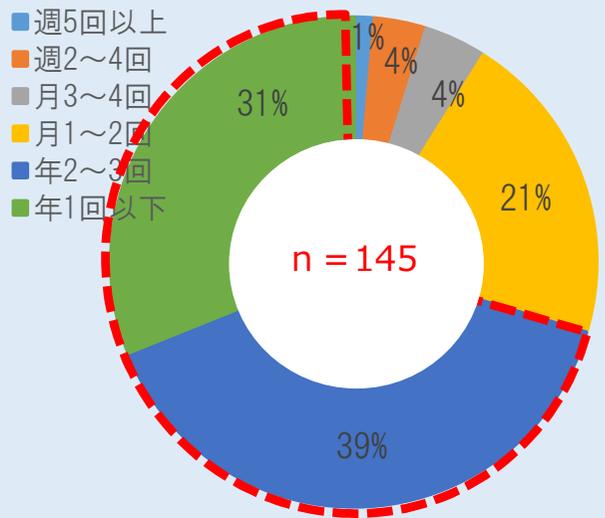
※端数処理により、合計値が合わない場合がある。

徳島線（佐古～佃）の調査結果（抜粋）

非日常利用も含めたJR徳島線の利用状況

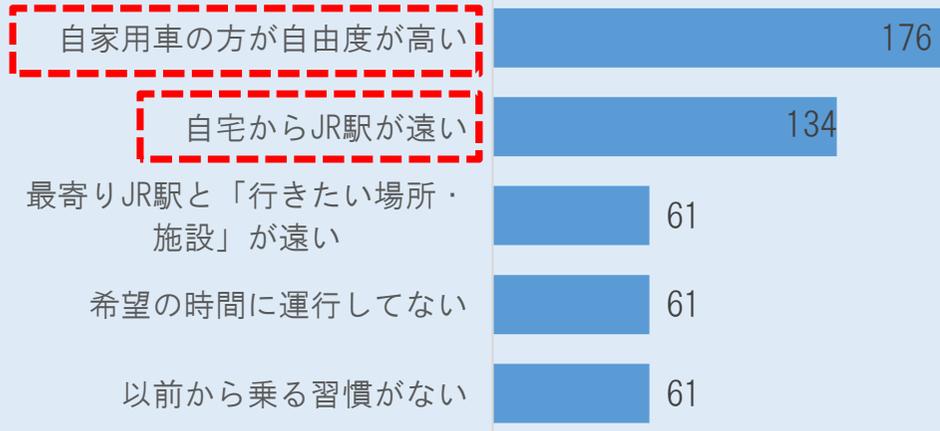


JR徳島線の利用頻度



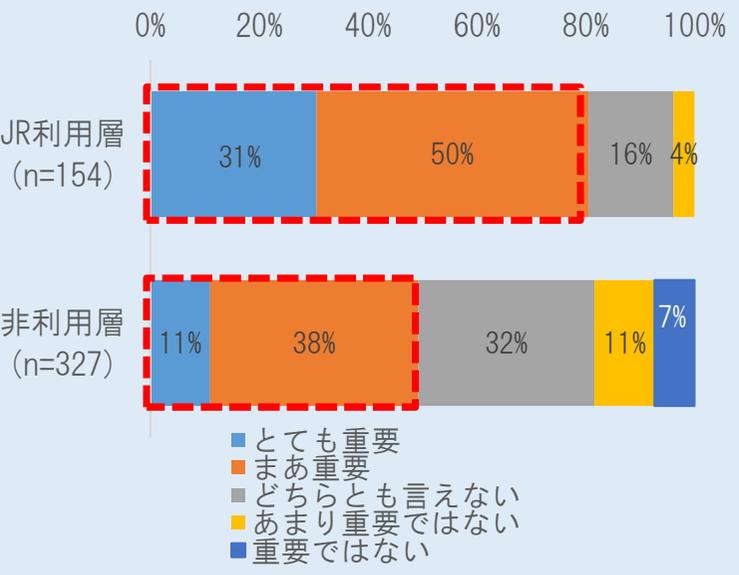
JR徳島線を全く使わない理由(336件中)

※複数回答



沿線住民ニーズ

JR徳島線の重要度認識(481件中)

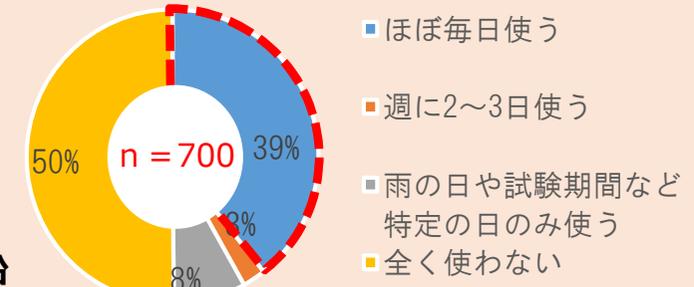


JR徳島線が重要だと思ふ理由TOP5 (285件中)

- ・ なくなると地域が寂れる 160件 (56%)
- ・ 高齢者や体の不自由な方のため 124件 (44%)
- ・ 将来使うかもしれない 106件 (37%)
- ・ 通学のため 84件 (30%)
- ・ 通勤、仕事のため 76件 (27%)

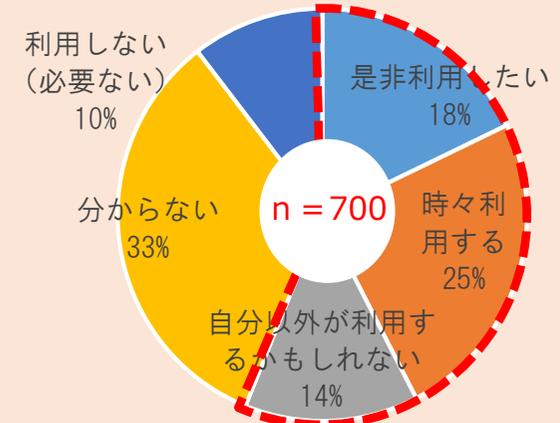
※複数回答

JR徳島線通学利用

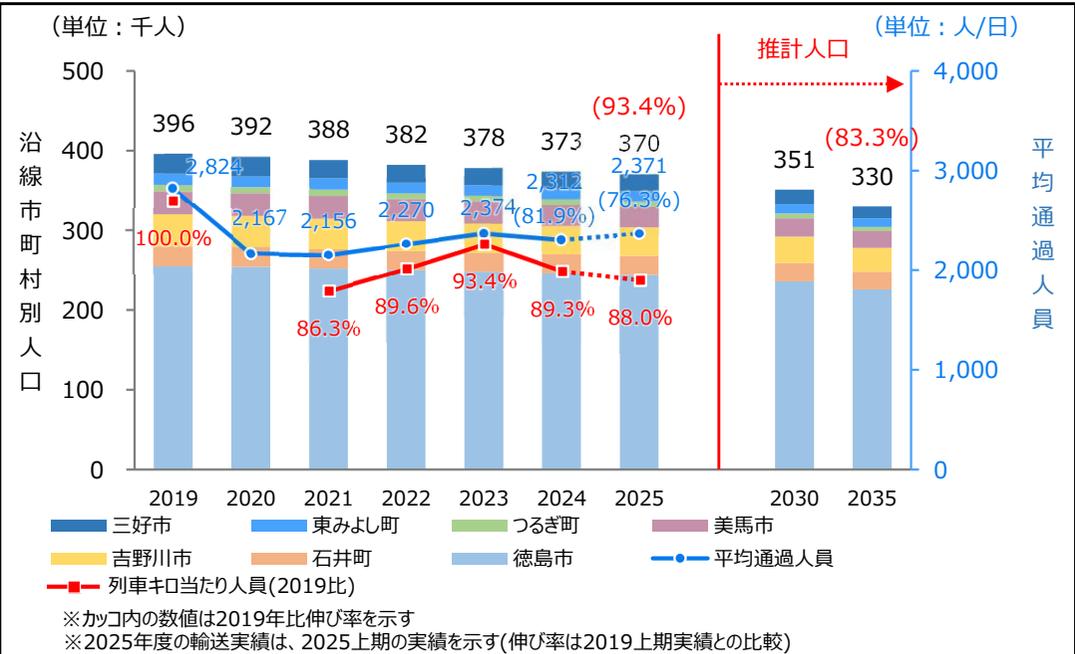


沿線高校生ニーズ

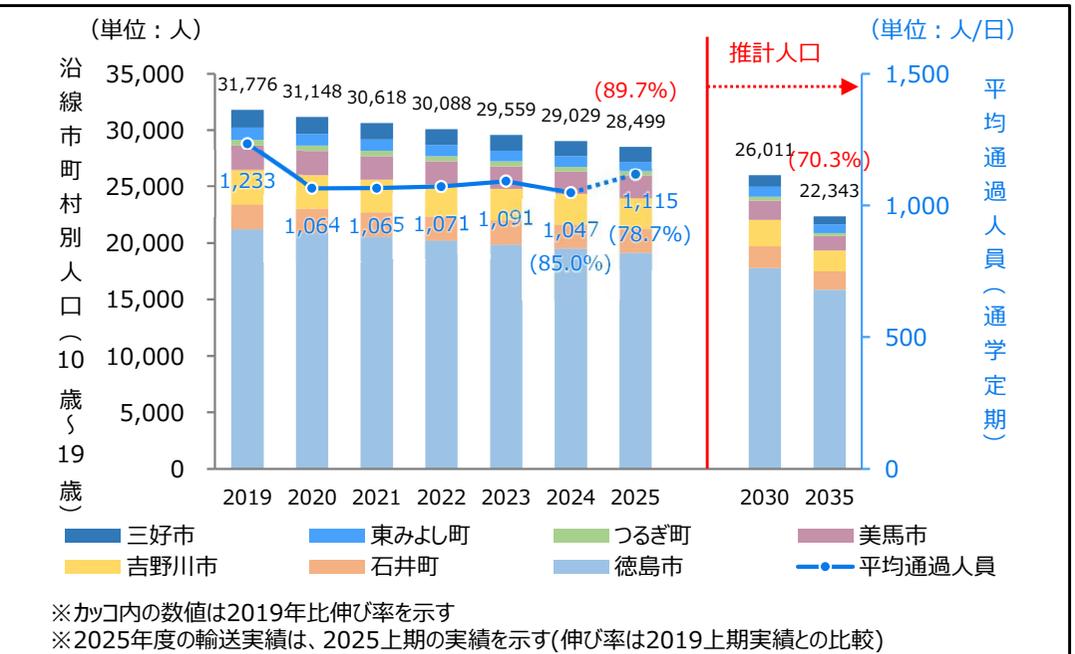
モーダルミックスの取組が実施された場合の利用意向



沿線人口および基本指標・関連指標の推移



沿線人口（10～19歳）および通学定期利用の推移



各項目の分析・検証

- ◆ **取組内容**
 - 自治体による公衆トイレ整備により、駅待合環境を改善
 - 観光列車を軸とした観光振興、地域活性化の取組を推進
 - 地域主体のイベントが増加するとともに、イベントに合わせた臨時列車を運行
 - 自治体によるリレーシンポを開催し、公共交通利用に対する機運を醸成
- ◆ **基本指標／関連指標**
 - 平均通過人員は24%減少（未達）、1列車当たりの利用人員も12%減少（未達）
 - 平均通過人員は定期で23%、定期外で25%と大幅に減少
 - 定期、定期外ともに全線にわたって減少し、特に貞光～佃駅間では定期が36～40%と顕著に減少
 - 駅間平均通過人員は900～6,300人/日で、佐古駅から佃駅に向かうにつれてご利用が急減
 - 沿線人口も減少が加速しており、特に通学定期利用層は急激に減少が進む見込み

- ◆ **沿線住民、利用者等の利用実態・ニーズ等**
 - 7割（70%）の方が非日常利用も含めてJRを全く使っておらず、使っている方でも7割（70%）が利用頻度は年2～3回以下と非常に少ない
 - JRを使わない理由では「自家用車の方が自由度が高い」「自宅から駅が遠い」など、2次交通を含め、利便性の低さに対する意見が多い
 - JRを利用している方は8割（81%）、利用していない方でも半数程度（49%）が徳島線は重要と思っている
 - 重要と思う理由では「無くなると地域が寂れる」が最も多く、次いで「高齢者等のため」「将来使うかもしれない」「通学・通勤等のため」など、地域の足としての役割に加え、特に地域のシンボルとしての役割や自家用車が運転できなくなった場合の代替移動手段としての役割に対する意見が多い
- ◆ **沿線高校生の利用状況・ニーズ等**
 - 通学で徳島線をほぼ毎日使う高校生は4割程度（39%）で、半数（50%）は全く使っていない
 - 鉄道とバスのモーダルミックスに対する利用意向は自分以外も含め6割程度（57%）と高い

鳴門線（鳴門～池谷）の取組

特徴的な取組内容と効果・検証

◆ 利便性向上

○ チケットアプリ（スマえき）の展開

定期券（通勤・通学）利用者数 ※鳴門、撫養発着の定期券利用者数（一日平均）

	アプリ利用者数	全利用者数	アプリ定期券移行率
2023年度	13人	660人	2%
2024年度	193人	672人	29%
2025上期	287人	708人	41%

○ 鳴門公園周辺エリアにおける観光型 MaaS の実証実験

2021.10.15～2022.1.31
鳴門公園周辺エリアにおいて、スマホ一つで周遊できる観光地づくりを促進する観光型MaaS実証実験実施

- 鳴門公園周辺エリアに來訪される観光客の満足度向上
- ▲ 採算性と持続可能性に課題



◆ その他取組

○ 貴社の想いを…まるごと駅広告の掲出

2024.6～
駅舎やホームなどを広告媒体として地域の企業に貸し出す取組。「駅ジャック」と「副駅名広告」を実施



- 地域等関係者と連携した駅の利活用・活性化
- 駅を通じた地元企業の情報発信による地域ブランド向上
- 非鉄道事業の収益拡大

◆ 利用促進

○ 徳島ヴォルティス号運行

ホームゲーム観戦に合わせた臨時列車運行・増結
2021年度：計9回運行 230名乗車
※徳島県公共交通利用回復支援事業補助金活用
2022年度：計9回運行 264名乗車
2023年度：計10回運行 466名乗車
※徳島ヴォルティスの協力のもと、選手のサイン入りグッズが当たる「列車に乗ってスタジアムに行こう！」企画実施 300名のご利用
2024年度：計6回運行 309名乗車
2025年度：計7回運行 741名乗車

JR利用者数 (2025年度)	基本指標貢献度*	増収効果*
741人	+4.1人	約400千円

*鳴門⇄池谷を利用したものと試算

- 鳴門線で来場した方向けの企画開催による利用促進
- スタジアム周辺の渋滞対策や観戦後の足の確保
- ▲ 一時的なイベント集客であり、基本指標への寄与は限定的



○ 四国交通ボンネットバス×藍よしのがわトロッココラボツアー

2023.12.8 ボンネットバスで吉野川沿いを走行し、藍よしのがわトロッコが鳴門線に入線する特別ツアー開催

ツアー参加数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
16名	+0.1人	336千円

*基本指標貢献度は鳴門⇄池谷を利用したものと試算、増収効果はツアー価格から試算



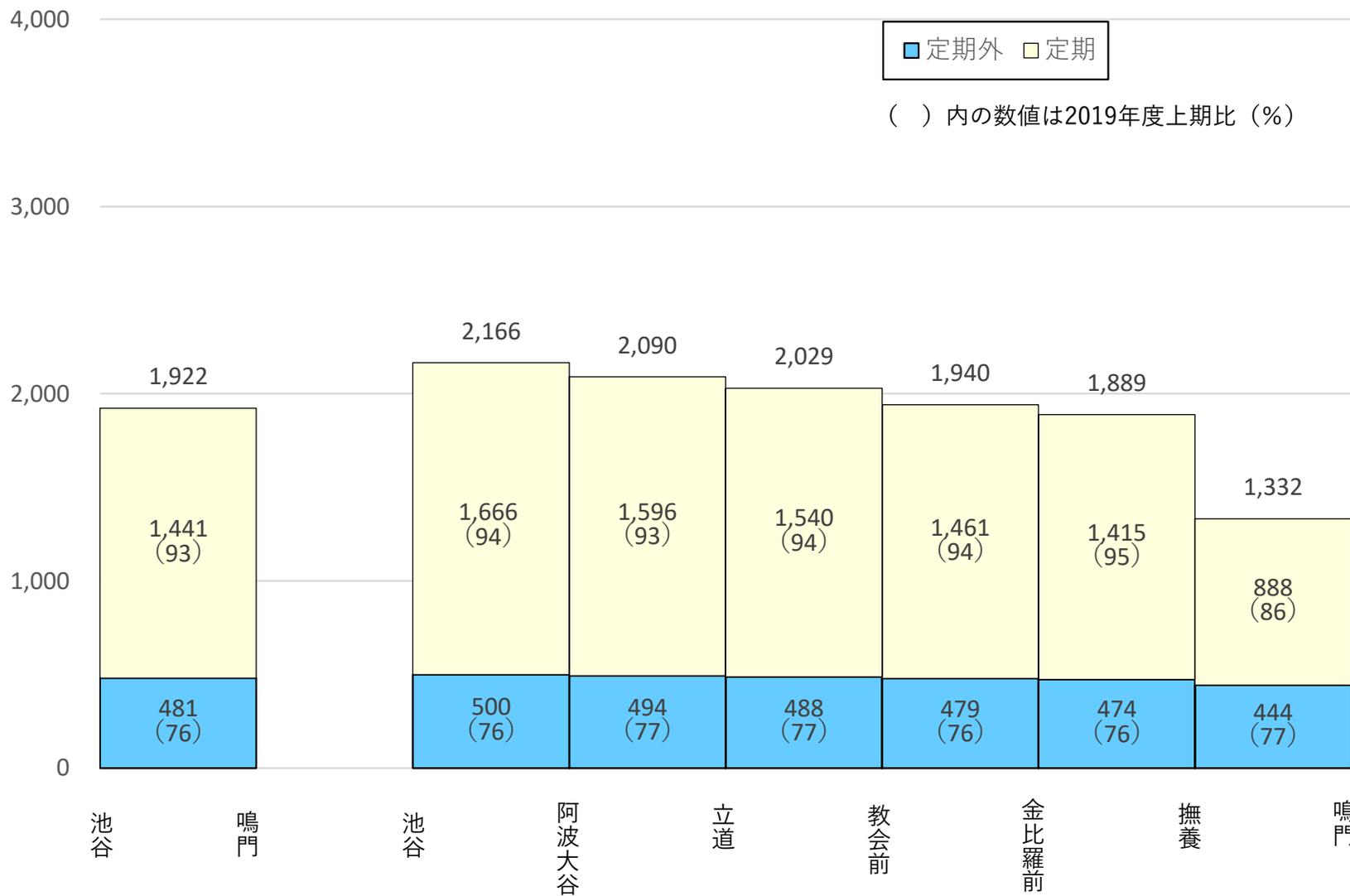
- 普段運転しない区間での観光列車運行による利用促進
- ▲ 一時的なイベント集客であり、基本指標への寄与は限定的

○ 公共交通リレーシンポジウムの開催

地域住民が交通サービスについて考えるきっかけとするため、2022年度徳島県内3圏域で開催（県東部：徳島市）



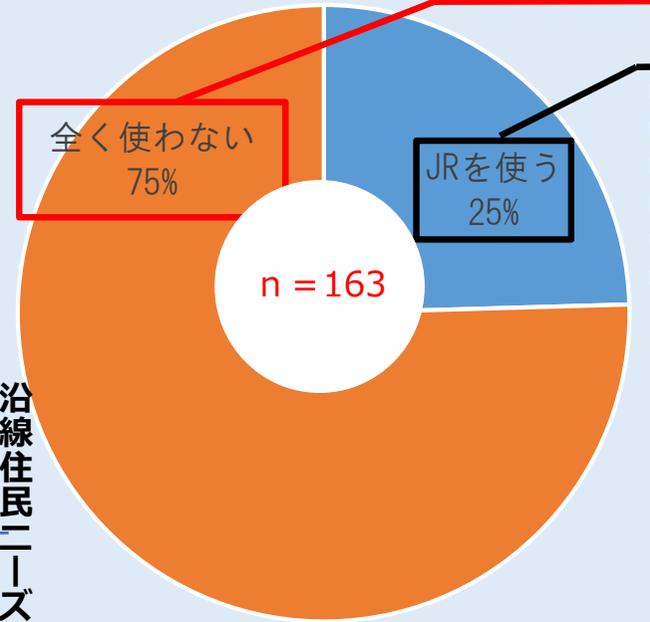
● 平均通過人員（2025年度上期実績）：営業キロ1km当たりの1日平均旅客輸送人員（人/日）



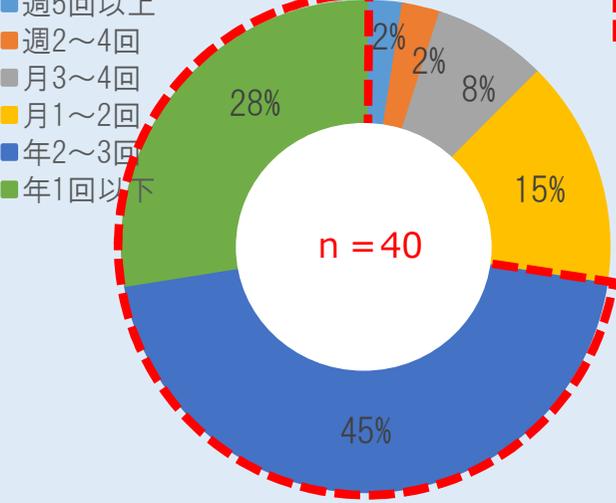
※端数処理により、合計値が合わない場合がある。

鳴門線（池谷～鳴門）の調査結果（抜粋）

非日常利用も含めたJR鳴門線の利用状況



JR鳴門線の利用頻度

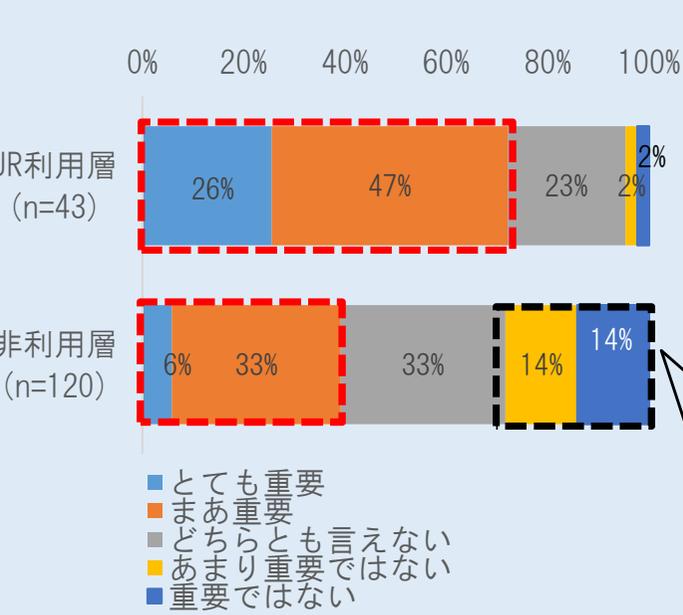


JR鳴門線を全く使わない理由(123件中)



沿線住民ニーズ

JR鳴門線の重要度認識(163件中)



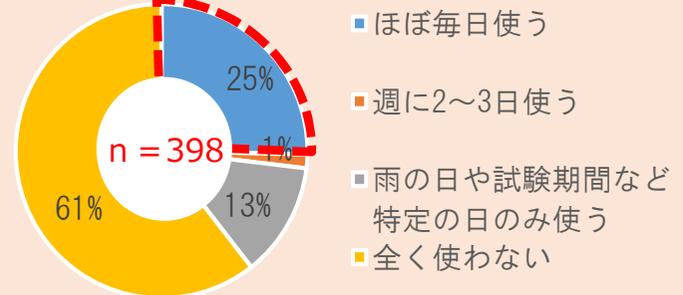
JR鳴門線が重要だと思う理由TOP5

- ※複数回答 (78件中)
- 無くなると地域が寂れる 46件 (59%)
 - 高齢者や体の不自由な方のため 29件 (37%)
 - 将来使うかもしれない 23件 (30%)
 - 観光客のため 22件 (28%)
 - 通学のため 21件 (27%)

JR鳴門線が重要だと思わない理由TOP5

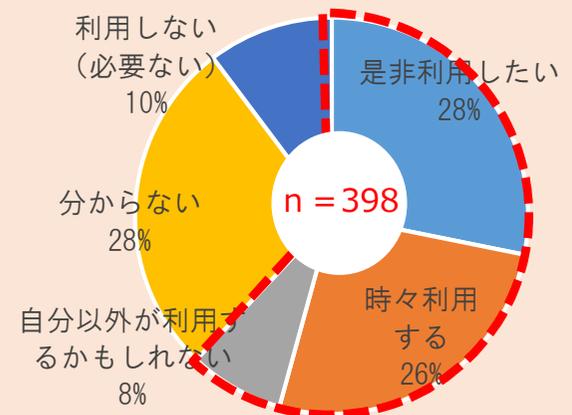
- ※複数回答 (34件中)
- 自家用車があるため不要 29件 (85%)
 - ダイヤ、路線等が不便 12件 (35%)
 - 所要時間がかかり過ぎる 9件 (27%)
 - 目的地に直行できず不便 9件 (27%)
 - 仕事や生活リズムに合わない 6件 (18%)

JR鳴門線通学利用

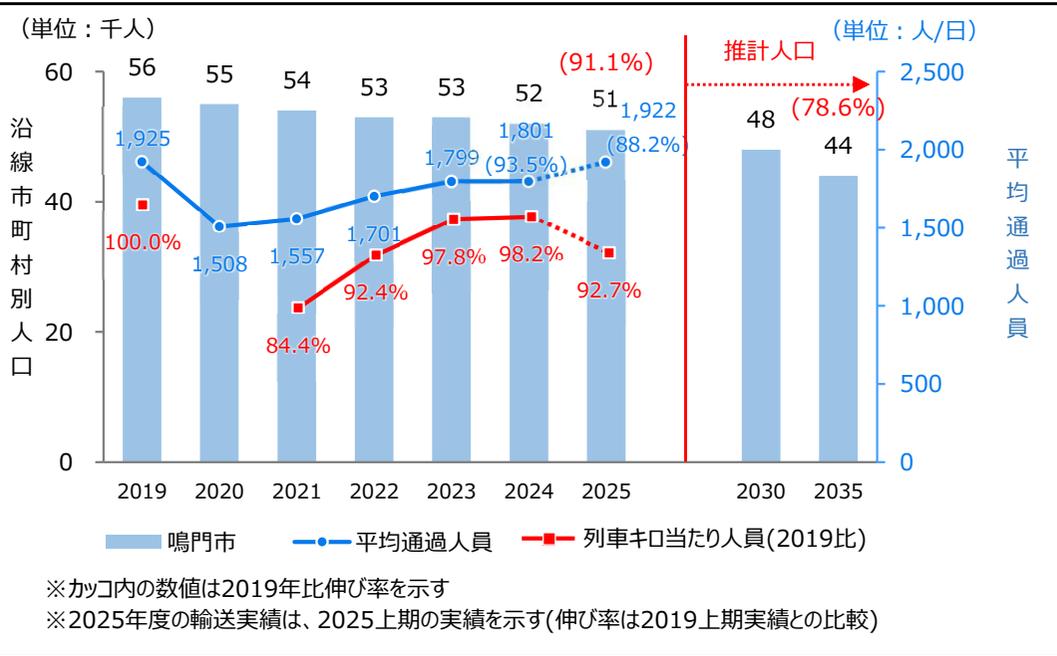


沿線高校生ニーズ

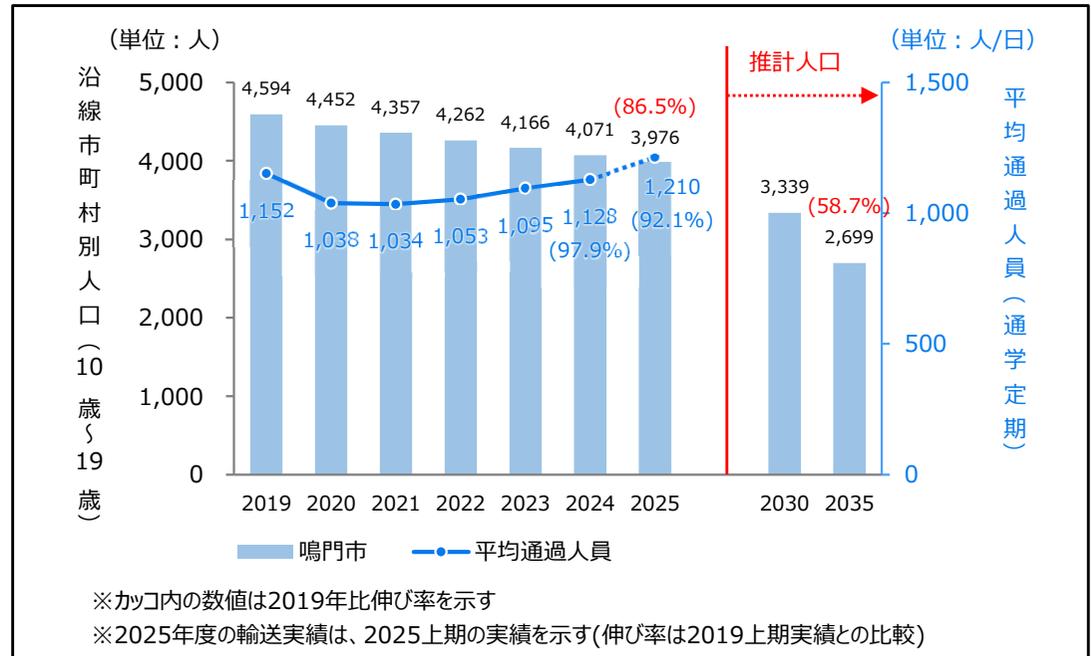
モデルミックスの取組が実施された場合の利用意向



沿線人口および基本指標・関連指標の推移



沿線人口（10～19歳）および通学定期利用の推移



各項目の分析・検証

◆取組内容

- ・利用促進効果は限定的であるが、地域スポーツと連携した企画列車及び観戦後の臨時列車を運行
- ・地域等関係者と連携した駅の利活用により、地域ブランドの向上にチャレンジ
- ・自治体によるリレーシンポを開催し、公共交通利用に対する機運を醸成

◆基本指標/関連指標

- ・平均通過人員は12%減少（未達）、1列車当たりの利用人員も7%減少（未達）
- ・平均通過人員は定期が7%の減少に留まったが、定期外が24%と大幅に減少
- ・駅間平均通過人員は1,300～2,200人/日で、池谷駅から鳴門駅に向かうにつれてご利用が漸減
- ・沿線人口は減少が加速しており、特に通学定期利用層は大幅に減少する見込み

◆沿線住民、利用者等の利用実態・ニーズ等

- ・8割近く（75%）の方が非日常利用も含めてJRを全く使っておらず、使っている方でも7割（73%）が利用頻度は年2～3回以下と非常に少ない
- ・JRを使わない理由では「自家用車の方が自由度が高い」「自宅から駅が遠い」など、2次交通を含め、利便性の低さに対する意見が多い
- ・JRを利用している方は7割（72%）が鳴門線を重要と思っているが、利用していない方は4割程度（39%）と低い
- ・重要と思う理由では「無くなると地域が寂れる」が最も多く、次いで「高齢者等のため」「将来使うかもしれない」「観光客・通学のため」など、地域の足としての役割に加え、特に地域のシンボルとしての役割や自家用車が運転できなくなった場合の代替移動手段としての役割に対する意見が多い
- ・重要と思わない理由では「自家用車があるため不要」という意見が最も多く、移動の足として選択肢にされていない

◆沿線高校生の利用状況・ニーズ等

- ・通学で鳴門線をほぼ毎日使う高校生は3割近く（25%）で、6割（61%）は全く使っていない
- ・鉄道とバスのモーダルミックスに対する利用意向は自分以外も含め6割程度（62%）と高い

牟岐線（徳島～阿波海南）の取組

特徴的な取組内容と効果・検証

◆ 利便性向上

○ 鉄道と高速バスによる共同経営

- 2022.4～運用開始（阿南～浅川間）徳島バス「室戸・生見・阿南大阪線」の一般道区間の一部において、
 - J R 乗車券類で乗車可能
 - 鉄道と高速バスを乗り継いだ際、通し運賃を適用
- 2023.5 共同経営の区間拡大（阿南～阿波海南間）海部高校の生徒のご利用が増加
- 2024.5 高速バスのダイヤ改正（4→3往復）



	延利用人員	人/日	増便効果*	(参考) 増便効果金額換算*
2022年度	2,067人	5.7	8本	約57,000千円相当
2023年度	2,557人	7.0	8本	約59,000千円相当
2024年度	1,735人	4.8	6本	約44,000千円相当
2025上期	1,085人	5.9	6本	約44,000千円相当

*阿南～阿波海南の高速バス上下本数
*バス増便の総走行距離に対し、鉄道運行経費を基準単価として仮想的に換算

○ JR乗車券類で並行路線バスを利用可能とすることで実質的な増便効果

- 輸送資源の総動員による効率的な移動サービスの提供
- 区間拡大により沿線高校の生徒の利用が増加
- ▲ 他高速バス路線との大阪駅乗り入れ調整等のため、バスのダイヤ調整が困難

○ 公衆トイレ整備による駅環境改善

- 自治体による駅公衆トイレの整備
2025.3 南小松島駅（小松島市）



- 待合環境改善による利便性向上
- 地域の拠点としての魅力向上
- 維持管理コストの削減

○ モーダルミックス実証実験の実施

- 2025.7～2026.2（牟岐～阿波海南）牟岐～阿波海南を含む区間のJR通学定期券で、徳島バス南部の牟岐線（牟岐～海部高校前）が利用できる実証実験 ※地域公共交通再構築調査事業を活用

上期延利用人員	人/日	増便効果*	(参考) 増便効果金額換算*
909人	10.3	26本	約9,000千円相当

*牟岐～阿波海南のバス上下本数
*バス増便の総走行距離に対し、鉄道運行経費を基準単価として仮想的に換算



○ JR乗車券類で並行路線バスを利用可能とすることで実質的な増便効果

○ 輸送資源の総動員による効率的な移動サービスの提供

○ 異なる交通モードが利用できるきっぷ等の導入

- 「徳島・室戸・高知55フリーきっぷ」発売 JR四国、阿佐海岸鉄道、土佐くろしお鉄道、高知東部交通が連携した徳島県南部と高知県東部地域の企画乗車券

2024年度 発売枚数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
1,348枚	+7.4人	約8,000千円

*土讃線と重複
*基本指標貢献度は徳島⇄阿波海南を利用したものとして試算、増収効果はきっぷの価格から試算

- 「徳島レール&バス 南北きっぷ」発売（2023.10～2024.2）

徳島県公共交通利用促進事業により、指定エリアの鉄道、バスが1日乗り降り自由となる企画乗車券を発売 ※スマえき限定発売

総発売枚数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
296枚	+1.6人	約800千円

*基本指標貢献度は徳島⇄阿波海南を利用したものとして試算、増収効果はきっぷの価格から試算



- 異なる交通モードが利用できる企画乗車券導入による利便性向上・利用促進
- 県事業との連携（南北きっぷ）
- チケットアプリ「スマえき」の認知度向上・利用促進
- ▲ 着地との連携など他の企画乗車券との差別化が課題

牟岐線（徳島～阿波海南）の取組

特徴的な取組内容と効果・検証

◆利用促進

ODMV（デュアル・モード・ビークル）

- ・2021.12～ DMV運行開始
線路と道路の両方を走行できるDMVの本格営業運行開始（世界初）
阿波海南駅～甲浦駅間は鉄道モードで走行



- ・2022.11～2023.11 DMVラッピング列車の運行
DMVの運行開始1周年を記念し、「牟岐線」及び「阿佐東線DMV」の利用促進を図る取組として実施



	延利用人員	人/日	うちJR利用※	基本指標貢献度*
2024年度	25,511人	70	25人/日	+25人

※2024年度利用実態調査結果より推計
*徳島→阿波海南を利用したものとして試算

◎DMV利用の相乗効果としてJR利用者の増加にも寄与

○「サイクルトレイン」の実証運行

- ・2023.2（土休日3日間）
阿南～阿波海南駅間において普通列車の車内に自転車をそのまま持ち込めるサイクルトレイン混乗試験を実施
対象列車：下り2本、上り2本、1列車10台まで
利用人数：延べ35人

利用人員	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
35人	+0.1人	約80千円

*阿南⇄阿波海南を利用したものとして試算

○大型クルーズ船寄港時の連携

- ・徳島小松島港に大型クルーズ船が寄港した際に、最寄り駅となる南小松島駅への駅員配置（きっぷ販売・案内等）や普通列車への車両の増結等を実施
- ・2024年度のクルーズ船の徳島小松島港への寄港実績：15回
うち大型クルーズ船>
8/13 ダイヤモンド・プリンセス（約2,700人）
10/4 ノルウェー جان・スピリット（約2,000人）



○沿線高校の学生寮新設

- ・2025.4～ 学校から3駅離れた旧海部病院跡地に学生寮が新設され、供用開始（定員50名）



牟岐～阿波海南間平均通過人員（通学）の推移（人/日）				
2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025上期
116	113	95	95	137

- ◎通学定期利用が大幅に増加
- ◎現在1年生のみ利用のため、今後も増加の見込み

○公共交通リレーシンポジウムの開催

- ・地域住民が交通サービスについて考えるきっかけとするため、2022年度徳島県内3圏域で開催（県南部：海陽町）

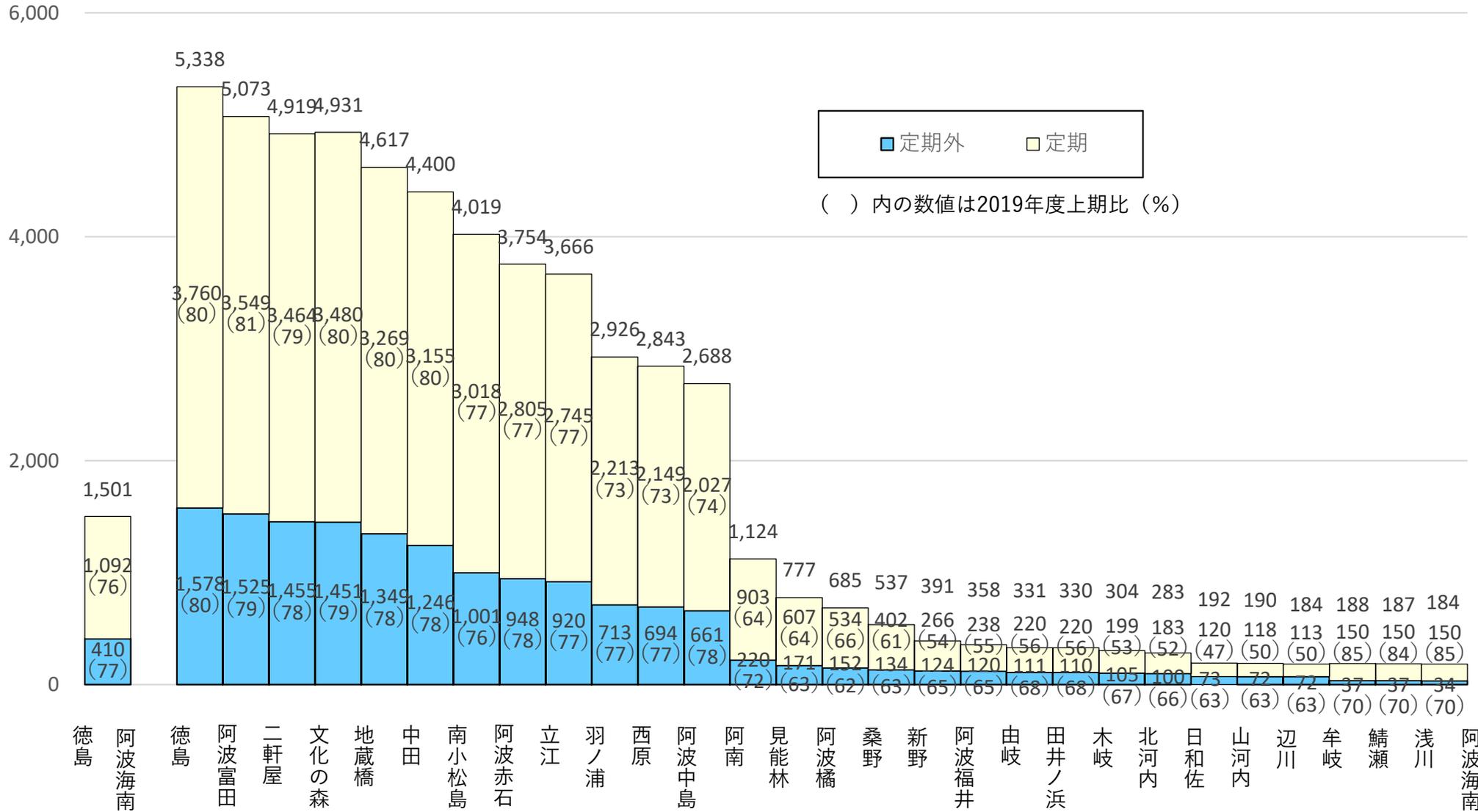


○自治体による運賃補助

- ・通学定期への運賃補助（美波町：中学生・高校生 牟岐町：高校生 海陽町：小学生・中学生）
- ・市内小学校の実施する公共交通機関を利用した校外活動への支援（鉄道、路線バス等の利用時の運賃を全額補助）（阿南市）

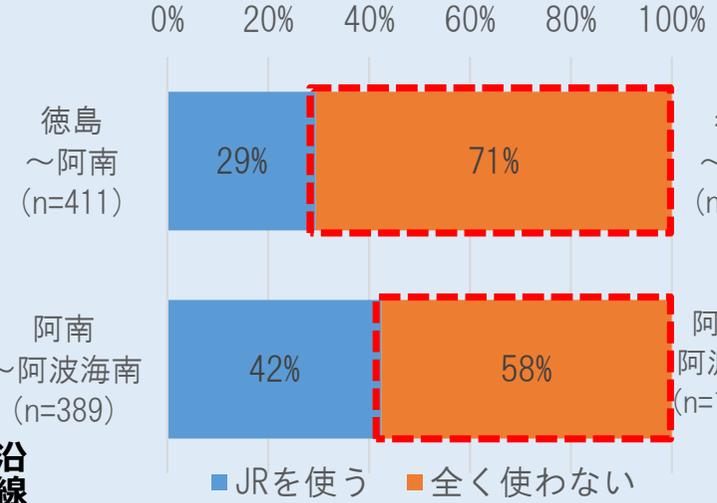
牟岐線（徳島～阿波海南）の駅間平均通過人員

● 平均通過人員（2025年度上期実績）：営業キロ1km当たりの1日平均旅客輸送人員（人/日）

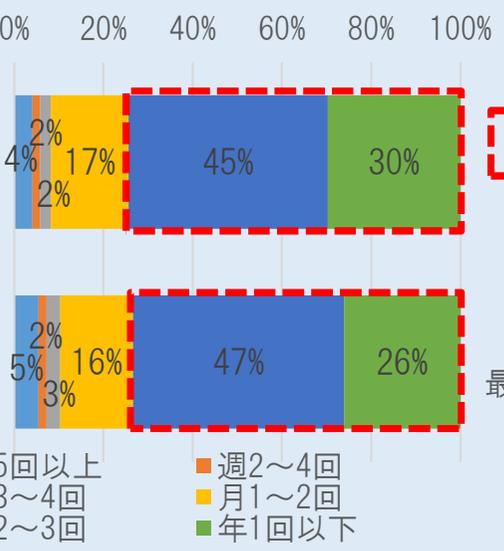


※端数処理により、合計値が合わない場合がある。

非日常利用も含めたJR牟岐線の利用状況



JR牟岐線の利用頻度

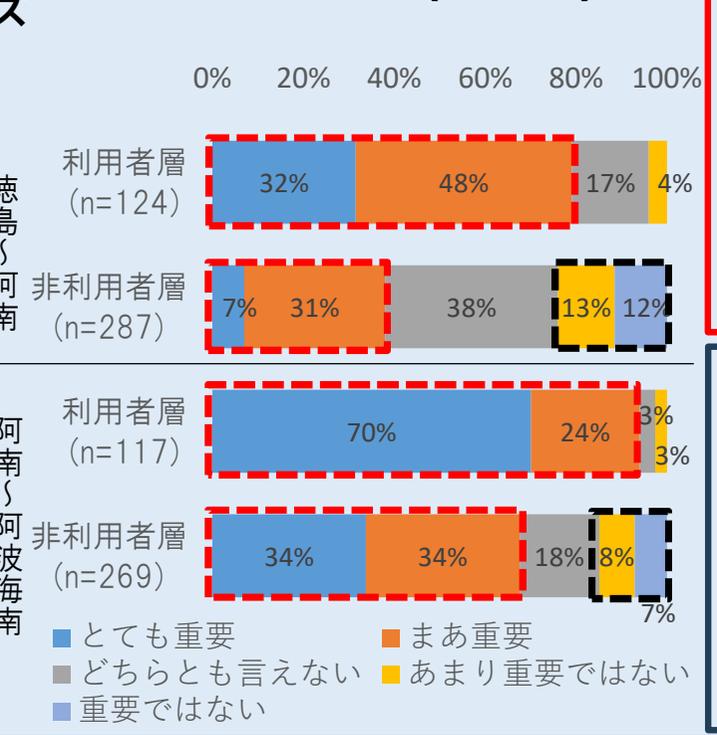


JR牟岐線を全く使わない理由 ※複数回答



沿線住民ニーズ

JR牟岐線の重要度認識(797件中)



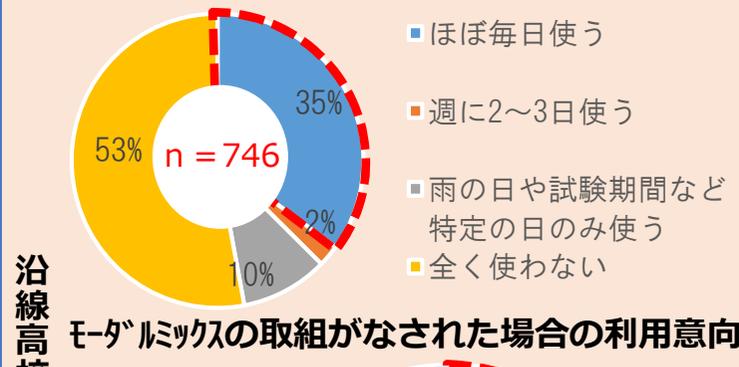
JR牟岐線が重要だと思える理由TOP5 (499件中)

- ※複数回答
- 無くなると地域が寂れる 306件 (61%)
 - 高齢者や体の不自由な方のため 305件 (61%)
 - 将来使うかもしれない 238件 (48%)
 - 通学のため 175件 (35%)
 - 観光客のため 143件 (29%)

JR牟岐線が重要だと思わない理由TOP5 (107件中)

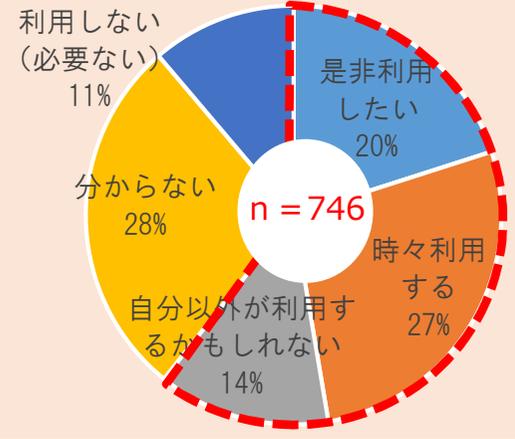
- ※複数回答
- 自家用車があるため不要 92件 (86%)
 - ダイヤ、路線等が不便 31件 (29%)
 - 目的地に直行できず不便 28件 (26%)
 - 所要時間がかかり過ぎる 18件 (17%)
 - 仕事や生活リズムに合わない 14件 (13%)

JR牟岐線通学利用

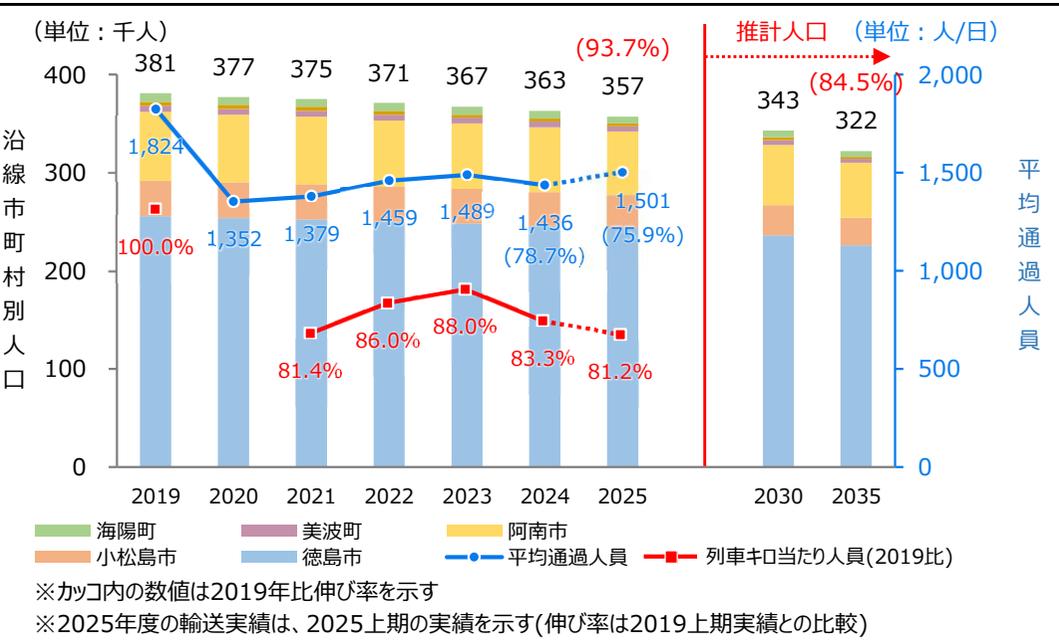


沿線高校生ニーズ

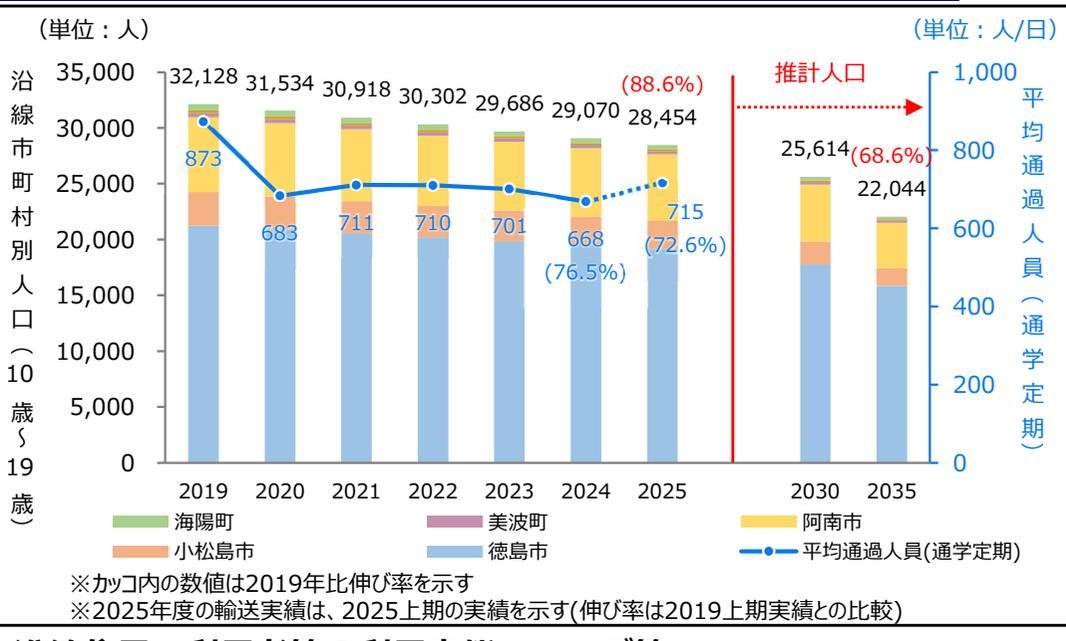
モーダルミックスの取組がなされた場合の利用意向



沿線人口および基本指標・関連指標の推移



沿線人口（10～19歳）および通学定期利用の推移



各項目の分析・検証

◆取組内容

- ・鉄道とバスの共同経営はモーダルミックスの先駆けとして利便性向上に貢献
- ・利用促進効果は限定的であるが、モード間利用が可能な企画乗車券を発売
- ・自治体による公衆トイレ整備により、駅待合環境を改善
- ・自治体によるリレーシンポを開催し、公共交通利用に対する機運を醸成

◆基本指標／関連指標

- ・平均通過人員は24%減少（未達）、1列車当たりの利用人員も19%減少（未達）
- ・平均通過人員は定期で24%、定期外で23%と大幅に減少
- ・定期では阿南～牟岐駅間で36～53%、定期外では阿南～阿波海南駅間で28～38%と顕著に減少
- ・駅間平均通過人員は200～5,300人/日で、徳島駅から阿波海南駅に向かうにつれてご利用が急減し、阿南～阿波海南駅間は徳島～阿南駅間に比べてご利用が極端に少ない
- ・沿線人口も減少が進んでおり、特に通学定期利用層は大幅に減少する見込み

◆沿線住民、利用者等の利用実態・ニーズ等

- ・徳島～阿南駅間では7割（71%）、阿南～阿波海南駅間では6割程度（58%）の方が非日常利用も含めてJRを全く使っておらず、使っている方でも7割（74%）が利用頻度は年2～3回以下と非常に少ない
- ・JRを使わない理由では「自家用車の方が自由度が高い」「自宅から駅が遠い」など、2次交通を含め、利便性の低さに対する意見が多い
- ・徳島～阿南駅間でJRを利用している方は8割程度（79%）、利用していない方は4割程度（38%）、阿南～阿波海南駅間でJRを利用している方は9割（94%）、利用していない方は7割程度（68%）が牟岐線は重要と思っており、徳島～阿南駅間でJRを利用していない方の割合が低い
- ・重要と思う理由では「無くなると地域が寂れる」が最も多く、次いで「高齢者等のため」「将来使うかもしれない」「通学・観光客のため」など、地域の足としての役割に加え、特に地域のシンボルとしての役割や自家用車が運転できなくなった場合の代替移動手段としての役割に対する意見が多い
- ・重要と思わない理由では「自家用車があるため不要」という意見が最も多く、移動の足として選択肢にされていない

◆沿線高校生の利用状況・ニーズ等

- ・通学で牟岐線をほぼ毎日使う高校生は4割近く（35%）で、半数（53%）は全く使っていない
- ・鉄道とバスのモーダルミックスに対する利用意向は自分以外も含め6割（61%）と高い

予土線（北宇和島～若井）の取組

特徴的な取組内容と効果・検証

◆ 利便性向上

○ モーダルミックス実証実験 2023.7～11高知県側(窪川～十川)

窪川～十川駅間を含む区間のJR乗車券類で、四万十交通バス「窪川-大正線」「大正-十和線」が利用可能となる実証実験
 ※費用の一部に四万十町の補助金活用



延利用人員	人/日	増便効果*	(参考) 増便効果金額換算*
372人	3.3	8本	約9,000千円相当

*窪川～十川のバス上下本数

*バス増便の総走行距離に対し、鉄道運行経費を基準単価として仮想的に換算

- ◎ JR乗車券類で並行路線バスを利用可能とすることで**実質的な増便効果**
- ◎ **輸送資源の総動員**による効率的な移動サービスの提供
- 沿線観光地等へのアクセス向上による周遊促進
- ▲ 観光利用者への周知に課題があり、大幅な利用増とはならなかった

○ 電動シェアモビリティ実証実験

2025.8.1～11.30

予土線沿線を含む南予南部地域において、公共交通の利用促進効果や有効性の確認等を行うため、鉄道・バスの交通結節点に、二次交通を補完する乗り物である電動シェアモビリティを試験導入

※愛媛県南予南部共創型交通アクセス向上事業にて実施



期間中の延利用人員	人/日
346人	2.8人/日

○ Wi-Fi導入実証実験

2025.9.1～11.30

JR予土線列車内環境の利便性向上による利用促進効果を検証するために、JR予土線の対象列車に可搬式のWi-Fi機器を設置する実証実験※愛媛県南予南部共創型交通アクセス向上事業にて実施

期間中の延アクセス数	アクセス/日
12,592	138.4/日



2024.10.5～2025.1.31

2025.7.1～2026.2.28 愛媛県側(宇和島～松丸)

宇和島～松丸駅間を含む区間のJR乗車券類で、宇和島自動車「虹の森公園前線」「日吉-野村線」の一部区間が利用可能となる実証実験

※2025年度実証実験ではバス定期券でJR予土線一部区間利用可能を追加
 ※愛媛県南予南部共創型交通アクセス向上事業にて実施



	延利用人員	人/日	増便効果*	(参考) 増便効果金額換算*
2024年度	1,443人	12.1	31本	約22,000千円相当
2025上期	1,008人	11.0	31本	約19,000千円相当

*宇和島～松丸のバス上下本数

*バス増便の総走行距離に対し、鉄道運行経費を基準単価として仮想的に換算

○ 自動運転モビリティ実証実験

2022.8.21～28 ※8/20には、出発式や試乗会などの関連イベントを開催
 サステナブルな公共交通の構築、予土線の利用促進を目的に、江川崎駅周辺で実証実験を実施
 乗車実績：延べ486人（乗車率：54.0%）
 予土線利用：24人



JR利用者数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
24人	+0.06人	約40千円

*北宇和島⇄江川崎を利用したものとして試算



○ チケットアプリ（スマえき）の展開

定期券（通勤・通学）利用者数 ※近永、土佐大正発着の定期券利用者数（一日平均）

	アプリ利用者数	全利用者数	アプリ定期券移行率
2023年度	2人	157人	1%
2024年度	13人	147人	9%
2025上期	12人	150人	8%

予土線（北宇和島～若井）の取組

特徴的な取組内容と効果・検証

◆利用促進

○しまんとグリーンラインフリーきっぷ発売

2024.2.1～2025.3.31

宇和島～窪川駅間の普通列車自由席が2日間乗り降り自由
予土線利用促進対策協議会からの要請により企画・発売

総発売枚数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
385枚	+1.8人	約850千円

*基本指標貢献度は北宇和島⇄若井を利用したものと試算、増収効果はきっぷの価格から試算

○お得な周遊型企画乗車券によるPRおよび利用促進

▲基本指標への寄与は限定的

▲着地との連携など他の企画乗車券との差別化が課題

○予土線FunFun祭りの開催

第1回：2021.10.9～10

第2回：2022.5.21～22

第3回：2023.11.11～12



予土線を走るラッピング列車を「Yodosen Fun Fun Trains」と命名し、予土線の利用促進や観光誘客等に取り組む活動の一環として、「予土線Fun Fun祭り」を計3回開催。沿線各会場でのイベント実施の他、イベント会場へのアクセスの便利な臨時列車・特別ツアーも開催

Yodosen Fun Fun Trains

	観客動員数	JR利用者数*	基本指標貢献度*
2021年度	約2,000人	約600人	+0.5人
2022年度	約2,300人	約1,000人	+0.8人
2023年度	約700人	約150人	+0.1人

*平時との比較から予土線利用人員を算出
*北宇和島⇄松丸を利用したものと試算



○交流人口の拡大、地域振興、機運醸成

○沿線自治体、学校等と一体となった賑わいの創出

▲一時的なイベント集客であり、基本指標への寄与は限定的

○予土線マルシェ

2023年度～

伊予宮野下、近永、松丸駅の駅前で年3～4回マルシェを開催
予土線で来場された方先着で500円分クーポンなどの特典あり

- ・伊予宮野下駅前賑わい創出事業実行委員会
- ・鬼inチカナガ実行委員会
- ・JR予土線駅前マルシェ実行委員会

等の主催

	JR利用者数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
2024年度	1,080人	+0.8人	約600千円

*北宇和島⇄松丸を利用したものと試算



○交流人口の拡大、地域振興、機運醸成

○予土線で来場した方へのクーポン贈呈による利用促進

▲一時的なイベント集客であり、基本指標への寄与は限定的

○予土線3兄弟をはじめとした観光列車の運行



	しまんとロッコ利用者数	基本指標貢献度*	(参考) 増収効果*
2024年度	3,657人 (延運行72日)	+10.0人	約9,000千円

*北宇和島⇄若井を利用したものと試算

○交流人口の拡大、地域等関係者との協働によるマイルール意識醸成

○乗車率63%と比較的堅調なご利用状況であり、基本指標にも寄与

▲乗務員不足による運行日数の縮小

○通学定期への補助（高校生）

愛媛県松野町

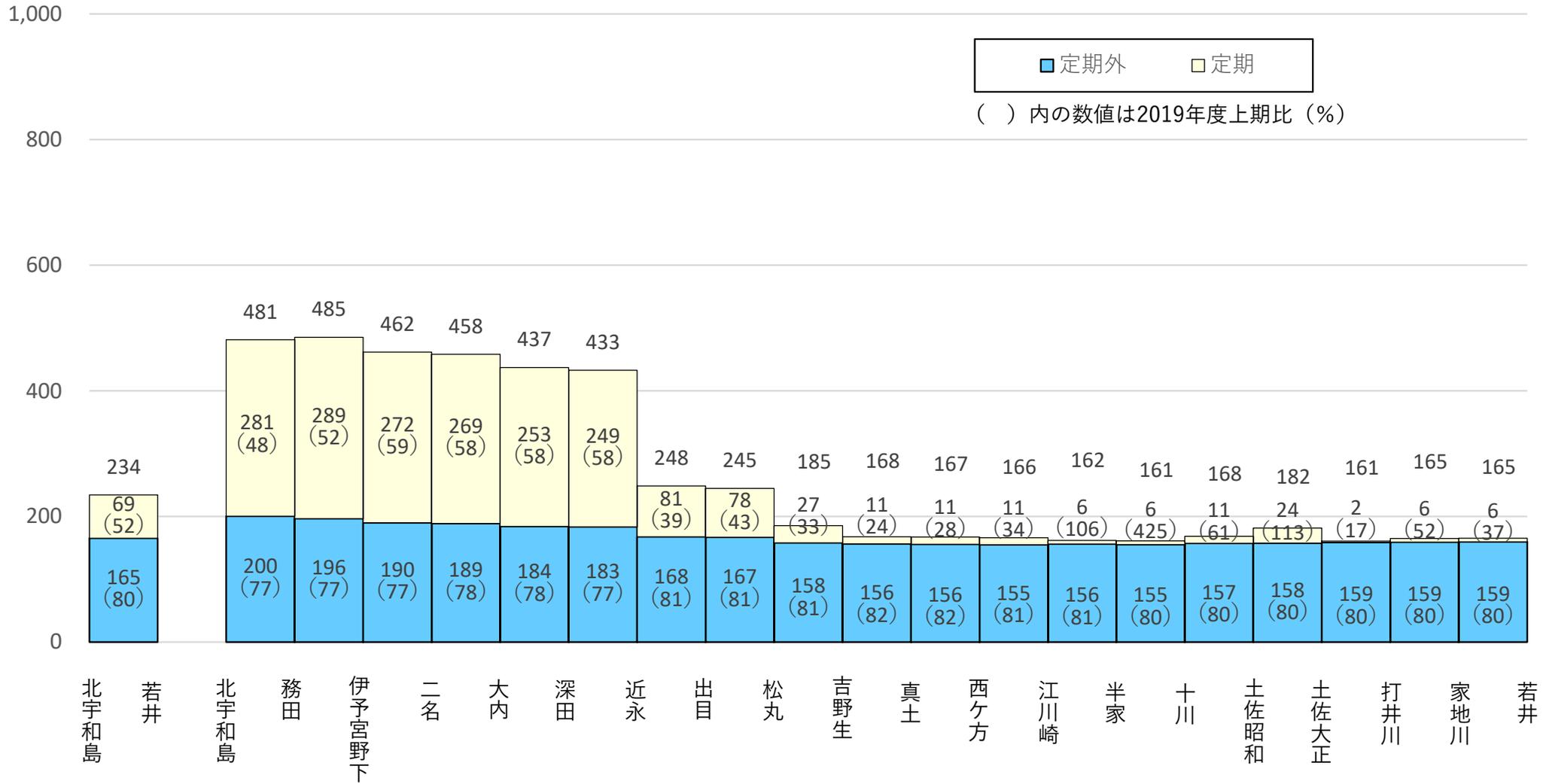
町内在住高校生の通学定期券について3/4の額を補助

高知県四万十町

町内高校に在籍し、通学定期乗車券を購入して公共交通機関を利用している生徒について、定期乗車券購入費の1/2の額を補助

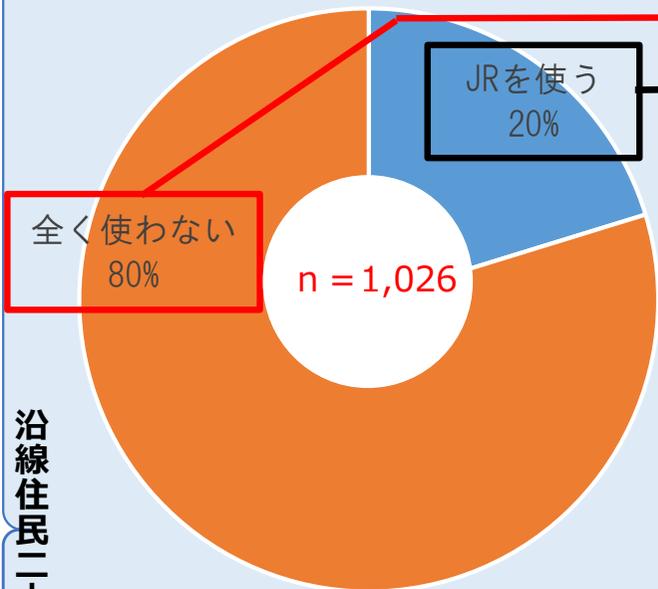
予土線（北宇和島～若井）の駅間平均通過人員

● 平均通過人員（2025年度上期実績）：営業キロ1km当たりの1日平均旅客輸送人員（人/日）

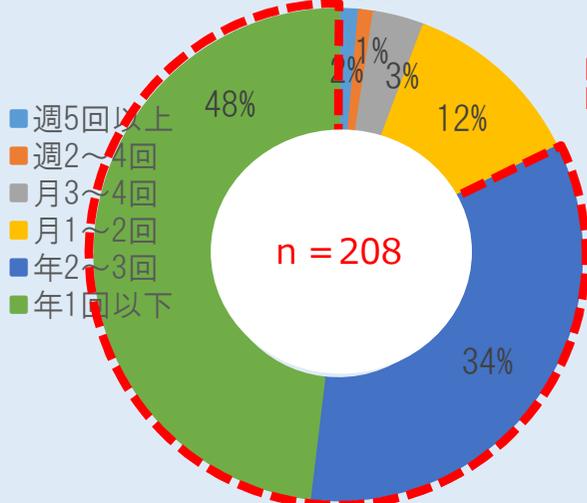


※端数処理により、合計値が合わない場合がある。

非日常利用も含めたJR予土線利用状況



JR予土線の利用頻度



JR予土線を全く使わない理由TOP5(100件中)

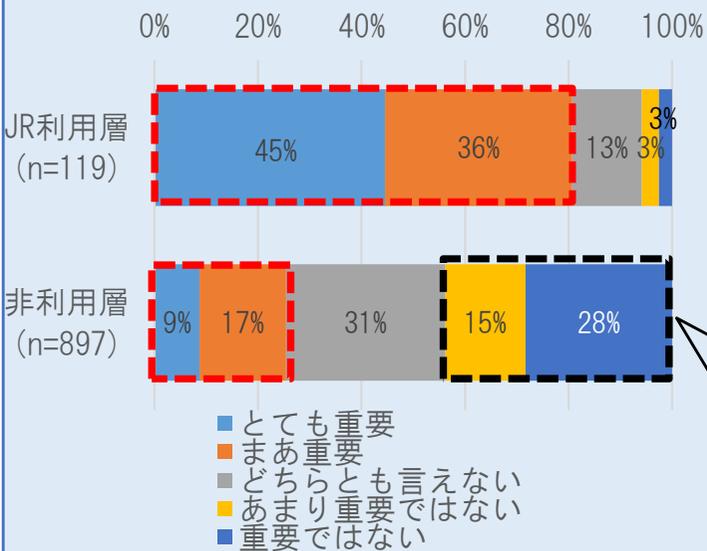
※愛媛県側の設問では、公共交通全体を対象としているため、高知県側の取得データのみを使用

※複数回答



沿線住民ニーズ

JR予土線の重要度認識(1016件中)



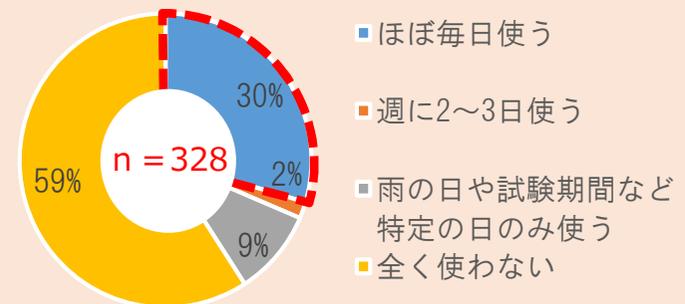
JR予土線が重要だと思う理由TOP5 (320件中)

- ・無くなると地域が寂れる 185件 (58%)
 - ・高齢者や体の不自由な方のため 177件 (55%)
 - ・将来使うかもしれない 161件 (50%)
 - ・観光客のため 121件 (38%)
 - ・通学のため 109件 (34%)
- ※複数回答

JR予土線が重要だと思わない理由TOP5 (352件中)

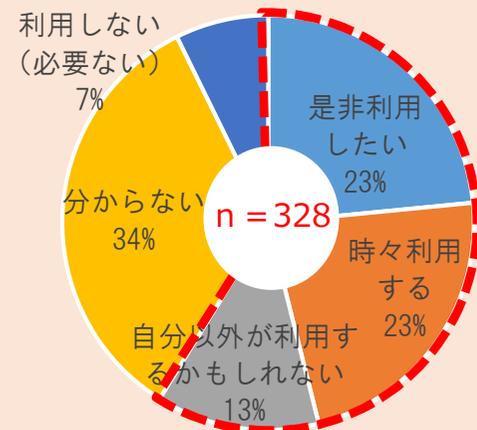
- ・自家用車があるため不要 303件 (86%)
- ・ダイヤ、路線等が不便 99件 (28%)
- ・目的地に直行できず不便 67件 (19%)
- ・仕事や生活リズムに合わない 35件 (10%)
- ・所要時間がかかり過ぎる 32件 (9%)

JR予土線の通学利用

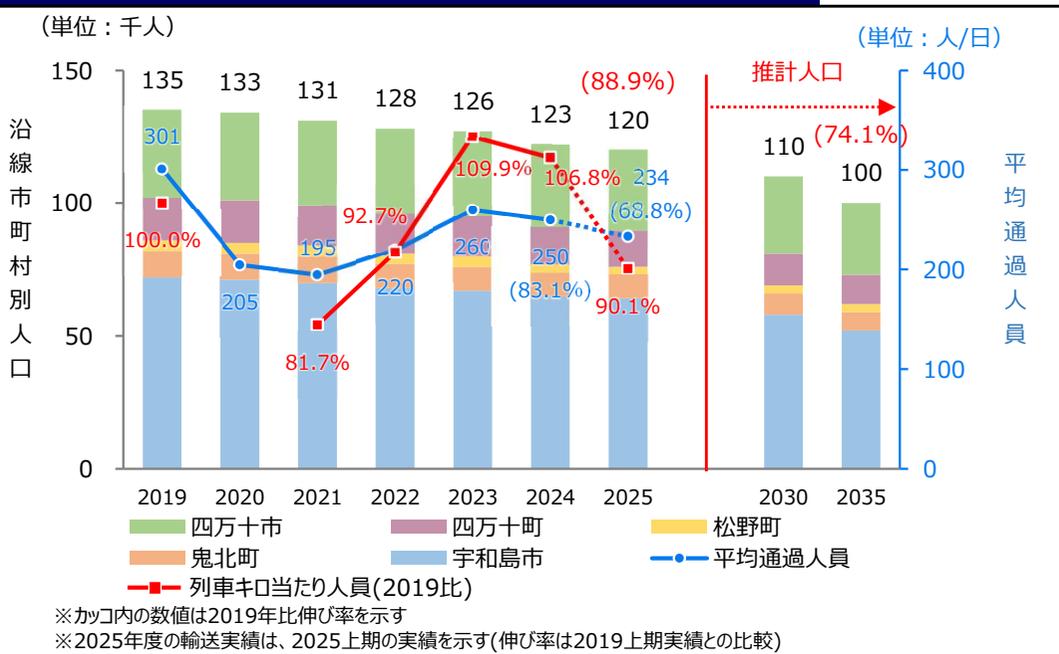


沿線高校生ニーズ

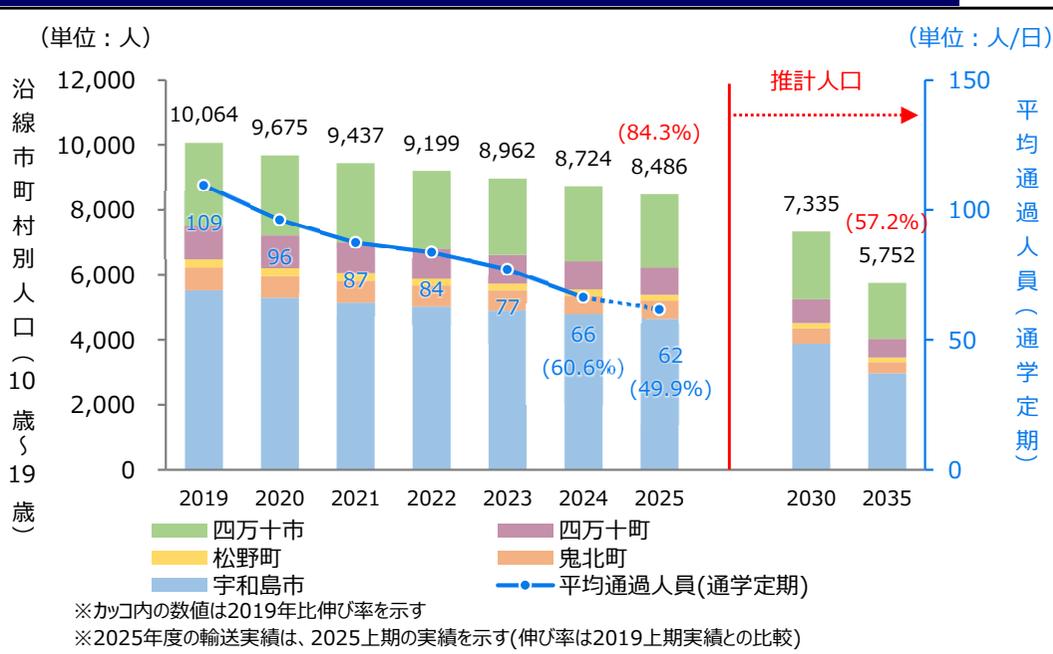
モータリックスの取組が実施された場合の利用意向



沿線人口および基本指標・関連指標の推移



沿線人口（10～19歳）および通学定期利用の推移



各項目の分析・検証

◆取組内容

- 自治体が主体となったモーダルミックス等の実証実験を実施し、鉄道とバス利用双方の利便性を向上
- 駅と道の駅を結ぶ自動運転実証実験を実施し、駅からの移動手段確保による利用促進及び地域の活性化にチャレンジ
- 地域が主体となった利用促進協議会の取組が増加するなど、公共交通の利用拡大に向けた機運を醸成

◆基本指標/関連指標

- 平均通過人員は31%減少（未達）、1列車当たりの利用人員も10%減少（未達）
- 平均通過人員は定期で48%、定期外で20%と大幅に減少
- 駅間平均通過人員は200～500人/日で、全線にわたってご利用が非常に少なく、特に松丸～若井駅間は他の駅間に比べて定期のご利用が極端に少ない
- 沿線人口も減少が加速しており、特に通学定期利用層は大幅に減少する見込み

◆沿線住民、利用者等の利用実態・ニーズ等

- 8割（80%）の方が非日常利用も含めてJRを全く使っておらず、使っている方でも8割（82%）が利用頻度は年2～3回以下と非常に少ない
- JRを使わない理由では「自家用車の方が自由度が高い」など、利便性の低さに対する意見が多い（※愛媛県側で未取得データのため参考値）
- JRを利用している方は8割（81%）が予土線を重要と思っているが、利用していない方は3割近く（26%）とかなり低い
- 重要と思う理由では「無くなると地域が寂れる」が最も多く、次いで「高齢者等のため」「将来使うかもしれない」「観光客・通学のため」など、地域の足としての役割に加え、特に地域のシンボルとしての役割や自家用車が運転できなくなった場合の代替移動手段としての役割に対する意見が多い
- 重要と思わない理由では「自家用車があるため不要」という意見が最も多く、移動の足として選択肢にされていない

◆沿線高校生の利用状況・ニーズ等

- 通学で予土線をほぼ毎日使う高校生は3割（30%）で、6割程度（59%）は全く使っていない
- 鉄道とバスのモーダルミックスに対する利用意向は自分以外も含め6割程度（59%）と高い

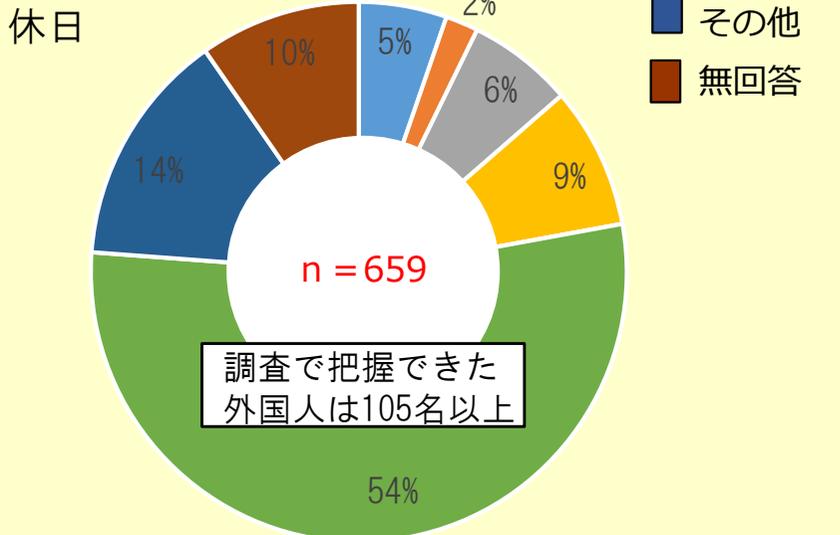
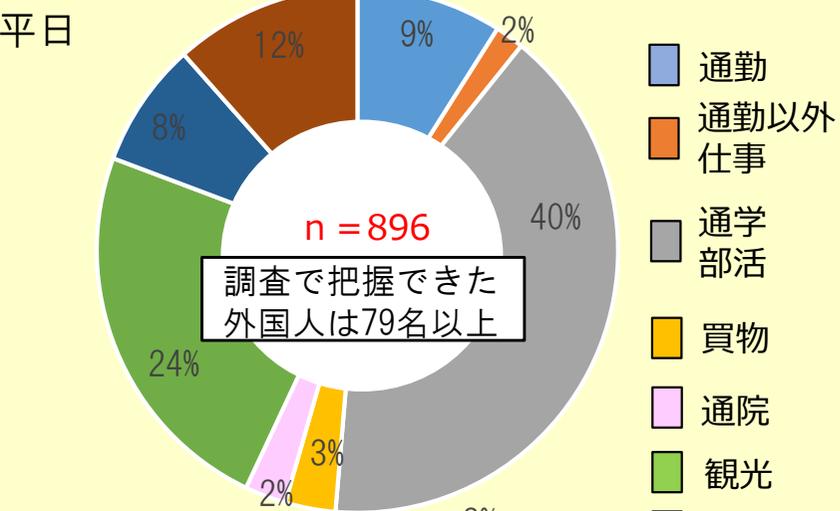
4 利用実態調査 (全列車全区間での全旅客調査)

- ・ 予讃海回り線 (向井原～伊予大洲)
- ・ 牟岐線 (阿南～阿波海南)
- ・ 予土線 (北宇和島～若井)

現状の輸送量やサービス水準に鑑み、効果的な利用促進施策や改善方策を検討する上で詳細な利用実態の把握が必要と考えられる線区・区間において、全列車・全旅客を対象にアンケート調査を行い、利用目的や利用動向等を把握する。

- ・平日の利用は通学目的が中心であるが、観光目的でも一定の利用がある
- ・休日の利用は平日の7割程度であり、半数以上が観光目的である
- ・平日の朝時間帯の利用は8割程度が通学目的である
- ・平日休日ともに朝時間帯よりも夕時間帯の利用が多く、平日は通学+観光、休日は観光目的が大半を占めている
- ・観光目的のうち3割程度がインバウンドであり、全体の7割程度が下灘駅発着である
- ・平日休日ともに昼時間帯の利用規模は朝夕時間帯に比べると1/2～1/3程度のレベルである

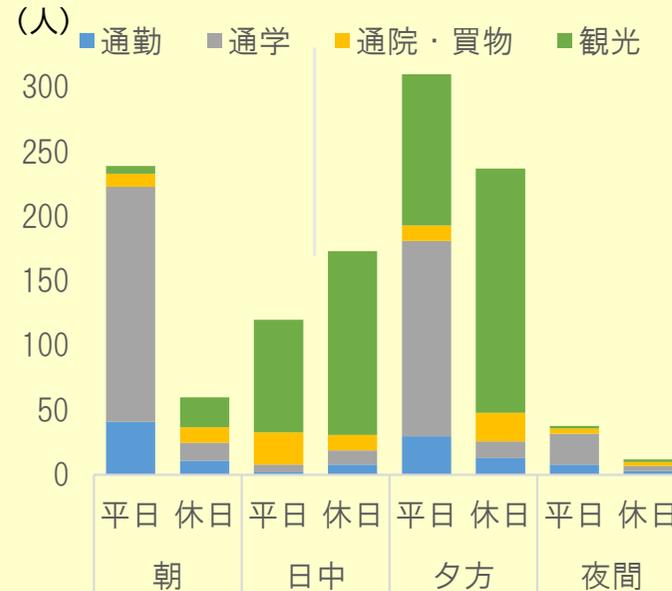
日別利用目的の比較



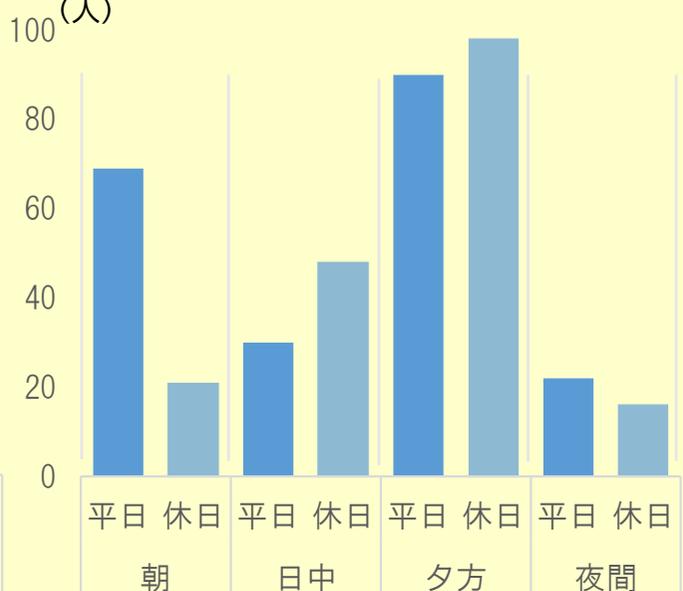
観光目的利用のOD分析



時間帯別利用状況

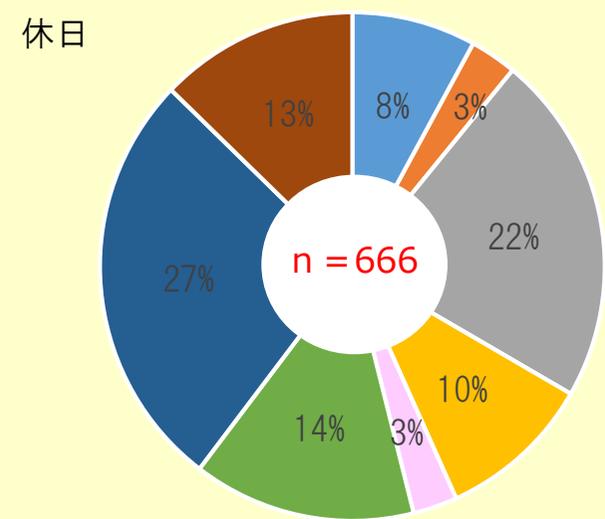
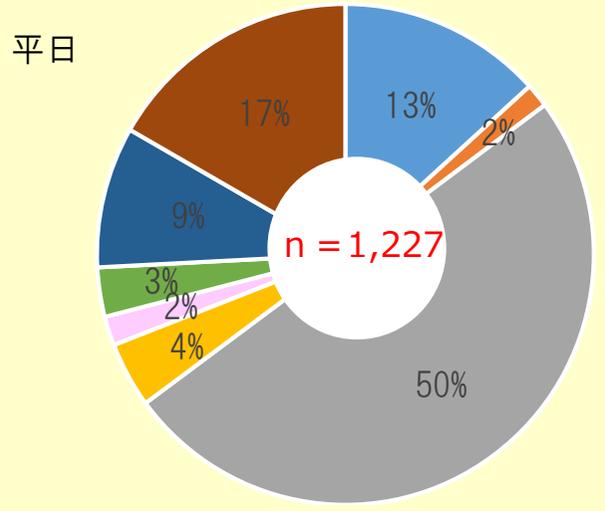


時間帯別最大乗車人員



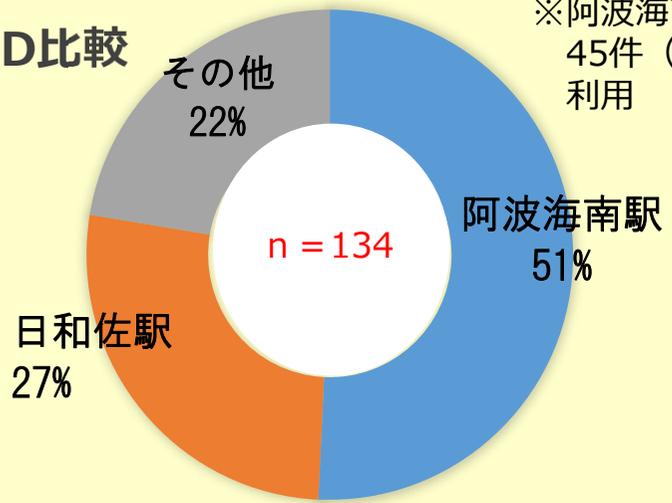
- 平日は通学目的が中心であるが、休日は利用目的が分散している ・ 休日の利用は平日の5割程度である
- 平日の朝時間帯の利用は7割程度が通学目的である ・ 観光目的では日和佐駅、阿波海南駅の発着が8割程度を占める
- 平日は朝夕時間帯に利用が集中しているが、休日は明確なピークがない
- 阿南～阿波海南間のうち牟岐～阿波海南間のご利用は1/2～1/10程度であり、平日の朝時間帯でも1列車当たりの最大乗車人員は40名程度である
- 平日の昼時間帯の利用規模は朝夕時間帯に比べると1/2～1/3程度のレベルである

日別利用目的の比較



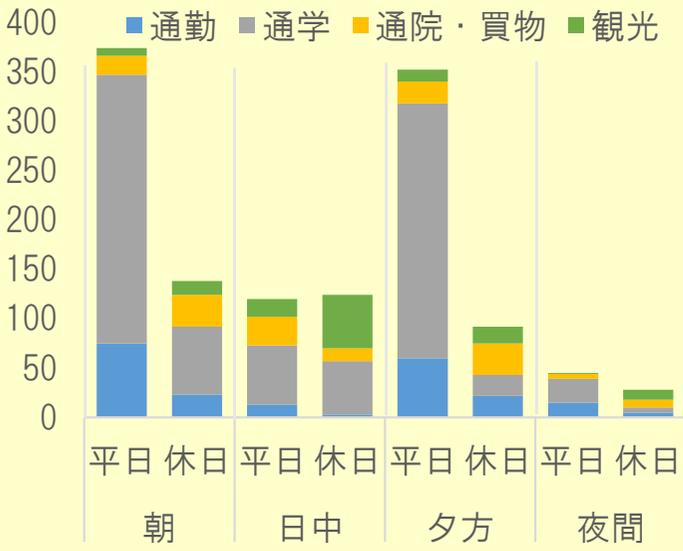
- 通勤
- 通勤以外仕事
- 通学部活
- 買物
- 通院
- 観光
- その他
- 無回答

観光目的利用のOD比較

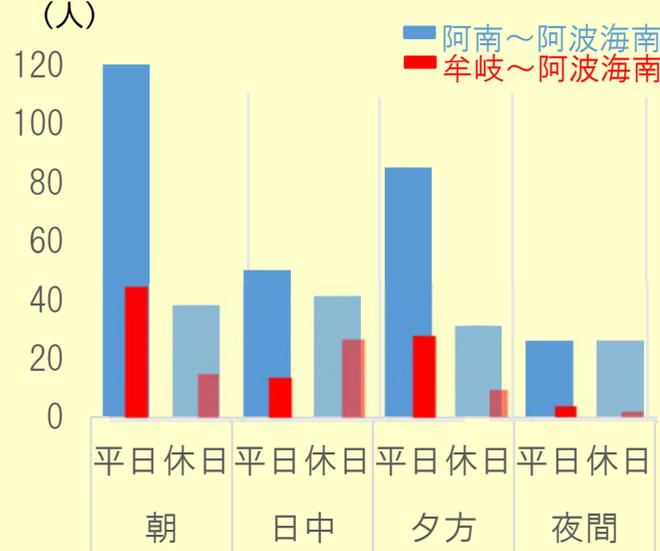


※阿波海南駅発着のうち、45件 (66%) がDMVを利用

時間帯別利用状況 (人)

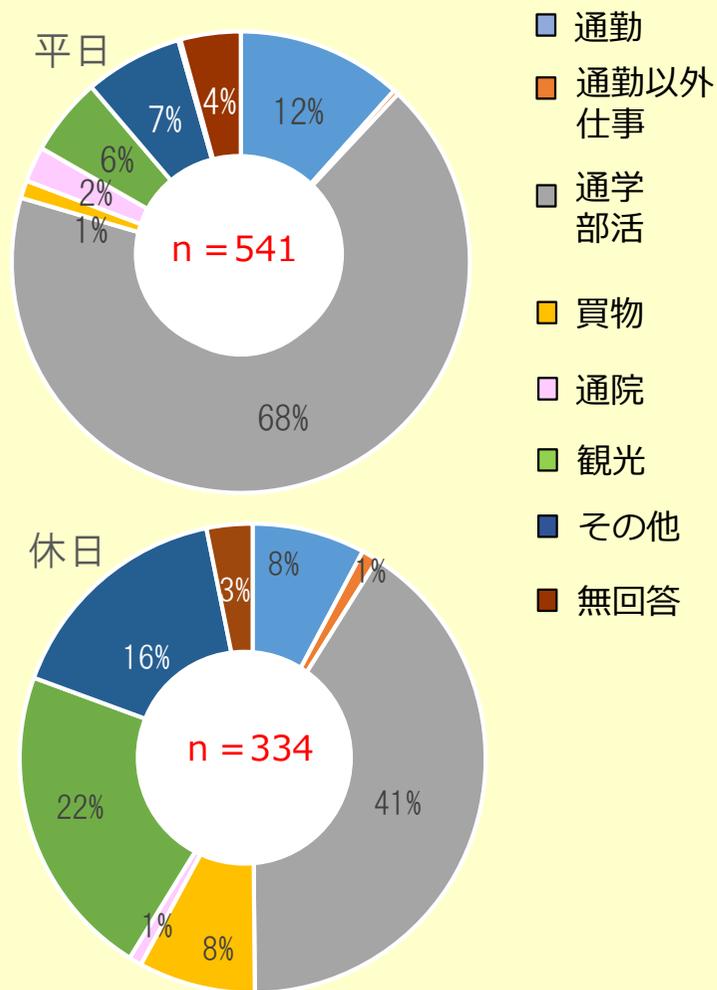


時間帯別最大乗車人員 (人)

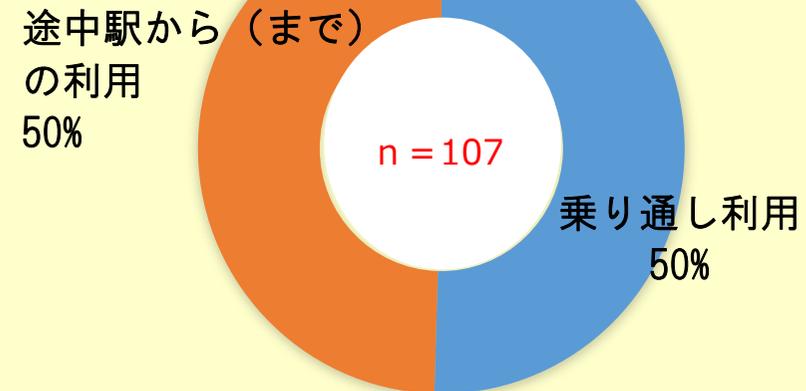


- ・平日休日ともに通学利用が中心であるが、休日は観光目的でも一定の利用がある
- ・休日の利用は平日の6割程度である
- ・平日は朝時間帯に利用のピークがあり、夕時間帯を含めて利用が集中しているが、休日は明確なピークがない
- ・観光目的のうち半数程度が全線乗り越し利用であり、途中駅での乗降は比較的少ない
- ・平日の昼時間帯の利用規模は朝夕時間帯に比べると1/3～1/5程度のレベルである
- ・昼～夕時間帯の1列車当たりの最大乗車人員は40名程度である

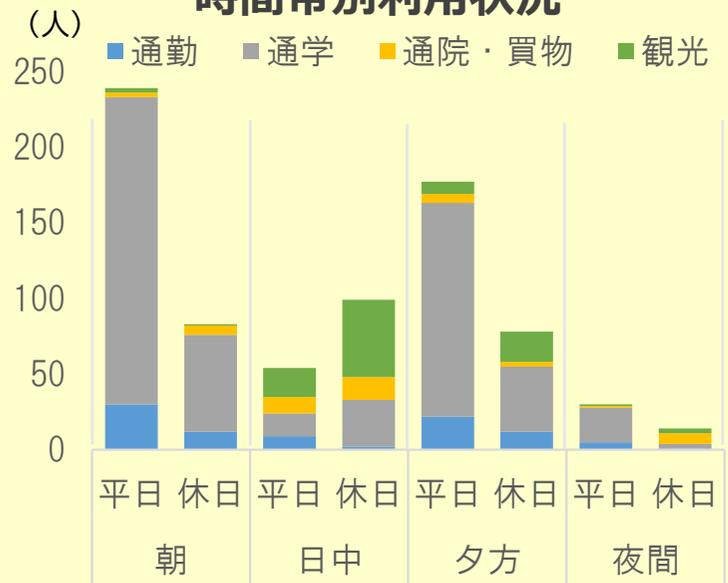
日別利用目的の比較



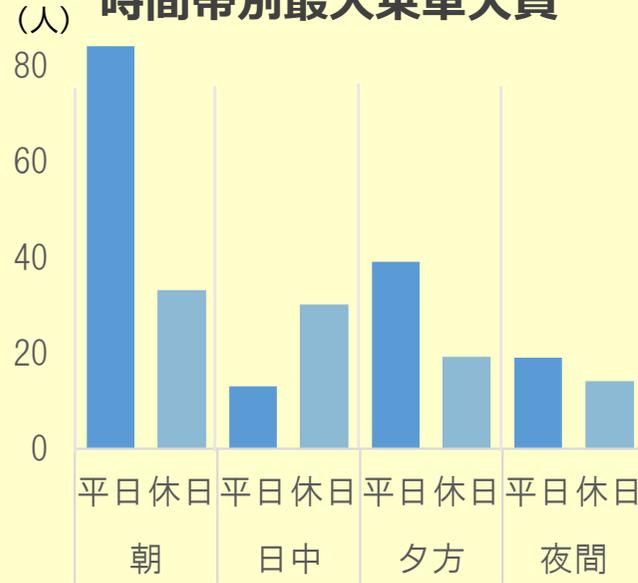
観光目的利用のOD比較



時間帯別利用状況



時間帯別最大乗車人員



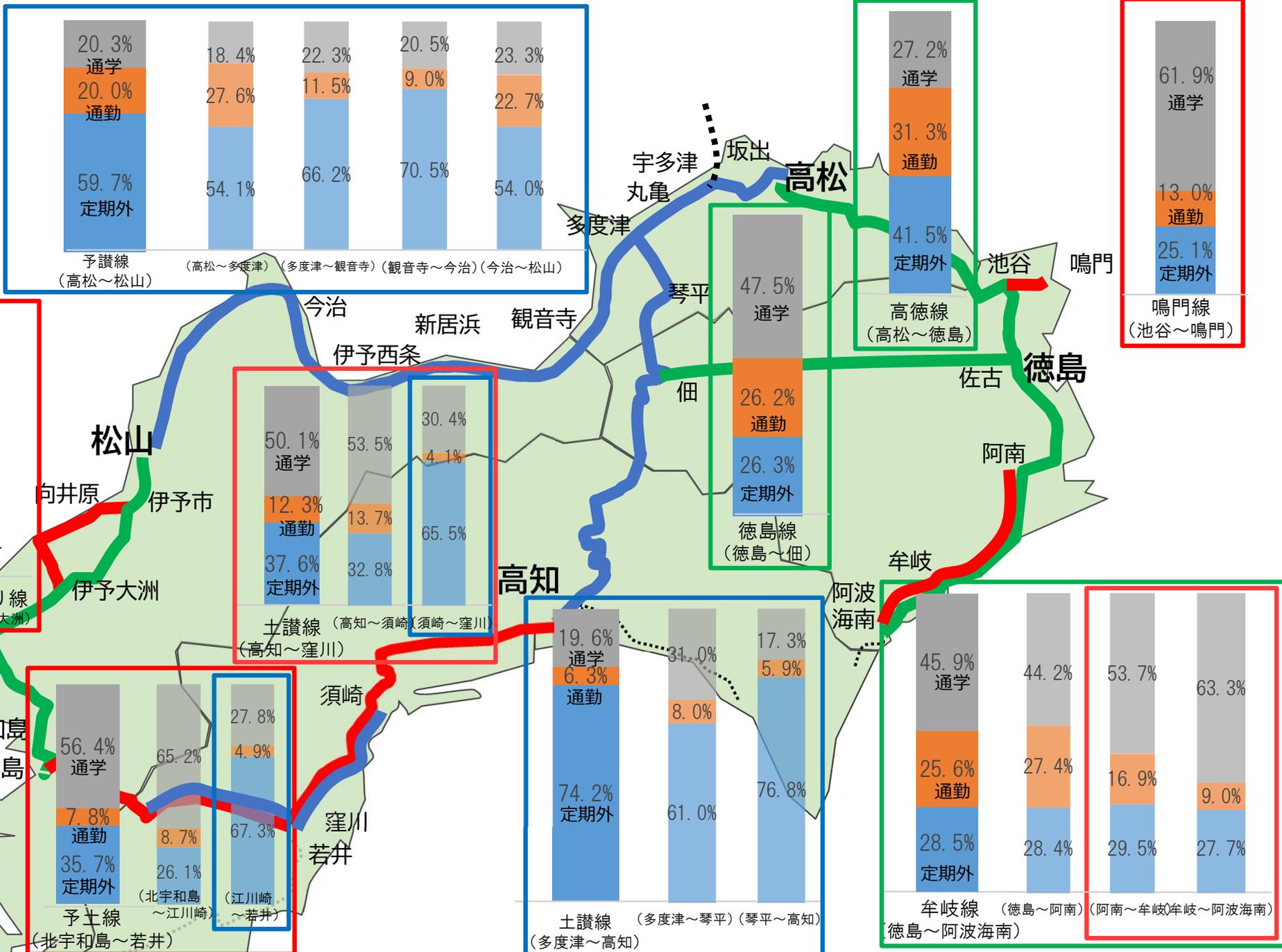
5 データとファクトによる線区比較

2024年度に実施した沿線住民に対する公共交通のニーズ調査や乗車券類発売実績等の客観的なデータに基づいた全線区の比較・分析により、各線区の特徴及び共通課題等を把握する。

各線区のご利用状況（主たる利用層の把握）

各線区における乗車券類（定期外、通勤定期、通学定期）販売実績の構成比をもとに、利用実態（利用層）の傾向を三つのタイプに分類。

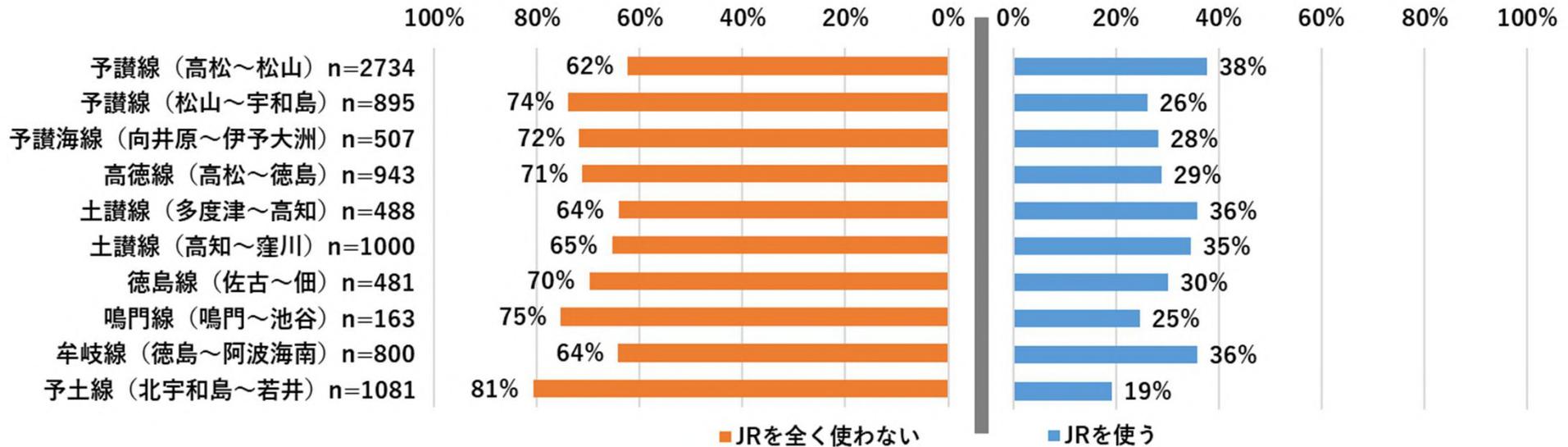
- 非日常利用型
- 通勤通学併用型
- 通学特化型



※2024年度実績による

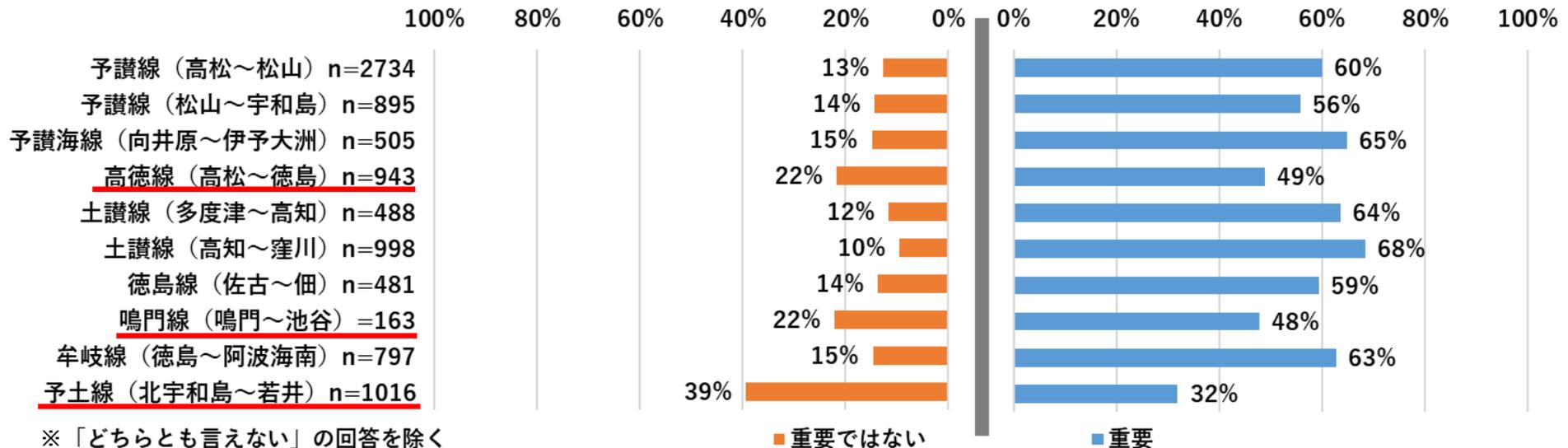
非日常も含めたJRの利用状況

非日常（年数回以下）も含めたJRの利用状況は19～38%で、すべての線区で全く利用しないと回答した割合が高い



JR路線の重要性認識

多くの線区で「JR路線はとても重要、まあ重要」と回答した割合が高いが、高德線、鳴門線、予土線ではやや低い



- ・全線平均では「車内サービス」「駅の待合施設」といった利用環境に対する満足度は高くなっているが、「運行本数」「運行時間帯」といった列車ダイヤに対する満足度は低い
- ・予讃海回り線は「運行本数」「運行時間帯」ともに全線区の中で最も満足度が低く、高德線、徳島線、鳴門線、牟岐線では全項目にわたって満足度が低い

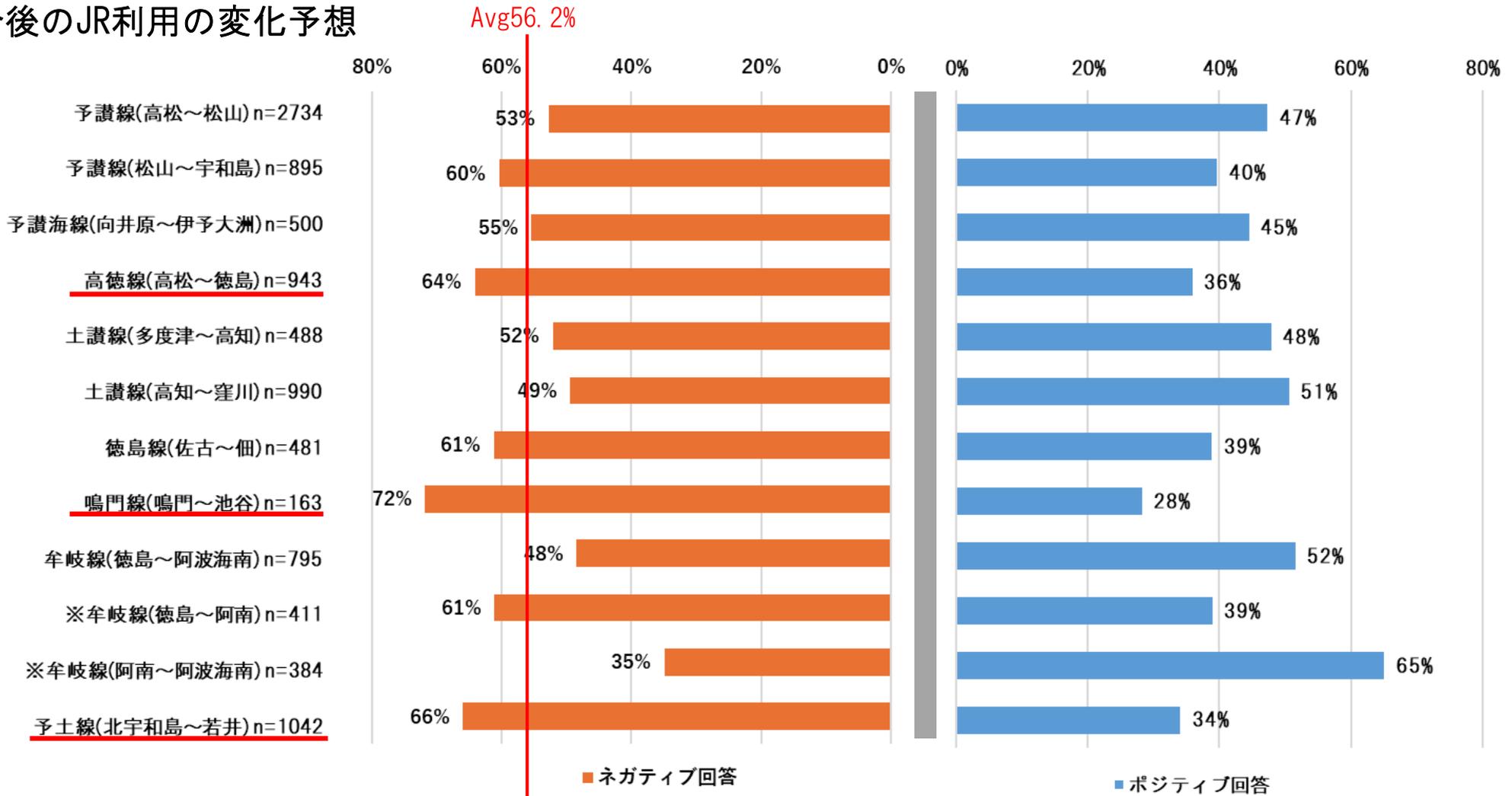
	運行本数	運行時間帯	運賃	車内サービス	駅の待合施設	他のJR便との乗継ぎ	他の公共交通との乗継ぎ	総合評価
全線平均	2.48	2.64	2.73	2.97	2.78	2.75	2.72	2.89
予讃線（高松～松山）	2.69	2.84	2.60	2.90	2.80	2.87	2.81	2.95
予讃線（松山～宇和島）	2.63	2.77	2.56	2.86	2.83	2.80	2.72	2.94
予讃海線（向井原～伊予大洲）	2.18	2.34	3.04	3.20	2.95	2.75	2.80	2.92
高德線（高松～徳島）	2.39	2.59	2.65	2.81	2.53	2.68	2.67	2.83
土讃線（多度津～高知）	2.90	2.97	2.87	3.01	2.98	2.94	2.90	3.08
土讃線（高知～窪川）	2.44	2.57	2.68	3.00	2.87	2.86	2.80	2.95
徳島線（佐古～佃）	2.39	2.45	2.45	2.88	2.55	2.52	2.53	2.63
鳴門線（鳴門～池谷）	2.37	2.59	2.62	2.80	2.65	2.53	2.55	2.76
牟岐線（徳島～阿波海南）	2.38	2.62	2.71	3.00	2.66	2.73	2.63	2.84
予土線（北宇和島～若井）	2.44	2.62	3.11	3.27	3.01	2.84	2.76	2.99

項目別満足度

- ・満足を5点～不満を1点として加重平均で点数化
- ・各項目の平均点を基準に点数が低いものは青色、高いものは赤色として区分

- ・今後のJR利用についてネガティブ層（現状より減る～今後も利用しない）が全線区平均で5割を超えている
- ・特に鳴門線、予土線、高徳線でのネガティブ層の割合が高い
- ・牟岐線は徳島～阿南間ではネガティブ層が多くなっている反面、阿南～阿波海南間ではポジティブ層が多い

今後のJR利用の変化予想



ネガティブ回答：

現在は利用しているが、今後は頻度が減ると思う
 現在は利用しているが、今後は利用をしなくなると思う
 現在も利用しておらず、今後も利用しないと思う

ポジティブ回答：

現在も利用しており、今後は更に利用が増えると思う
 今後も現在と同程度の頻度で利用すると思う
 現在は利用していないが、今後は利用するようになると思う

沿線地域住民を対象としたニーズ調査結果④ (JR利用を増やす方策)66



前項の今後の利用予測について、「現在はJRを利用しているが今後減るor利用しなくなる」「現在JRを利用しておらず、今後も利用する予定はない」と答えた方にどういった状況になればJRを利用してもらえるか、JR利用を増やす方策（複数回答のうち線区ごとの上位3項目を抽出）を尋ねた結果の線区別比較

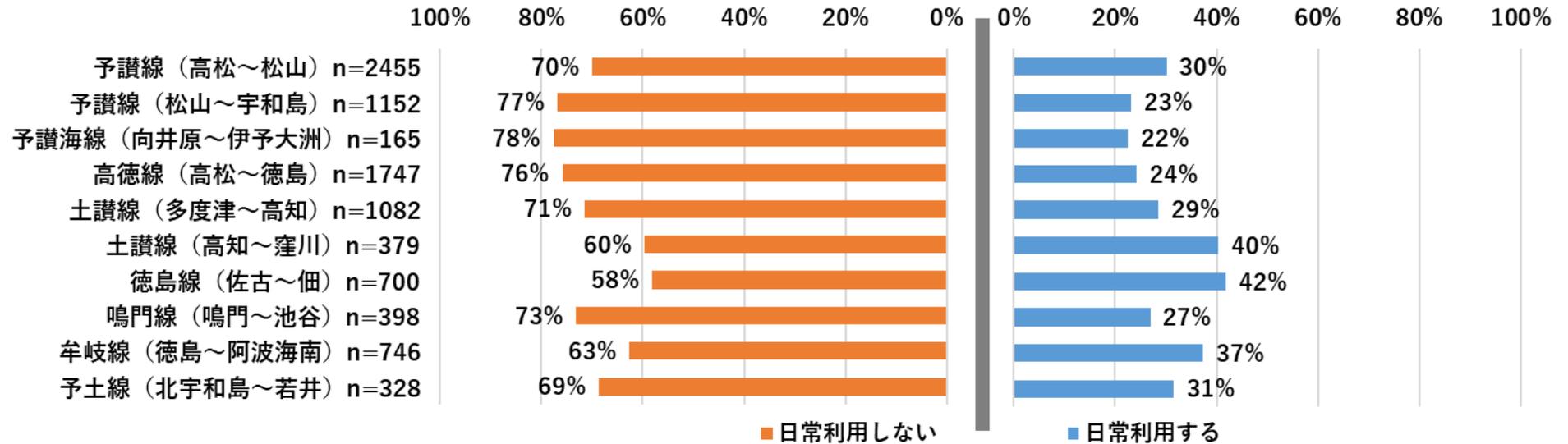
- ・多くの線区でJR利用者、非利用者ともに「運賃料金が安くなる」「便数が増える」と回答
- ・予讃海回り線、予土線では、特に非利用層で「駅周辺に魅力的な目的地」「外出したくなる取り組み」が多く回答されている
- ・JR利用を増やす方策を聞いたものの、「何があっても利用が増えることは無い」との回答が40%前後となっているが、牟岐線（阿南～阿波海南）、予讃海回り線においては20%程度と明らかにその割合が低い

路線	利用者/非利用者	鉄道の輸送サービスに関する項目			鉄道の輸送サービス以外の項目				「現在JRを利用しておらず、今後も利用する予定はない」の回答者における「何があっても増えることはない」の回答割合
		今より便数が増える	今より運賃・料金が安くなる	新しく駅や路線ができる	外出したくなる取り組みの充実	駅周辺に魅力的な目的地ができる	駅駐車場(駐輪場)の整備	駅からの二次交通の充実	
予讃線 (高松～松山)	利用者	31.1%	43.3%			35.3%			42.3%
	非利用者	30.6%	41.3%			32.1%			
予讃線 (松山～宇和島)	利用者	32.3%	33.8%			21.5%		21.5%	42.3%
	非利用者	32.3%	42.9%			30.8%			
予讃海線 (向井原～伊予大洲)	利用者	27.5%			35.3%	37.3%			19.0%
	非利用者	28.3%			48.8%	55.4%			
高德線 (高松～徳島)	利用者	58.2%	35.8%			37.3%			41.0%
	非利用者	36.6%	32.4%			34.3%			
土讃線 (多度津～高知)	利用者	30.0%	30.0%			30.0%			38.5%
	非利用者	32.0%	39.8%			30.5%			
土讃線 (高知～窪川)	利用者	28.9%	42.1%			40.8%			42.3%
	非利用者	34.6%	36.8%	27.2%					
徳島線 (佐古～佃)	利用者	41.7%	37.5%			29.2%			44.7%
	非利用者	49.2%	39.2%			36.2%			
鳴門線 (鳴門～池谷)	利用者	50.0%	41.7%		25.0%	25.0%			44.6%
	非利用者	44.6%	37.5%			41.1%			
牟岐線 (徳島～阿南)	利用者	51.7%				44.8%		41.4%	41.7%
	非利用者	42.9%	33.3%			41.3%			
牟岐線 (阿南～阿波海南)	利用者	52.0%				44.0%	40.0%		20.0%
	非利用者	36.8%	30.3%			32.9%			
予土線 (北宇和島～若井)	利用者	41.7%	30.6%		33.3%	30.6%			35.4%
	非利用者	26.3%			40.1%	47.2%			

…回答者割合が1位の項目 …回答者割合が2位の項目 …回答者割合が3位の項目 ※対象者のうち各項目を回答した方の割合を表記（複数回答可）

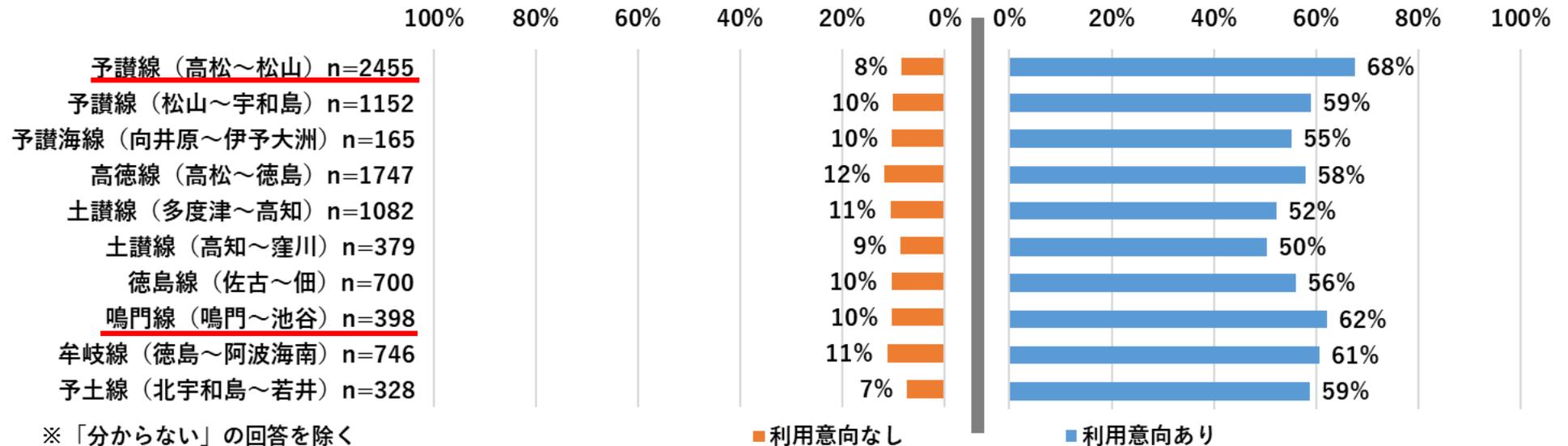
普段の通学におけるJR利用状況

沿線高校の生徒のうち、JRを通学手段として日常的に利用している割合は22～42%である一方、雨天等特定日のみの利用や、通学にJRを利用していない生徒は全体の58～78%にのぼる



モーダルミックスの取組が実施された場合の利用意向

自分以外も含めた利用意向は概して高く、予讃線 (高松～松山)、鳴門線で比較的高い割合となっている



6 「5カ年推進計画2021～2025」の総括検証

各線区の分析・検証、及びデータとファクトに基づく全線区の比較・分析により明らかとなった共通課題や各線区の個別課題等を整理するとともに、課題解決に向けた方向性を示す。

<各線区での分析・検証及び課題等の把握>

これまでの分析・検証により、地域の関係者と一体で取り組んできた利便性向上・利用促進施策等の内容や2019年度水準を目指した基本指標（平均通過人員）・関連指標（1列車当たりの利用人員）の達成状況、沿線住民・高校生を対象としたニーズ調査及び特定線区・区間における利用実態調査の結果等に基づき、全線区の共通課題や各線区の個別課題等を把握した。

<総括検証の実施>

総括検証では、まず、これまでの分析・検証により把握された全線区の共通課題と各線区の個別課題等を整理した。

このうち、共通課題については、外部要因として、**少子化に伴う人口減少による移動需要の減少、労働力不足**、また、サービス水準として**利便性の低さに起因する利用の回避**、利用実態から、**沿線住民の多くはJRを利用しておらず、一時的なイベントの利用促進策では効果が限定的**といった課題が抽出され、これらの課題に対する横断的な解決の方向性を示した。

次に、利用者数や目的別の利用状況、地域との関係性などを踏まえ、**各線区の現状・課題やポテンシャルの評価**を行った。

さらに、各線区の取組・課題等に基づき、各線区を一定の指標により分類した上で、**まちづくりとの連携や観光資源の活用、利用者満足度・重要性認識の向上、JR利用の拡大等**、地域の特性や利用ニーズを踏まえ、今後の方向性を示した。

全線区の共通課題と各線区の個別課題等を整理するとともに、全体としての構造的な問題に対しては横断的・広域的な対応を模索しつつ、各線区の実情に即した実効性のある取組の方向性を示すことで、四国の活力の維持・向上を支える持続的な鉄道網の確立に向けた検討へとつなげていく。

共通課題		方向性				
		便利で移動しやすい環境整備	非利用層への啓発も含めた利用促進	駅を中心としたまちづくり等による移動需要の創出	各種施策の効果と利用動向の把握、PDCAによる継続的な改善	自治体と連携した要員確保の取組
外部要因	全線区で平均通過人員が減少	●	●	●	●	
	コロナ禍を経た生活様式の変化により、移動需要が減少	●	●	●	●	
	四国全域で沿線人口の減少が加速度的に進んでおり、特に通学定期利用層は今後急速に減少が進む見込み	●	●	●	●	
	生産年齢人口の減少により、労働力不足の問題が顕在化					●
サービス水準	JRを利用していない方の理由では、2次交通を含め、利便性の低さに対する意見が多い	●	●			
	鉄道とバスのモーダルミックスに対する沿線高校生の利用意向は高いが、実装事例は僅少 (高徳線：三本松～引田駅、牟岐線：阿南～阿波海南駅)	●	●			
利用実態等	沿線住民のうち多くの方は非日常利用も含め、JRを全く利用していない	●	●			
	JRを利用している方でも利用頻度は年2～3回以下の割合が高い	●	●			
	沿線高校生のうち半数以上の方は通学手段としてJRを全く利用していない	●				
	地域と一体でさまざまな取組を進めてきたが、イベント的な利用促進策も多く、平均通過人員への効果は限定的				●	

線区	個別の課題等
予讃線 (高松～松山)	幹線として通勤・通学に加え、ビジネスや観光目的での利用も多いが、沿線人口は減少が進んでおり、将来的な輸送需要への影響が懸念される。主要駅周辺整備の進展により、ご利用者がコロナ禍前のレベルにまで回復した区間もあるため、引き続き沿線のまちづくりとの連携やMaaSの実装等、移動需要の維持・向上に向けた取組が必要である。
予讃線 (松山～宇和島)	通勤・通学に加え、インバウンドなど観光の足としての役割も担っているが、定期外利用は大きく減少しており、沿線人口の減少も含め、さらなる輸送需要の減退が懸念される。一方で、観光資源を活かした企画乗車券の発売により、新たな需要拡大の芽も見られることから、観光・交流を通じた定期外利用の拡大とともに、目的地の整備等、移動需要の創出に向けた取組が必要である。
予讃海回り線 (向井原～伊予大洲)	通学を中心に観光の足としての役割も担っているが、ご利用者は非常に少なく、特に沿線の通学定期利用層は大幅な減少が見込まれていることから、さらなる輸送需要の減退が懸念される。一方で、観光スポットとしてポテンシャルの高い駅や観光列車の存在は大きな強みであり、地域と連携したインバウンド需要等の拡大とともに、JR路線が地域にもたらす価値等も明確にする必要がある。
高德線 (高松～徳島)	通勤・通学に加え、ビジネスや観光の足としての役割も担っているが、沿線人口は減少が進んでおり、利用者満足度の低さも含め、輸送需要の減退が懸念される。自治体による通学利便性向上や駅舎整備等も進められているため、引き続き地域と連携して移動しやすい環境整備を進めることにより、利用者満足度の向上等を通じた利用促進・移動需要の拡大等に取り組む必要がある。
土讃線 (多度津～高知)	都市圏での通勤・通学や、観光目的等での都市間の利用が多く、定期が増加した区間もあるが、人口密集が低い区間での利用は限られており、沿線人口の減少も進んでいることから、将来的な輸送需要の減退が懸念される。定住・交流人口が少ない区間では利用のあり方を考えていくとともに、都市間・観光輸送と地域の足としての役割を両立させるための取組が必要である。
土讃線 (高知～窪川)	通学を中心に都市圏では一定の需要があるが、定期外利用は大きく減少しており、沿線人口の減少も進んでいるため、さらなる輸送需要の減退が懸念される。一方で、自治体による駅舎の利活用など、地域の拠点づくり・活性化に向けた取組も進められていることから、引き続き地域と連携した移動需要の創出、観光列車等を活用した交流人口の拡大に取り組む必要がある。
徳島線 (佐古～佃)	都市圏での通勤・通学目的での利用は一定の需要があるが、定期・定期外とも大幅に減少しており、沿線人口の減少や利用者満足度の低さも含め、さらなる輸送需要の減退が懸念される。観光列車等の活用による地域と連携・協力した交流人口の拡大とともに、利用者満足度の向上等を通じた日常利用の促進、移動需要の創出にも取り組む必要がある。
鳴門線 (池谷～鳴門)	通学の足としての役割を担っているが、定期外利用は大きく減少しており、沿線の通学定期利用層の大幅な減少や利用者満足度の低さも含め、さらなる輸送需要の減退が懸念される。目的地の整備など、駅周辺のまちづくりと連携した移動需要の創出とともに、2次交通と連携した利便性向上や、利用者満足度の向上等を通じた利用促進・定期外利用の拡大にも取り組む必要がある。
牟岐線 (徳島～阿波海南)	都市圏での通勤・通学の足としての役割を担っているが、阿南～阿波海南駅間ではご利用が非常に少なく、定期・定期外の大幅な減少や利用者満足度の低さも含め、さらなる輸送需要の減退が懸念される。一方で沿線に学生寮が整備された地域もあるため、モーダルミックスの深度化による利便性向上をはじめ、利用者満足度の向上等を通じた利用促進・定期外利用の拡大とともに、阿南～阿波海南駅間ではJR路線が地域にもたらす価値等も明確にする必要がある。
予土線 (北宇和島～若井)	愛媛県内を中心に通学の足としての役割を担っているが、ご利用者は非常に少なく、沿線の通学定期利用層の大幅な減少を含め、さらなる輸送需要の減退が懸念される。一方で、地域が主体となった利用促進協議会や自治体による利便性向上の取組も進められているため、引き続き日常利用の拡大、観光需要等の創出とともに、JR路線が地域にもたらす価値等も明確にする必要がある。

線区

これまでの取組と個別課題

方向性

大

予讃線（高松～松山）

平均通過人員 4,000人/日

予讃線（松山～宇和島）
 高德線（高松～徳島）
 土讃線（多度津～高知）
 土讃線（高知～窪川）
 徳島線（佐古～佃）
 鳴門線（池谷～鳴門）
 牟岐線（徳島～阿南）

平均通過人員 1,000人/日

予讃海回り線
 （向井原～伊予大洲）
 牟岐線（阿南～阿波海南）
 予土線（北宇和島～若井）

鉄道特性の発揮

小

- ・地域との連携による公共交通を利用しやすいまちづくり
 - ・地域との連携による駅舎整備や活用、トイレの整備等
 - ・タクシーとの連携によるMaaS実証の推進
 - ・JRの利用拡大に向けた課題：運賃料金の水準
- ・観光列車を活用した利用促進、地域活性化の推進(土讃、徳島)
 - ・連続テレビ小説と連携した観光振興によりご利用が増加（土讃）
 - ・観光資源とマッチした企画乗車券を発売（予讃）
 - ・地域との連携による駅舎整備や活用、トイレの整備等
 - ・自治体による通学利便性の向上（高德）
 - ・定期利用が極端に少ない区間が存在（土讃）
 - ・利用者満足度が低い（高德、鳴門、徳島、牟岐）
 - ・非利用層ではJR路線の重要性に対する認識が低く、今後の利用意向も低い（高德、鳴門、牟岐）
 - ・JRの利用拡大に向けた課題：運行本数・運賃料金の水準
- ・観光列車や観光資源、駅設備を活用した地域活性化の推進（予讃海回り、予土）
 - ・新しい交通モードの導入による相乗効果（牟岐）
 - ・地域主体の協議会による利用促進の取組（予土）
 - ・鉄道とバスによるモーダルミックスの先駆け+実証
 - ・大量輸送機関としての鉄道特性が発揮できていない
 - ・平日朝時間帯は通学目的以外での利用が少ない
 - ・定期利用が極端に少ない区間が存在（予土）
 - ・昼時間帯の1列車当たり利用人員は最大40名程度（予土、牟岐）
 - ・JR路線の重要性に対する認識は高いが、利用していない（予讃海回り、牟岐）
 - ・全線区の中でダイヤの満足度が最も低い（予讃海回り）
 - ・非利用層ではJR路線の重要性に対する認識が低く、今後の利用意向も低い(予土)
 - ・JRの利用拡大に向けた課題：運行本数の水準（牟岐,予土）
 駅周辺の魅力的な目的地（予讃海回り,予土）

- ・地域のシンボルとしての駅施設等の利活用
 - ・駅を中心としたまちづくり等による移動需要の創出
 - ・便利で移動しやすい環境整備
 - ・MaaS実装に向けた取組
 - ・コスト負担感の低減
- ・各種施策の効果と利用動向の把握、PDCAによる継続的な改善
 - ・各種イベントや観光資源と連動した利用促進の継続、水平展開
 - ・地域のシンボルとしての駅施設等の利活用
 - ・便利で移動しやすい環境整備
 - ・移動の足としての位置付けの整理
 - ・利用実態に応じた運行体系の検討
 - ・地域等関係者と連携したモーダルミックスの継続、水平展開
 - ・コスト負担感の低減
- ・各種施策の効果と利用動向の把握、PDCAによる継続的な改善
 - ・各種イベントや観光資源と連動した利用促進の継続、水平展開
 - ・地域のシンボルとしての駅施設等の利活用、セーフティネットとしての鉄道網の維持確保
 - ・JR路線が地域にもたらす価値等の明確化
 - ・持続可能な運行体系の検討
 - ・便利で移動しやすい環境整備
 - ・地域等関係者と連携したモーダルミックスの継続、実装に向けた取組、水平展開
 - ・駅を中心としたまちづくり等による移動需要の創出

平均通過人員

4,000人/日未満：「地域公共交通の活性化及び再生の促進に関する基本方針」において、大量輸送機関としての鉄道の特性を生かした地域旅客運送サービスの持続可能な提供が困難な状況にあるとされる区間の目安
 1,000人/日未満：「地域公共交通の活性化及び再生の促進に関する基本方針」において、早急な改善が必要とされる区間

7 事業の抜本的改善方策の検討

各線区の共通課題や個別課題等の解決に向けた方向性を踏まえ、事業の抜本的改善方策について検討する。

これまで進めてきた鉄道の利便性向上や利用促進施策、2次交通も含めた公共交通利用に対する機運醸成の取組は、持続的な鉄道網の確立に向け、必要不可欠であることから、引き続き地域の関係者と一体となって取り組むとともに、PDCAサイクルを確実に回すことで、取組内容の改善・深度化を進めていく。

<改善・深度化を進める内容>

具 体 例

● 「公共交通ネットワークの四国モデル」のさらなる追求
（ご利用者の視点に立った移動サービスの向上・強化）



タクシー、シェアモビリティ等
二次交通とのさらなる連携

● 脱炭素社会も見据えた公共交通へのモーダルシフトの加速化

↑ 上予約ができる日曜駐車場				
駐車場名	管理業	台数	料金 (円/台)	備考
高松駅日曜駐車場 (高松駅西口上)	JR四国	—	300	月曜以降に空きがあれば予約可
高松駅日曜駐車場 (高松駅北口上)	JR四国	—	300	月曜以降に空きがあれば予約可

↓ 予約ができない日曜駐車場				
駐車場名	管理業	台数	料金 (円/台)	備考
高松駅日曜駐車場 (高松駅西口下)	JR四国	10	350	予約不可

香川県HPでP&R情報掲載

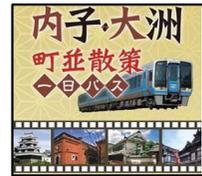


南国市通学支援
(定期券購入補助)



利用促進キャンペーン

● 新たな移動需要の創出及び拡大に向けたエリアの魅力度向上



地域資源と連携した企画乗車券の発売



集客イベントの定期開催



駅周辺の目的地整備

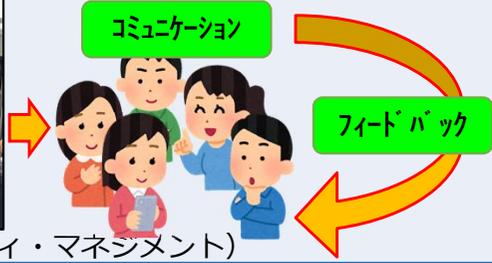
● 継続的なモニタリング調査等による各種施策のブラッシュアップ
（利用実態に応じた効果的な施策の検討・分析）



継続調査によるモニタリング



行動変容への働きかけ（モビリティ・マネジメント）



● 人材の確保・育成・定着に向けた自治体等との連携強化



徳島県と連携した高校生向け
職場見学会



香川県地域おこし協力隊を1名募集します

香川県
地域おこし協力隊による
担い手確保支援
:さめきの輪WEB
香川県地域おこし協力隊

四国全域で加速化する人口減少を見据えると、ご利用が減少し大量輸送機関としての鉄道特性の発揮がより困難になっている線区（特に平均通過人員が1,000人/日未満）については、利用者や地域戦略の視点に立った、利便性と持続可能性の高い地域公共交通ネットワークの実現に向けて、沿線自治体等関係者との議論・検討を進めていく必要がある。議論・検討に当たっては、データとファクトに基づき、沿線地域のまちづくりを含めたJR路線が果たす役割や地域にもたらす価値等を丁寧に検証するとともに、地域の関係者と連携・協働して、事業性向上に資する取組や施策についても検討していく必要がある。

なお、沿線自治体等関係者との議論・検討や地域と一体となって取り組む抜本的改善方策の具現化に向けては、既存の協議会等の活用もしくは線区別に新たな会議体を設置することで、円滑・確実な推進を図っていく。

＜検討する取組・施策＞

- 利用実態に合った効率的な運行体系の構築
- 特性に合わせた鉄道とバス・デマンド交通の運行（公共交通の役割分担と連携）
- 自治体等による駅舎を含めた鉄道施設の維持管理（シンボリック価値を活かした沿線地域の活性化）
- 自治体等との共創による一部の定期列車や企画列車の運行
（ニーズに応じたコミュニティトレイン・スクールトレインの運行）

	JR	バス
5		
6		
7	10	
8		24
9	10	24 D
10		24 D
11		24 D
12		24 D
13		24 D
14		
15	10	24
16		
17	10	
18	10	
19	10	
20		
21	10	
22		

公共交通の役割分担
（駅の発車時刻表）



シンボリック価値を活かした沿線地域の活性化

主な取組事例（全線共通）

四国における鉄道ネットワークのあり方に関する懇談会Ⅱの中間整理に基づき立ち上がった四国4県の県別組織※による各種取組と連携し、5カ年推進計画の検証を行う。

※

徳島県生活交通協議会ワーキング部会
香川県鉄道ネットワークあり方懇談会
愛媛県鉄道ネットワークあり方検討会
高知県鉄道ネットワークあり方懇談会

主な取組事例（全線共通）

交通モード間の利便性向上・連携強化、交通結節機能の強化

◆運行体系、ダイヤ面での連携

(1)パターンダイヤの導入

- ・都市圏を含む全線区への導入・拡大
 - ・時間が統一されたパターンダイヤの導入により、
 - ◇利用者にとってわかりやすい時間に
 - ◇他モビリティが接続しやすい（交通結節点強化）
- ⇒路線バス・コミュニティバスの路線見直し・再編
JRとの接続を意識したダイヤ設定

8	01	10	30
9	13	15	45
10	13	15	45
11	13	15	45
12	13	15	45
13	13	15	45
14	13	15	45
15	13	15	45
16	13	15	45
17	13	29	49

高知駅発車時刻表の一部

(2)鉄道・並行バス共通時刻表作成

- ・JR四国ポケット時刻表（2024.3販売終了）
- ・JR四国HP内に、並行するバスの時刻表を掲載
予讃海回り線・土讃線・予土線・牟岐線の一部区間

鉄道とバスを合わせることで移動機会が増え、お客様の移動ニーズに応じた公共交通機関の利用が可能。

発着駅	バス種	バス													
		普通バス	宇和島バス	普通バス	宇和島バス	普通バス	宇和島バス	普通バス	宇和島バス	普通バス	宇和島バス	普通バス	宇和島バス	普通バス	宇和島バス
宇和島発	宇和島駅前発	5:46	7:06	7:27	8:54	9:34	10:34	11:27	11:54	11:59	13:24	13:27	13:34	14:54	15:14
北宇和島発	工場前発	5:49		7:30	9:02	9:37	10:42	11:30	12:02			13:30	13:42	15:02	
務田発	務田発	6:01		7:43	9:11	9:50	10:51	11:43	12:11			13:43	13:51	15:11	
伊予宮野下発	Aコープ三輪発	6:04		7:48	9:17	9:52	10:57	11:48	12:17			13:48	13:57	15:17	
二名発		6:07		7:52		9:57		11:52				13:52			
大内発		6:11		7:55		10:00		11:55				13:55			
深田発	深田発	6:16		8:01	9:30	10:06	11:10	12:01	12:30			14:01	14:10	15:30	
近永着	近永駅前着	6:19	7:28	8:04	9:33	10:09	11:13	12:04	12:33	12:21	13:46	14:04	14:13	15:33	15:36

JR四国HP「鉄道・バス時刻表」

◆営業面での連携

異なる交通モードが利用できる企画乗車券の発売

- ・「徳島・室戸・高知55フリーきっぷ」、「ことடன்・JRくるり〜んきっぷ」
- ・「四万十・宇和海フリーきっぷ」、「ひがしこうち1日フリーきっぷ」
- 等、他交通事業者と連携し、便利でお得な企画乗車券を発売
- ※一部商品は「スマえき」でも購入可能



◆その他

利便性向上商品の開発

- チケットアプリ「しこくスマートえきちゃん」の開発と導入
お手持ちのスマホで『いつでも・どこでも』『キャッシュレス』
- ・2023.4～ 片道普通乗車券、自由席特急券、定期乗車券の取扱い開始
- ・2024.3～ 決済手段にPayPayを追加
- ・2024.11～ デジタル障害者手帳「ミライID」との連携開始
- ・2025.3～ 土佐くろしお鉄道線内で完結する乗車券類の取扱い開始
- ・2025.8～ さぬき市コミュニティバスの取扱い開始



駅や路線の活性化、利用環境の充実

◆駅環境整備

自治体による公衆トイレ整備

- ・無人駅や改札外トイレはお客様以外の使用も多く維持管理に苦慮
- ・公衆トイレを駅周辺に整備・維持管理いただくことにより駅周辺の環境改善とJR四国の設備管理コストを軽減



多言語案内の整備

- ・駅へのデジタルサイネージの整備
 - ①運行情報音声出力 ②5言語表示、2言語音声出力
 - ③運行情報及び列車走行位置情報の表示
- ・みどりの券売機プラスの整備
- ※各県支援活用



Wi-Fi環境の整備

- ・主要駅においてフリーWi-Fiの整備
- ・徳島、高松、松山、高知の4駅で個室型ワークブースを設置



主な取組事例（全線共通）

観光振興への取組

◆イベント開催時等の連携

四国デスティネーションキャンペーンとの連携（2021.10～12）

- ・「くるりめぐろう四国旅モバイルスタンプラリー」スポットの設定（4県15施設+JR観光列車）
- ・各地で歓迎セレモニーを実施
 - 「四国まんなか千年ものがたり」出発式（琴平駅）
 - 「伊予灘ものがたり」出発式（松山駅）
 - 「藍よしのがわトロッコ」出発式（徳島駅）
 - 「時代の夜明けのものがたり」出発式（高知駅）
- ・「四国一周号」の運転
- ・WEST EXPRESS銀河 琴平駅乗り入れ
- ・「高知横断特急」を奈半利～宿毛間で運転



◆その他

インバウンド向け企画乗車券の発売

○ALL SHIKOKU Rail Pass販売

- ・四国内鉄軌道会社5社と小豆島フェリー、小豆島オーリーブバスと共同で訪日外国人向け四国鉄道共通フリーパスを発売（2012.4～）
- ・JR四国及び土佐くろしお鉄道全線の特急・普通列車自由席と四国の私鉄各社、小豆島フェリー等に3～7日間乗り放題
- ・関係機関との連携による海外からの四国への誘客促進、四国内インバウンド需要の更なる拡大に向けた取組

○JR SHIKOKU Pass 3DAYS発売（2022.5～2023.3）

- ・訪日または在留外国人限定で、JR四国、土佐くろしお鉄道全線に3日間乗り放題

◆その他

自治体等と連携した駅起点ツアーの造成

- ・「四国家のお宝」シリーズ
 - 四国の地域資源・文化資源を掘り起こし、地域と協働して観光素材へ磨き上げ旅行商品として販売。観光による地域活性化への取組
 - 『ロメインレタスと豊稔池』『宇和島城と伊達文化』『阿波水軍の根拠地・漁師町椿泊の町並み』『春を呼ぶ小さな森の妖精バイカオウレン』など、33企画設定（2024年度）
- ・「地域観光チャレンジ」企画商品の造成
 - 四国の4国立大学の学生が、四国の地域資源を調査・発掘し、観光の素材として付加価値を与えた企画商品を提案
 - 『五感で味わう牧野富太郎』『食と酒で感じる清流・四万十川』



その他利用促進への取組

◆美化活動

- ・地域団体と連携した駅清掃活動等の実施
- ・地元高校生によるマナーアップキャンペーン（駅利用者へのマナー向上の声掛け等）
- ・地元園児等による季節ごとの駅飾り付け（こいのぼり、七夕、クリスマス、お正月等）



その他取組

◆安全性向上への協力

異常時訓練・安全PR活動への参加協力
テロ等対応訓練、踏切安全通行PR活動への協力



徳島県内の取組

～徳島県生活交通協議会ワーキング部会～

主な取組事例（徳島県内）

駅を中心としたまちづくり

◆駅周辺整備

阿南駅前周辺まちづくりの推進

- ・2029年度までに市民ニーズの高い図書館機能を中心とした複合施設整備、光のまちステーションプラザの大規模改修等、駅周辺まちづくりを推進



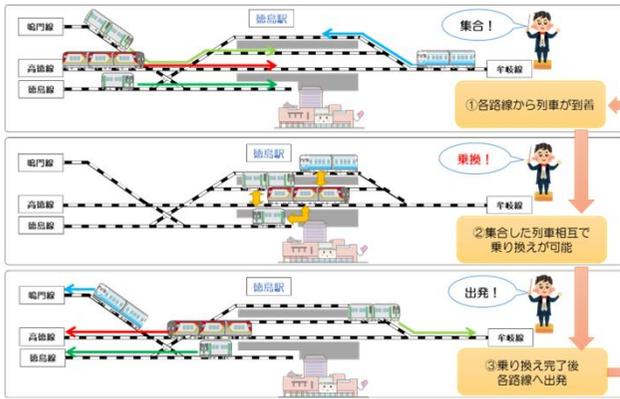
交通モード間の利便性向上・連携強化、交通結節機能の強化

◆運行体系、ダイヤ面での連携

(1)パターンダイヤの導入

○タクトダイヤの導入（徳島駅）

- ・2024.3.16～徳島駅の到着・発車時間帯を統一
- ・複数の路線をパターン化して、それらが相互に接続するダイヤとすることで、線区相互間の利用が便利に



(2)鉄道と高速バスの連携

- 2022.4.1～徳島県南部における鉄道とバスによる共同経営（並行モード連携モデル）

2023.5.20～共同経営計画の区間拡大（海部高校前バス停・阿波海南駅）



◆営業面での連携

スマホタッチ支払いの実証実験

- 地域公共交通の利便性向上と利用促進を目的に、駅やバス車内に設置したNFCタグ（近距離無線通信）にスマートフォンをタッチし決済処理を実施
- ・実証実験期間：2022.11.16～2023.2.15
- ・対象交通機関と区間

【徳島バス】

室戸・生見・阿南大阪線：阿南駅～甲浦
丹生谷線：阿南医療センター～川口営業所

【JR四国】

牟岐線：徳島駅～阿波海南駅 ※共同経営区間適用料金対応



◆ハード整備

(1)新たな交通モードの導入

○DMV（デュアル・モード・ビークル）の運行開始

- ・2021.12.25 線路と道路の両方を走行できるDMVが世界初の本格営業運行開始
- ・阿波海南駅～甲浦駅は鉄道モードで走行
- ・導入に合わせたプロモーション（記念入場券、DMVグッズの販売等）



(2)駅への駐車場・駐輪場整備

○駐車場シェアリングサービスの導入

- ・2024.3～羽ノ浦駅に「akippa」を導入（設備台数2台、Webやアプリにより予約可）



駅や路線の活性化、利用環境の充実

◆駅環境整備

(1)地域との連携による駅舎整備や活用

- 阿波加茂駅待合施設（東みよし町）2025.3供用開始



(2)トイレの整備等

○自治体による公衆トイレの整備

- ・貞光駅（つるぎ町）・阿波半田駅（つるぎ町）
- ・穴吹駅（美馬市）・阿波山川駅（吉野川市）
- ・三縄駅（三好市）・阿波川島駅（吉野川市）
- ・南小松島駅（小松島市）
- ・阿波加茂駅（東みよし町）2025.3供用開始



(3)多言語案内の整備

○駅へのデジタルサイネージの整備

- ・2024.3 徳島線（穴吹～辻）
- ・土讃線（坪尻～大歩危）導入
- ※乗車人員20人/日未満の駅を除く



主な取組事例（徳島県内）

観光振興への取組

◆観光列車等による観光振興

(1)「四国まんなか千年ものがたり」の運行

- ・各種周年イベントにあわせ記念缶バッジプレゼント
- ・「四国まんなか千年ものがたり」ひまわり紀行を運行し、ドリンク・スイーツ等オリジナルメニューを提供
- ・アテンダント特別企画「スイーツ紀行」運行
- ・「四国まんなか千年ものがたり」を式場にした結婚披露宴の開催



(2)「藍よしのがわトロッコ」の運行

- ・周年イベントにあわせ記念缶バッジプレゼントや阿波踊りでおもてなし
- ・台湾鐵路が運行する観光列車「藍皮解憂號（ランピジエヨウハオ）」と姉妹列車協定を締結



(3)「サイクルトレイン」の実証運行

- 自転車の混乗試験の実施
- ・2024.2.23～24,3.2 牟岐線阿南～阿波海南間において普通列車の車内に自転車をそのまま持ち込めるサイクルトレイン混乗実証試験を実施

◆イベント開催時の連携

(1)四国デスティネーションキャンペーンとの連携

- ・「くるりめぐろう四国旅モバイルスタンプラリー」スポットの設定（阿波おどり会館、渦の道、歩危マート）

(2)全国花火師競技大会「第2回にし阿波の花火」に合わせた臨時列車運行

- ・全国花火師競技大会「にし阿波の花火」に合わせて臨時列車を運行

(3) DMVラッピング車両の運行

- ・DMVが運行開始1周年を迎えることを記念し、「牟岐線」及び「阿佐東線DMV」の利用促進を図る取組として実施



◆その他

自治体等と連携した駅起点ツアーの造成

- 「四国国家のお宝」シリーズ（主なものを抜粋）
 - ・【三好市】大地のドラマを知る『三好市』
 - ・【阿南市】阿波水軍の根拠地・漁師町椿泊の街並み
- 「地域観光チャレンジ」企画ツアーの造成
 - ・【海陽町】海陽町に魅せられた人々
 - ・【松茂町】人が創った町、松茂



その他利用促進への取組

◆利用啓発イベントの開催等

公共交通利用促進イベントの開催

- ・交通エコライフキャンペーン
- ・鉄道の日イベントの開催
- ・公共交通リレーシンポジウム開催
- ・南小松島駅活性化プロジェクト



乗って応援!!みんなの乗り物 GOGOキャンペーン!

南小松島駅前広場にて実施された高校生カフェ

◆美化活動

(1)駅構内・駅周辺の美化活動

- ・南小松島駅前駐輪場利用者へのマナー向上の声掛け
- ・地域団体と連携し、駅清掃・枝木剪定

(2)季節に合わせた飾り付け等

- ・風鈴、七夕、イルミネーション、門松



その他取組

◆安全性向上への協力

(1)異常時訓練への参加協力

- ・徳島地区地震・津波発生時の避難誘導訓練
- ・徳島県警、警察署との合同テロ対応訓練



(2)安全PR活動への参加協力

- ・春秋の交通安全運動にあわせて踏切事故防止啓発チラシの配布や踏切安全通行PRを実施



具体的取組（徳島県内）

対象線区

土讃線（坪尻～大歩危）、高德線（阿波大宮～徳島）、鳴門線、牟岐線、徳島線

「実施状況」の凡例

◎：各年度のトピック

（各年度に新たな取組を実施又は取組が完了）※基本的にJR四国に関連する内容が対象

○：各年度に実施（◎以外のもの）

→：継続して実施（予定含む）

⇒：各年度に検討（未実施）

—：未評価（新型コロナウイルス感染症の影響等により評価が困難）

具体的取組【徳島県内での取組】

【利便性向上】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況	
1. 駅を中心としたまちづくり								
①駅高架事業の推進 ・徳島駅付近高架化に向けた検討等 ・県都とくしまのまちづくり構想に関する検討	-	自治体 JR四国	⇒	⇒	○	○	→	
★駅周辺整備 ・阿南駅前周辺まちづくりの推進	牟岐線	自治体				○	→	
2. 交通モード間の利便性向上・連携強化、交通結節機能の強化								
◆運行体系、ダイヤ面での連携								
①並行、重複路線の解消 ・鉄道とバスが並行している路線の再編の検討	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	
②パターンダイヤの導入 ・徳島線（徳島～穴吹駅間）2021年3月～ ・高德線（徳島～板野駅間）鳴門線（池谷～鳴門駅間）2022年3月～ ・タクトダイヤの導入（徳島駅）2024年3月～ ・牟岐線（徳島～阿南駅間）パターン時間帯拡大 2025年3月～	全線区	自治体 JR四国	◎	→	◎	○	→	
③駅への路線バスの乗り入れ ・2023年8月～ 東みよし町乗合タクシー運行（江口、三加茂、阿波加茂） ・2023年10月～2026年3月 阿南市乗合タクシー実証運行（阿南、見能林、新野） ・2024年1月～2025年3月 AIデマンドバス「のるーと徳島市」の実証運行（徳島、阿波富田） ・2024年4月～ 三好市で予約型乗り合いタクシーの運行（江口、辻、佃、三繩、祖谷口、阿波川口、小歩危、大歩危） ・2025年2月～2026年3月 海陽町で予約型町営バスの実証運行（穴喰駅）	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	⇒	⇒	○	◎	→	
④鉄道と高速バスの連携 ・2022年4月～ 「徳島県南部における共同経営計画」に基づく共同経営の開始 徳島バス「室戸・生見・阿南大阪線」の一般区間の一部においてJR乗車券類での乗車を可能とし、鉄道とバスの双方を共通・通し運賃で利用可能 ・2023年5月～ 区間拡大（海部高校前バス停・阿波海南駅） ・2023年度日本鉄道賞 特別賞受賞 ・2024年5月 高速バスのダイヤ改正（4→3往復）	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	◎	◎	◎	◎	→	
⑤列車ダイヤに合わせたバスダイヤの設定・見直し ・ぐるっと剣山登山バス運行 貞光一宇ルート、池田東祖谷ルート	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	→	→	→	→	
⑥拠点駅を中心とした効率的なネットワークの構築 ・実施に向けた検討	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	

具体的取組【徳島県内での取組】

【利便性向上】

	取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況
◆運行体系、ダイヤ面での連携	<p>⑦新たなバス路線の開設等</p> <ul style="list-style-type: none"> 川内松茂線：松茂町地域コミュニティバス、川内循環線（徳島市）に再編 二条鴨島線→応神藍住線：「道の駅いたの」を終点 佐那河内線、一宮線：役場、病院の移転に伴い、同施設へ乗入れ <p>⑧コミュニティバスやタクシーの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施に向けた検討 <p>⑨福祉バス等の一体的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施に向けた検討 <p>⑩時刻案内での連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道とバスの共通時刻表の作成 JR四国HP内に、並行するバスの時刻表を掲載 駅貼り時刻表へのバス時刻掲載（牟岐線） デジタルサイネージによるバス運行情報等の案内 <p>⑪鉄道と路線バスによる代替輸送の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 2021年9月～ 土讃線阿波池田～大步危駅間（四国交通と代替輸送契約を締結） 2024年4月～ 土讃線阿波池田～阿波川口駅間（三好市と代替輸送契約を締結） <p>⑫JRダイヤ改正情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> JRダイヤ改正時における関係者への事前周知（徳島県、県内沿線市町等） <p>⑬DMVダイヤ改正</p> <ul style="list-style-type: none"> 2023年3月 阿波海南駅での牟岐線との待ち時間を短縮 2024年3月 利用状況や団体ニーズ等の把握を踏まえ、効率性と利便性を考慮 2025年3月 JRのダイヤ改正に合わせて修正 <p>★バス路線の再編等</p> <ul style="list-style-type: none"> 2023年10月～ 「次世代地域公共交通ビジョン」に基づく路線再編及びダイヤ改正 勝浦線・橋線等南方路線の再編 <p>★鉄道とバス等による一体的な公共交通ネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 2025年7月～2026年2月 路線バスとのモーダルミックス実証実験の実施 牟岐線、牟岐駅～阿波海南駅を含む区間のJR通学定期券を所持の方が徳島バス南部「牟岐線」の牟岐～海部高校前間が乗車可能となる実証実験 	<p>全線区</p> <p>全線区</p> <p>全線区</p> <p>全線区</p> <p>全線区</p> <p>全線区</p> <p>牟岐線</p> <p>—</p> <p>牟岐線</p>	<p>自治体 JR四国 交通事業者</p> <p>自治体 JR四国 交通事業者</p> <p>自治体 JR四国 交通事業者</p> <p>自治体 JR四国 交通事業者</p> <p>JR四国 交通事業者</p> <p>自治体 JR四国 交通事業者</p> <p>交通事業者</p> <p>自治体 交通事業者</p> <p>自治体 JR四国 交通事業者</p>	<p>○</p> <p>⇒</p> <p>⇒</p> <p>○</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>⇒</p> <p>⇒</p> <p>◎</p> <p>→</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>→</p> <p>⇒</p> <p>⇒</p> <p>→</p> <p>→</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>→</p> <p>⇒</p> <p>⇒</p> <p>→</p> <p>→</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>→</p> <p>⇒</p> <p>⇒</p> <p>→</p> <p>→</p> <p>→</p> <p>→</p> <p>○</p> <p>→</p>
◆営業面での連携	<p>①異なる交通モードが利用できる企画乗車券の発売</p> <ul style="list-style-type: none"> 「徳島・室戸・高知55フリーきっぷ」発売 JR四国、阿佐海岸鉄道、土佐くろしお鉄道、高知東部交通が連携 「徳島レール&バス 東西きっぷ/南北きっぷ」発売 徳島県公共交通利用促進事業により指定エリアの鉄道、バスが1日乗り降り自由となる企画乗車券を発売 	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	→	◎	◎	→

【利便性向上】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況
<p>◆営業面での連携</p> <p>★観光型MaaSの実証実験 ・2021年10～1月 鳴門公園周辺エリアにおいて、スマホ一つで周遊できる観光地づくりを促進する観光型MaaS実証実験実施</p> <p>★スマホタッチ支払いの実証実験 ・地域公共交通の利便性向上と利用促進を目的に、駅やバス車内に設置したNFCタグにスマートフォンをタッチし決済処理を実施 実証実験期間：2022年度（11/16～2/15） 対象交通機関 【徳島バス】室戸、生見、阿南大阪線：阿南駅～甲浦 丹生谷線：阿南医療センター～川口営業所 【JR四国】牟岐線：徳島駅～阿波海南駅</p> <p>★MaaSの実現 ・JAL MaaSと「JAL麗らか四国キャンペーン」のデジタルクーポンとの連携 ・「誘遊四国ANAで行く四国の旅」との連携</p>	鳴門線	自治体 JR四国 交通事業者	○				
	牟岐線	自治体 JR四国 交通事業者		◎			
	全線区	JR四国 交通事業者			○	→	→
<p>◆ハード整備</p> <p>①新たな交通モードの導入 ・阿佐東線へのDMVの導入 2021年12月 営業運転開始 運行開始記念式典：約250名参加、発進式：約800名参加</p> <p>②駅前広場整備 ・徳島線鴨島駅周辺整備（吉野川市） 2022年3月 広場供用開始</p> <p>③駅への駐車場・駐輪場整備 ・2021年3月～ サイクルピット整備 自転車組立、解体スペースの整備等・駐輪場の整備 ・2022年2月～ 徳島線府中駅駐輪場整備 ・2024年3月～ 羽ノ浦駅に駐車場シェアリングサービス「akippa」を導入</p>	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	◎	→	→	→	→
	全線区	自治体 JR四国	◎	→	→	→	→
	全線区	自治体 JR四国	○	→	◎	→	→
<p>◆その他</p> <p>①レンタサイクルの実施 ・駅周辺でのレンタサイクルの実施と継続 ・シェアサイクル実施と継続</p> <p>②バスの時刻表や路線情報のオープンデータ化 ・各路線バス、コミュニティバスもGTFISデータを順次公開</p> <p>★利便性向上商品の開発 ・チケットアプリ「しこくスマートえきちゃん」の開発と導入 2022年11月～ 「いつでも」「どこでも」「キャッシュレス」できっぷを購入し、きっぷ画面提示で列車に乗車可能な新チケットシステムを導入 2023年4月～ 片道普通乗車券、自由席特急券、定期券の取扱開始 2024年3月～ 決済手段にPayPayを追加 2024年11月～ デジタル障害者手帳「ミライロID」との連携開始 2025年3月～ 土佐くろしお鉄道線内で完結する乗車券類の取扱い開始 2025年7月 会員登録者数が10万人を突破 2025年9月 第24回日本鉄道賞 特別賞受賞 ・車内補充券購入時におけるQRコード決済対応（2025年4月～）</p>	全線区	自治体	○	→	→	→	→
	全線区	自治体 交通事業者	◎	→	→	→	→
	全線区	JR四国		◎	◎	◎	○

【利便性向上】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況	
3. 駅や路線の活性化、利用環境の充実								
◆駅環境整備	①駅舎の公的整備や活用 ・阿波加茂駅（東みよし町） 自治体による駅待合施設の整備（2025年3月～供用開始）	全線区	自治体 JR四国	⇒	⇒	⇒	◎	→
	②トイレの整備等 ・公衆トイレの整備 2022年2月～ 供用開始 貞光駅・阿波半田駅（つるぎ町）、穴吹駅（美馬市） 2022年4月～ 供用開始 阿波山川駅（吉野川市） 2024年4月～ 供用開始 三縄駅（三好市） 2024年11月～ 供用開始 阿波川島駅（吉野川市） 2025年3月～ 供用開始 南小松島駅（小松島市）、阿波加茂駅（東みよし町）	全線区	自治体 JR四国	◎	◎	○	◎	→
	③多言語案内の整備 ・2021年度～ みどりの券売機プラスの整備（鳴門駅、徳島駅、鴨島駅、穴吹駅、阿波池田駅） ・駅へのデジタルサイネージの整備（列車運行情報等の案内） 2021年3月～ 高德線、鳴門線、牟岐線 2022年3月～ 徳島線（蔵本～川田） 2024年3月～ 徳島線（穴吹～辻）、土讃線（坪尻～大歩危）	全線区	自治体 JR四国	◎	→	◎	→	→
	④Wi-Fi環境の整備 ・徳島駅、鴨島駅、阿南駅、阿波池田駅、大歩危駅で整備済み ・徳島駅に、個室型ワークブースを設置 電源、Wi-Fi、空調、LEDリングライト完備	全線区	自治体 JR四国	○	◎	→	→	→
	⑤バリアフリー化 ・利用者数3,000人/日以上以上の駅では、公共交通移動等円滑化基準に適合した設備を整備	全線区	自治体 JR四国	○	→	→	→	→
	★その他 ・阿南駅に隣接した、光のまちステーションプラザの2階に「スタディースペース」を開設（2021年9月～）	牟岐線	自治体	○	→	→	→	→
◆車両環境整備	①特急車両の環境整備（2700系新型特急車両の導入） ・新型特急車両2700系を2020年度までに導入	全線区	JR四国	○				

【利用促進】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況	
1. 観光振興への取組								
◆観光列車等による観光振興	①「四国まんなか千年ものがたり」の運行 ・地域の方によるおもてなし等、一体となった取組 2024年7月 ものがたり列車10周年を記念し、3つのものがたり列車で連携した特別企画を実施 (共通ロゴ及びヘッドマークの掲出、記念グッズの販売等) 2024年8月 10万人達成イベント 2024年12月 「四国まんなか千年ものがたり」を式場にした結婚披露宴を開催し、琴平駅～大歩危駅間を貸切で往復運行 2025年3月 さくら紀行運行 (3/28～4/6) 2025年3月 運行開始8周年記念イベント (3/29～31) 2025年5月 「四国まんなか千年ものがたり」11万人達成イベント ご乗車のお客様に11万人記念缶バッジをプレゼント 2025年7月 ひまわり紀行運行 (7/6, 7, 13, 14, 15) オリジナルカードのプレゼント等	土讃線	自治体 JR四国	◎	○	◎	◎	○
②「藍よしのがわトロッコ」の運行 ・地域の方によるおもてなし等、一体となった取組 2023年12月 四国交通ボンネットバス×藍よしのがわトロッコ コラボツアーの開催 2024年10月 「藍よしのがわトロッコ」運転開始4周年 徳島駅発車に合わせて、地元高校生による「阿波人形浄瑠璃の演舞」やマスコットキャラクターによるお見送りの実施 2025年3月 春季・夏季運転開始に合わせて徳島駅にて出発記念イベント トイレ洋式化、無料Wi-Fiサービスの導入によりさらに快適に 2025年7月 「藍よしのがわ大歩危トロッコ」運転 運転区間を延長し、絶景広がる土讃線大歩危駅まで特別運行の実施	徳島線	自治体 JR四国	○	○	◎	◎	○	
③「ゆうゆうアンパンマンカー」の運行 ・アンパンマン列車スタンプラリー ・2024年3月のダイヤ改正より徳島線でのみ運行	高德線 徳島線	JR四国	○	→	→	→	→	
④臨時列車・企画列車の運行等 ・「徳島ヴォルティス」ホームゲーム観戦に合わせた臨時列車運行	全線区	自治体 JR四国	○	○	○	○	○	
★「サイクルトレイン」の運行 ・2024年2月 牟岐線阿南～阿波海南間において普通列車の車内に自転車をそのまま持ち込めるサイクルトレイン混乗実証試験を実施 (3日間)	牟岐線	自治体 JR四国			◎			
◆イベント開催時の連携	①アニメイベント「マチ★アソビ」との連携	全線区	自治体 JR四国	—	—	—		
②四国デスティネーションキャンペーンとの連携 ・2021年4～6月 四国プレDC ・2021年10～2月 四国DC開催 ・2022年度 四国アフターDC (4/1～6/30)	全線区	自治体 JR四国	○	○				

具体的取組【徳島県内での取組】

【利用促進】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況
◆イベント開催時の連携							
③その他取組 ・阿波池田駅の列車接近メロディを池田高校校歌に変更 ・阿波おどり、夏まつり、花火大会に合わせた臨時列車運転 ・「にし阿波の花火」に合わせた臨時列車運転 ・薬王寺への初詣列車運転や「酒まつり」に合わせた臨時列車運転 ・大型クルーズ船寄港時の連携 （「ダイヤモンド・プリンセス」「ノルウェーجان・スピリット」など）	全線区	自治体 JR四国	○	○	◎	◎	○
◆その他							
①インバウンド向け企画乗車券の発売 ・ALL SHIKOKU Rail Passの発売 ・SETOUCHI ROUND PASSの発売	全線区	JR四国 交通事業者	○	○	→	◎	→
②自治体と連携した駅起点ツアーの造成 ・「四国家のお宝」シリーズの展開 ・「地域観光チャレンジ」企画ツアーの造成 四国の4国立大学の学生の考案	全線区	自治体 JR四国	○	○	◎	◎	→
③阿佐東線DMV導入による観光振興 ・2021年12月～DMV運行開始 ・DMV導入に伴うプロモーション 記念入場券、DMVグッズの販売、DMVのうた、ダンス、絵本の作成、 沿線ガイドブックの作成、DMV時刻表の作成 ・各種イベント、ツアーの開催 周年記念イベント、運転体験ツアー、DMV奈半利特別運行など ・2022年11月～2023年11月 DMVラッピング列車の運行	牟岐線	自治体 JR四国 交通事業者	○	◎	○	○	○
★その他 ・デジタル駅スタンプアプリ「エキタグ」の導入 2024年11月～ 土讃線 2025年3月～ 高德線、鳴門線、徳島線 2025年7月～ 牟岐線 ・沿線高校の学生寮新設 2025年4月 海部高校の学生寮新設（牟岐駅）	全線区	自治体 JR四国				○	○

2. その他利用促進への取組

◆利用啓発イベントの開催等							
①公共交通利用促進イベントの開催 ・はな・はる・フェスタへのブース出展、鉄道の日イベント、 交通エコライフキャンペーン等 ・2022年度 公共交通利用促進リレーシンポジウム開催（12月、2月、3月） ・2024年3月 「乗って応援！！みんなの乗り物GoGoキャンペーン！」開催 ・2024年10月 徳島市立図書館主催の「四国・徳島の鉄道をもっと知ろう 2024」に協力 ・2025年3月 南小松島駅活性化プロジェクト 小松島高校生等が主体となり、南小松島駅前広場にてイベント開催	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	○	○	◎	○
②ノーカーデーの実施	全線区	自治体	○	→	→	→	→
◆補助制度の活用							
①通学定期への運賃補助 ・自治体による通学定期への運賃補助（神山町、美波町、牟岐町、海陽町）	全線区	自治体	○	→	→	→	→

具体的取組【徳島県内での取組】

【利用促進】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況
◆補助制度の活用							
②高齢者及び免許返納者への運賃補助 ・路線バス、コミュニティバス、デマンド交通利用時の運賃減免等	全線区	自治体	○	→	→	→	→
③マイレール意識の醸成 ・県による市町村の鉄道利用促進・利用環境改善に向けた取組への支援	全線区	自治体	○	→	→	→	→
★その他 ・小学生公共交通体験乗車事業活動費補助（阿南市）	牟岐線	自治体 JR四国			○	→	→
★割引施策の導入							
★通学定期所持者向け特急利用通学割引 ・「定期券de特急『剣山』回数券」発売 2021年4月～2022年3月 徳島線穴吹～阿波池田駅間で発売	徳島線	自治体 JR四国	◎				
◆公共交通の周知							
①県民への周知 ・川の時刻表の作成 吉野川水系の河川と鉄道の交差箇所の列車通過時刻をまとめた時刻表を作成 ・公共交通の利用促進に向けたチラシ・動画による啓発活動	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	→	→	○	→
②出張時等における公共交通利用促進 ・公共交通の利用促進に向けたチラシ・動画による啓発活動	全線区	自治体	⇒	⇒	⇒	○	→
③企業内における公共交通利用促進の周知 ・公共交通の利用促進に向けたチラシ・動画による啓発活動	全線区	自治体	⇒	⇒	⇒	○	→
④教育機関と連携した公共交通利用促進 ・JR四国と高校の連絡体制の確立 ・バス乗車教室 ・2025年3月 鉄道施設見学・体験会の開催	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	→	→	◎	→
◆貨客混載の取組							
①列車を活用した貨客混載 ・2021年11月 大歩危、にし阿波の名産品を大歩危駅～高松駅の営業列車で運搬し、高松駅で販売（2日間）	全線区	自治体 JR四国	◎				
◆美化活動							
①駅構内・駅周辺の美化活動 ・各駅構内での清掃・枝木剪定 地元団体や地元高校生などと合同で実施 ・南小松島駅前マナーアップキャンペーン	全線区	自治体 JR四国	○	○	○	○	○
②その他活動 ・季節に合わせた飾りつけ、展示等 （ハロウィン、クリスマスツリー、門松、干支引継ぎ式、イルミネーション等）	全線区	自治体 JR四国	○	○	○	○	○

具体的取組【徳島県内での取組】

【その他】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況	
◆中長期的な公共交通ネットワークのあり方の検討	①各交通モードの特性や地域の特性・実情を踏まえた適切な公共交通ネットワークのあり方に関する検討 ・徳島県生活交通協議会ワーキング部会（県別会議）	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	○	○	○	○
	②四国の新幹線の早期実現に向けた機運醸成・提言活動 ・四国新幹線整備促進期成会による要望活動等 四国知事会議にて提言のとりまとめ 「四国新幹線整備促進期成会 東京大会」および「四国への新幹線導入に向けた要望活動」の実施 四国の新幹線の早期実現を求める要望書の提出（国土交通省等） 2024年6月～2025年8月「四国の新幹線早期実現に向けた署名活動」の実施 （最終的に全体で45万筆を超える署名）	-	自治体	○	○	○	○	○
	★路線のあり方に関する意見交換 ・2023年8月 JR牟岐線を考える首長トップセミナー	牟岐線	自治体 JR四国		○	○	⇒	⇒
◆自治体による計画の策定及び推進	①次世代地域公共交通ビジョンの推進 ・徳島県生活交通協議会作業部会エリア別ワーキング部会 ・次世代地域公共交通ビジョン推進委員会	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	◎	○	○	○
	②地域公共交通計画等の策定及び推進 ・推進の動き（徳島県、徳島市、小松島市、つるぎ町、阿南市、東みよし町、鳴門市、三好市、美馬市、阿波市、海陽町）	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	→	→	→	→
	③立地適正化計画等の策定及び推進 ・推進の動き（徳島市、鳴門市）	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	→	→	→	→
	★その他計画や会議 ・阿南駅周辺まちづくり基本計画 ・四国南東部広域観光連携協議会	全線区	自治体 JR四国 交通事業者		○	→	→	→
◆調査等の実施	①地域公共交通に関するアンケート・利用実態調査の実施 ・2021年9月 徳島県地域公共交通協議会が公共交通利用に関するアンケート調査を実施 ・2022年7月 JR鳴門線、JR牟岐線利用者を対象とした意識調査の実施	全線区	自治体	○	○			
	②より正確な利用実態把握方法の導入 ・実施に向けた検討	全線区	JR四国	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	★5カ年推進計画における調査事業 ・2024年11月～2025年3月 調査事業の実施 沿線住民を対象としたニーズ調査、沿線高校生向けニーズ調査、全列車全区間乗り込みによる利用実態調査（牟岐線阿南～阿波海南間）の実施	全線区	自治体 JR四国				◎	

具体的取組【徳島県内での取組】

【その他】

	取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況
◆安全性向上への協力	①異常時訓練への参加協力 ・合同訓練の実施 地震・津波避難誘導訓練、テロ対応訓練等の実施 ②安全PR活動への参加協力 ・全国交通安全運動における踏切安全通行PR活動への協力 「春の全国交通安全運動」に伴う踏切安全通行PRの実施（毎年4月） 「秋の全国交通安全運動」に伴う踏切安全通行PRの実施（毎年9月） ・踏切事故防止キャンペーンの実施（毎年11月） ★災害発生時における相互協力に関する協定の締結 ・2021年5月 土木学会四国支部とJR四国における災害発生時における相互協力に関する協定の締結	全線区	自治体 JR四国	○	○	○	○	○
★その他	★「貴社の想いを…まるごと駅広告」の掲出 ・駅舎やホームなどを広告媒体として地域の企業に貸し出す取組 「駅ジャック」と「副駅名広告」を実施 2024年3月～ 南小松島駅「日新 四国工場 玄関口駅」 2024年6月～ 鳴門駅「井上建設 最寄駅」	全線区	JR四国			○	○	→
◆新型コロナウイルスへの対応	①感染防止対策や「新しい生活様式」への対応 ・走行車両の窓開けや車両空調装置による換気の実施 ・列車混雑状況のHP等による情報提供 ・定期消毒や抗ウイルスシート貼付、アクリル板の設置 ・時差出勤やマスク着用等の呼びかけやポスター掲示 ②感染防止対策や新サービス実証への支援 ・公共交通利用回復支援事業（2021年度） 支援対象 徳島ヴォルティス戦公共交通利用促進事業 公共交通機関利用促進事業等 ・「みんなで！とくしま応援割・旅行割」事業 県内宿泊、旅行商品費用への助成 ★地域のワクチン接種への協力 ・2021年7月～8月 徳島大学の職域接種において、常三島キャンパス⇄医学部 大塚講堂のシャトルバスの運行手配	全線区	JR四国	○	→			
		全線区	自治体	◎	○			
		—	JR四国	◎				

香川県内の取組

～香川県鉄道ネットワークあり方懇談会～

主な取組事例（香川県内）

駅を中心としたまちづくり

◆ 駅周辺整備

(1) 高松駅ビルの開発

・2024.3.22「TAKAMATSU ORNE（タカマツ オルネ）」開業

(2) 県立アリーナ（あなぶきアリーナ香川）の整備

・2025.2.24開館 サザンオールスターズによる公演を皮切りに様々なイベントを開催

(3) 高松駅北側プロムナード

・社会実験を経て2025.2.24～土日休日をプロムナード化



交通モード間の利便性向上・連携強化、交通結節機能の強化

◆ 運行体系、ダイヤ面での連携

(1) 鉄道とバス等による一体的な公共交通ネットワークの形成

○東讃地区におけるモーダルミックスによる利便性向上施策（実証実験）

対象地区	さぬき市	東かがわ市
対象交通機関	さぬき市（コミュニティバス） JR四国（鉄道）	大川バス（路線バス） JR四国（鉄道）
実証実験の目的	公共交通の利用促進及び地域に最適で持続可能な「公共交通ネットワークの四国モデル」構築	
実施期間	2022/10/22～2023/1/31	
実施内容	JR高徳線の志度駅、造田駅からコミュニティバス（志度-造田-多和線）の乗継利用者はコミュニティバス運賃を減額 平日：200円→100円 土休日：500円→200円	JR高徳線の三本松～引田を含む区間の定期券で、大川バス（引田線・五名福栄線）の三本松～引田間が乗車可能
利用実績	延べ115名がご利用	延べ515名がご利用

○東かがわ市モーダルミックス推進事業開始（2024.4～）
・東かがわ市と大川バス、JR四国がそれぞれ役割分担し、学生の通学利便性を向上



○グリーンスローモビリティ実証運行
（グリーンスローモビリティわくわく号）

実施主体：東かがわ市

- ・「東かがわ市地域公共交通計画」に基づく実証運行
- ・運行期間 2021.8.23～11.29
- ・高徳線引田駅へ乗入れ（JRとの接続を意識したダイヤ設定）



○グリーンスローモビリティ実証運行
（コトコト感幸バス）

実施主体：琴平町

- ・有償運行期間 2021.7.1～12.28 琴平駅へ乗入れ



(2) 時刻案内での連携

○バス案内用デジタルサイネージの整備

実施主体：三豊市

- ・2022.3～ 詫間駅へデジタルサイネージを設置
- ・コミュニティバスの発車時刻、行先、リアルタイム運行情報、乗り場を案内



駅や路線の活性化、利用環境の充実

◆ 駅環境整備

(1) 地域との連携による駅舎整備や活用

- ・引田駅公衆トイレと待合室の整備に合わせて、これらを覆う屋根を整備（2025.3供用開始）



(2) トイレの整備等

○自治体による公衆トイレの整備

- ・讃岐財田駅（三豊市）2024.1 供用開始



◆ 車両環境整備

特急車両の環境整備（8000系特急車両のリニューアル）

○8000系特急車両を2027年度までに逐次リニューアル工事

- ・トイレの洋式化
- ・座席（自由席は窓側のみ）への電源コンセント整備等
- 2023.12.5多度津工場にて報道公開
- 2023.12.23「リニューアル8000系」を使用した団体臨時列車運行に合わせ出発式



主な取組事例（香川県内）

観光振興への取組

◆観光列車等による観光振興

(1)「四国まんなか千年ものがたり」の運行

- ・各種周年イベントにあわせ記念缶バッジプレゼント
- ・「四国まんなか千年ものがたり」ひまわり紀行を運行し、ドリンク・スイーツ等オリジナルメニューを提供
- ・アテンダント特別企画「スイーツ紀行」運行
- ・「四国まんなか千年ものがたり」を式場にした結婚披露宴の開催



(2)臨時列車・企画列車の運行等

- 「津嶋神社夏季例大祭に合わせて津島ノ宮駅」を開設
- ・2日間で60本程度の普通列車が臨時停車



○瀬戸大橋線開業35周年記念 213系リバイバル「マリンライナー」の旅

- ・2023.10.28 初代「マリンライナー」として活躍した213系を団体臨時列車として、岡山駅～高松駅間で運転



○「THE ROYAL EXPRESS」の運行

- ・東急の豪華観光列車「THE ROYAL EXPRESS」が四国・瀬戸内クルーズトレインとして運行



◆イベント開催時の連携

その他取組

- 「瀬戸大橋線開業35周年ロゴ」車両ラッピング
- ・5000系、8000系、8600系、2700系の一部車両にラッピングを実施



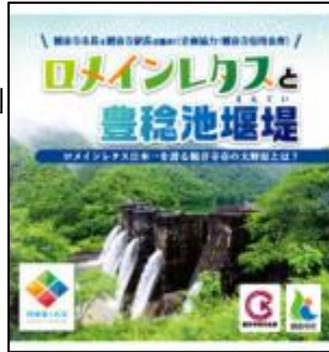
○「瀬戸内国際芸術祭」との連携

- ・県内会場を周遊可能な企画乗車券の発売（2022年度）
- ・アートを巡る香川県周遊デジタル駅スタンプラリーの開催（2025年度）

◆その他

自治体等と連携した駅起点ツアーの造成

- 「四国家のお宝」シリーズ（主なものを抜粋）
 - ・【善通寺市】善通寺市伝説「讃岐もち麦ダイシモチ」
 - ・【多度津町】知られざる少林寺拳法の世界
 - ・【観音寺市】ロメインレタスと豊稔池堰堤
 - ・【東かがわ市】伝統と進化のまち東かがわ市
 - ・【さぬき市】深く知りたい和三盆の世界
- 「地域観光チャレンジ」企画ツアーの造成
 - ・【東かがわ市】移住者が集まる里山 五名の魅力



その他利用促進への取組

◆利用啓発イベントの開催等

公共交通利用促進イベントの開催

- 公共交通利用促進キャンペーンの実施
- 公共交通無料デーの実施
 - ・【坂出市】路線バス・デマンド型乗り合いタクシー
 - ・【丸亀市】丸亀市コミュニティバス
 - 2023.6.1～75歳以上の高齢者は毎日無料
 - ※毎月20日は年齢問わず誰でも無料
- 公共交通利用促進絵画コンクールの実施
 - ・2024.1.27 受賞者とそのご家族約40名が高松運転所にて記念見学会



◆美化活動

(1)駅構内・駅周辺の美化活動

- ・地元高校生によるマナーアップの啓発活動実施
- ・地域団体と連携し、駅清掃・花壇の整備を実施

(2)季節に合わせた飾り付け等

- ・こいのぼり、七夕、ハロウィン仮装、門松



その他取組

◆安全性向上への協力

(1)異常時訓練への参加協力

- ・香川県警との合同不審者対応訓練

(2)安全PR活動への参加協力

- ・全国交通安全運動における踏切安全通行PR活動への協力



具体的取組（香川県内）

対象線区

本四備讃線、予讃線（高松～箕浦）、土讃線（多度津～讃岐財田）、高德線（高松～讃岐相生）

「実施状況」の凡例

- ◎：各年度のトピック
（各年度に新たな取組を実施又は取組が完了）※基本的にJR四国に関連する内容が対象
- ：各年度に実施（◎以外のもの）
- ：継続して実施（予定含む）
- ⇒：各年度に検討（未実施）
- ：未評価（新型コロナウイルス感染症の影響等により評価が困難）

具体的取組【香川県内での取組】

【利便性向上】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況	
1. 駅を中心としたまちづくり								
<ul style="list-style-type: none"> ①駅周辺整備 <ul style="list-style-type: none"> ・2024年3月 高松駅ビル「TAKAMATSU ORNE」開業 ・2025年2月 県立アリーナ（あなぶきアリーナ香川）開館 ・2025年2月 サンポート高松地区プロムナード化（高松駅） ・2025年3月 徳島文理大学香川キャンパスの開学（高松駅） ・サンポート高松B2街区の整備（高松駅） ・坂出駅周辺再整備に関する検討 ・善通寺駅周辺地区のまちづくり検討 	-	自治体 JR四国	○	○	◎	◎	→	
2. 交通モード間の利便性向上・連携強化、交通結節機能の強化								
◆運行体系、ダイヤ面での連携	<ul style="list-style-type: none"> ①パターンダイヤの導入 <ul style="list-style-type: none"> ・高松駅昼間時間帯発車時刻の統一 2020年3月～ ・高德線（高松～引田駅間） 2024年3月～ ・2025年3月 パターン時間帯を拡大 ②鉄道とバス等による一体的な公共交通ネットワークの形成 <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度 グリーンスローモビリティ実証運行（東かがわ市、琴平町） ・2022年10～1月 さぬき市及び東かがわ市におけるモーダルミックスによる利便性向上実証実験実施 ・三豊市コミュニティバスダイヤ改正 ・宇多津町コミュニティバス試行運転 2025年9月以降も試行運行を継続 ・2023年12月～2025年3月 さぬき市デマンド型乗合タクシー実証運行 ・2024年1月～ チョイソコ善通寺の本格運行開始 ・2024年4月～ 東かがわ市モーダルミックス推進事業の実施 高德線三本松～引田間を有効区間とするJR通学定期券を所持している方が三本松～引田間の大川バス路線バスを無料で乗車可能 ③時刻案内での連携（利便性が高く分かりやすい情報の提供） <ul style="list-style-type: none"> ・2022年3月 バス案内用デジタルサイネージの整備とバスロケーションシステムと表示を統一（詫間駅） ・2023年2月～ 高松駅にバス案内用デジタルサイネージ設置 ④鉄道と路線バスによる代替輸送の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・実施に向けた検討 ⑤JRダイヤ改正情報提供 <ul style="list-style-type: none"> ・JRダイヤ改正時における関係者への事前周知（香川県、県内沿線市町等） 	全線区	自治体 JR四国	○	→	◎	○	→
		自治体 JR四国 交通事業者	○	◎	○	◎	→	
		自治体 JR四国 交通事業者	◎	○	→	→	→	
		JR四国 交通事業者	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	
		自治体 JR四国 交通事業者	○	→	○	○	→	
◆営業面での連携	<ul style="list-style-type: none"> ①鉄道、バスなど公共交通相互の乗り継ぎの円滑化 <ul style="list-style-type: none"> ・ICカード等を活用した運賃のシームレス化 実施に向けた検討 	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒

【利便性向上】

取組内容		対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況
◆営業面での連携	②異なる交通モードが利用できる企画乗車券の発売 ・「ことでん・JRくるり～んきっぷ」発売	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	○	→	→	→
	③Ma a Sの実現 ・JAL Ma a Sと「JAL麗らか四国キャンペーン」のデジタルクーポンとの連携 ・「誘遊四国ANAで行く四国の旅」との連携	全線区	JR四国 交通事業者	○	⇒	○	→	→
	④JRを含めた乗り継ぎのモデルコースの設定 ・2022年度 さぬき市によるコミュニティバスで行く「さぬき旅」 (モデルプラン)の作成 ・実施に向けた検討	全線区	自治体 JR四国	⇒	○	→	→	→
◆ハード整備	①駅前広場整備 ・ことでん伏石駅交通結節点整備 2021年11月 駅前広場グランドオープン 路線バス、高速バス新規乗り入れ ・ことでん新駅(太田～仏生山駅)交通結節点整備 ・引田駅、端岡駅周辺整備に向けた検討	全線区	自治体 JR四国	◎	→	→	→	→
	②駅への駐車場・駐輪場整備 ・サイクルピット整備(2021年3月～) 自転車組立、解体スペースの整備等・駐輪場の整備 ・2024年3月 引田駅に駐車場シェアリングサービス「akippa」導入 高瀬駅、詫間駅、善通寺駅、丸亀駅に追加導入	全線区	自治体 JR四国	○	→	◎	→	○
◆その他	①レンタサイクルの実施 ・高松市レンタサイクル事業でのサイクルポートの設置 アプリによる利用、決済システムへ移行 ・駅周辺でのレンタサイクル運営 ・2025年7～9月 JR引田駅などでシェアサイクル事業の実証実験実施	全線区	自治体 交通事業者	○	→	→	→	○
	②バスの時刻表や路線情報のオープンデータ化 ・G T F Sデータの整備及び活用	全線区	自治体 交通事業者	○	○	→	→	→
	★利便性向上商品の開発 ・チケットアプリ「しこくスマートえきちゃん」の開発と導入 2022年11月～ 「いつでも」「どこでも」「キャッシュレス」できっぷを 購入し、きっぷ画面提示で列車に乗車可能な新チケットシ ステムを導入 2023年4月～ 片道普通乗車券、自由席特急券、定期券の取扱開始 2024年3月～ 決済手段にPayPayを追加 2024年11月～ デジタル障害者手帳「ミライロID」との連携開始 2025年3月～ 土佐くろしお鉄道線内で完結する乗車券類の取扱い開始 2025年7月 会員登録者数が10万人を突破 2025年8月～ さぬき市コミュニティバスの高校生向け通学乗車券の取扱開始 2025年9月 第24回日本鉄道賞 特別賞受賞 ・車内補充券購入時におけるQRコード決済対応(2025年4月～)	全線区	JR四国		◎	◎	◎	○

【利便性向上】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況
<p>◆その他</p> <p>★鉄道とタクシーの乗継連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年6月～11月 特急列車内からタクシー手配サービス実証実験実施 予讃線特急停車駅6駅を対象にスマートフォン等で特急列車内の2次元コードより「タクシー手配フォーム」を読み込み、タクシーを予約手配 ・2025年7月～12月 特急列車内からタクシー手配サービス実証実験実施 予讃線特急停車駅9駅を対象に実施 	全線区	JR四国 交通事業者				◎	○
<p>3. 駅や路線の活性化、利用環境の充実</p>							
<p>◆駅環境整備</p> <p>①駅舎の公的整備や活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年3月 丸亀駅高架下に移転して開局 ・2025年3月 引田駅新駅舎の整備・供用開始（東かがわ市） 公衆トイレと待合室の整備に合わせて、これらを覆う屋根を整備 ・2025年9月 観音寺駅コワーキングスペース「COCO-BEN/観音寺」の整備（観音寺市） ・2025年度完成予定 高瀬駅にパブリックスペース、トイレ等の整備（三豊市） <p>②トイレの整備等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆トイレの整備 2021年9月 讃岐財田駅（三豊市、既存改築） 2024年1月 讃岐財田駅（三豊市、新築） 2025年3月 引田駅（東かがわ市） 2025年度完成予定 鬼無駅（香川県） <p>③多言語案内の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度～ みどりの券売機プラスの整備（高松駅、詫間駅、善通寺駅、琴平駅、栗林駅、志度駅、三本松駅） ・駅へのデジタルサイネージの整備（列車運行情報等の案内） 2021年4月 高德線各駅に導入 2022年度 讃岐府中～箕浦駅までの無人駅に導入 2024年3月 観音寺駅のサイネージ取換 <p>④Wi-Fi環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高松駅、坂出駅、宇多津駅、丸亀駅、多度津駅、詫間駅、観音寺駅、善通寺駅、琴平駅、栗林駅、屋島駅、志度駅で整備済み ・高松駅に、個室型ワークブースを設置 電源、Wi-Fi、空調、LEDリングライト完備 <p>⑤バリアフリー化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数3,000人/日以上以上の駅で、公共交通移動等円滑化経路を確保 未整備である多度津駅のバリアフリー化に向けた検討、協議等 	全線区	自治体 JR四国	◎	→	→	◎	○
	全線区	自治体 JR四国	◎	→	◎	◎	○
	全線区	自治体 JR四国	◎	◎	→	→	→
	全線区	自治体 JR四国	○	◎	→	→	→
	全線区	自治体 JR四国	○	→	→	→	→
<p>◆車両環境整備</p> <p>①特急車両の環境整備</p> <p>【2700系新型特急車両の導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型特急車両2700系を2020年度までに導入 <p>【8000系特急車両のリニューアル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2027年度までに逐次リニューアル ・トイレの洋式化、座席への電源コンセント整備、バリアフリー対応、エクステリア、インテリアデザイン変更など ※2023年12月より順次運用 	全線区	JR四国	○	→	◎	◎	○
<p>★普通車グリーン席、指定席へのWi-Fi環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年10月～ マリンライナー車両への無料Wi-Fi環境の整備 	本四備讃線	JR四国	◎	→	→	→	→

【利用促進】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況	
1. 観光振興への取組								
<p>◆観光列車等による観光振興</p>	<p>①「四国まんなか千年ものがたり」の運行 ・地域の方によるおもてなし等、一体となった取組 2024年7月 ものがたり列車10周年を記念し、3つのものがたり列車で連携した特別企画を実施 (共通ロゴ及びヘッドマークの掲出、記念グッズの販売等) 2024年8月 10万人達成イベント 2024年12月 「四国まんなか千年ものがたり」を式場にした結婚披露宴を開催し、琴平駅～大歩危駅間を貸切で往復運行 2025年3月 さくら紀行運行 (3/28～4/6) 2025年3月 運行開始8周年記念イベント (3/29～31) 2025年5月 「四国まんなか千年ものがたり」11万人達成イベント ご乗車のお客様に11万人記念缶バッジをプレゼント 2025年7月 ひまわり紀行運行 (7/6, 7, 13, 14, 15) オリジナルカードのプレゼント等</p>	土讃線	自治体 JR四国	○	○	◎	◎	○
	<p>②「瀬戸大橋アンパンマントロッコ」の運行</p>	本四備讃線 予讃線 土讃線	JR四国	○	→	→	→	→
	<p>③「ゆうゆうアンパンマンカー」の運行 ・2024年3月のダイヤ改正にて高徳線での運行終了</p>	高徳線	JR四国	○	→	→		
	<p>④臨時列車・企画列車の運行等 ・サンライズ瀬戸の琴平駅への延長運転 ・津嶋神社夏季例大祭時に、臨時駅の津島ノ宮駅開設 (毎年8/4, 5) ・高徳線 (高松～徳島) でのアンパンマントロッコクリスマスツアーを開催 (毎年12月) ・瀬戸大橋線開業35周年記念 213系リバイバル「マリンライナー」の旅 ・「THE ROYAL EXPRESS」の運行 (2024年1～3月、2025年1月～3月) 東急の豪華観光列車が四国・瀬戸内クルーズトレインとして運行 各年計6回の3泊4日ツアー</p>	全線区	自治体 JR四国	○	◎	◎	◎	○
<p>◆イベント開催時の連携</p>	<p>①地域イベントとの連携 ・瀬戸内国際芸術祭との連携 ・MONSTER baSH 開催に合わせて臨時列車を運転 ・「さかいで大橋まつり会場花火大会」に合わせた臨時列車の運転 ・あなぶきアリーナ香川でのコンサート等イベント開催にあわせた臨時列車運転 など</p>	全線区	自治体 JR四国	○	○	○	◎	○
	<p>②四国デスティネーションキャンペーンとの連携 ・2021年4～6月 四国プレDC ・2021年10～2月 四国DC開催 ・2022年度 四国アフターDC (4/1～6/30)</p>	全線区	自治体 JR四国	◎	○			
	<p>★その他取組 ・金刀比羅宮への初詣臨時列車運転 ・「瀬戸大橋線開業35周年ロゴ」車両ラッピング など</p>	全線区	自治体 JR四国	○	○	◎	○	→

【利用促進】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況
<p>◆その他</p> <p>①インバウンド向け企画乗車券の発売 ・ ALL SHIKOKU Rail Passの発売 ・ KAGAWA Mini Rail&Ferry Passの発売 ・ 2025年2月～ SETOUCHI ROUND PASSの発売</p> <p>②自治体と連携した駅起点ツアーの造成 ・ 「四国家のお宝」シリーズの展開 ・ 「四国家のお宝」キッズシリーズの展開 ・ 「地域観光チャレンジ」企画ツアーの造成 四国の4国立大学の学生の考案 ・ 「丸亀にぎわいプロジェクト」 丸亀市街地のにぎわいづくりを目指した四国家サポーターズクラブ による取組</p> <p>③観光施設と連携した企画乗車券の発売 ・ 「四国水族館きっぷ」の発売</p> <p>④その他取組 ・ 香川県・JR四国の連携・協力に関する協定 2021年4月 「うどん県。それだけじゃない香川県」プロジェクトに係わる誘 客施策の実施を通じて香川県観光の発展を図り、交流人口の一層 の拡大を目指して、相互に連携・協力する協定を締結 ・ デジタル駅スタンプアプリ「エキタグ」 駅などに設置されたNFCタグにスマートフォンをかざすことでデジタル スタンプを収集できるアプリサービス 2024年9月～ 予讃線に導入 2024年11月～ 土讃線に導入 2025年3月～ 高徳線に導入 2025年8月～ 予讃線・土讃線に追加設置</p>	全線区	JR四国 交通事業者	○	→	→	◎	→
	全線区	自治体 JR四国	○	○	◎	◎	○
	全線区	自治体 JR四国	○	→	→	→	→
	全線区	自治体 JR四国	○	○	○	○	○
2. その他利用促進への取組							
◆利用啓発イベントの開催等	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	→	○	◎	○
②モビリティマネジメントの実施 ・親子鉄道教室、乗り方講習会 実施に向けた検討	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	—	⇒	⇒	⇒	⇒
◆補助制度の活用	全線区	自治体	○	→	→	→	→
①高齢者及び免許返納者への運賃補助 ・高松市、丸亀市によるICOCAカード交付 ICOCA、タクシー利用券等一万円分支給（選択制） ・香川県HPにてお得なサービスが受けられる優遇店とサービス 内容を紹介したガイドブック公開							

【利用促進】

取組内容		対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況
◆公共交通の周知	①県民への周知	全線区	自治体 J R四国 交通事業者	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
◆美化活動	①駅構内・駅周辺の美化活動 ・地元高校生によるマナーアップの啓発活動（高松駅、坂出駅） ・各駅構内での清掃活動 ・地元団体や地元小学生などと合同で実施 ・駅清掃活動への感謝状贈呈	全線区	自治体 J R四国	○	○	○	◎	○
	②その他活動 ・地元住民等による飾りつけ等 （こいのぼり、七夕飾り、シンビジウム、門松等）	全線区	自治体 J R四国	○	○	○	◎	○

【その他】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況
<p>◆中長期的な公共交通ネットワークのあり方の検討</p>	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	○	○	○	○
<p>①各交通モードの特性や地域の特性・実情を踏まえた適切な公共交通ネットワークのあり方に関する検討 ・香川県鉄道ネットワークあり方懇談会</p> <p>②四国の新幹線の早期実現に向けた機運醸成・要望活動 ・四国新幹線整備促進期成会による要望活動等 四国知事会議にて提言のとりまとめ 「四国新幹線整備促進期成会 東京大会」および「四国への新幹線導入に向けた要望活動」の実施 四国の新幹線の早期実現を求める要望書の提出（国土交通省等） 2024年6月～2025年8月「四国の新幹線早期実現に向けた署名活動」の実施 （最終的に全体で45万筆を超える署名） ・香川県JR四国線複線電化・新幹線導入期成同盟会 パンフレット「新幹線が香川の未来を変える！」配布（香川県） 四国の新幹線勉強会やイベント「走れ！四国の新幹線」を開催 ・香川県市町長四国新幹線整備促進期成会 「四国への新幹線導入に向けた要望活動」を実施 ・2025年2月 「みんなで考える四国の新幹線シンポジウムin高松」の開催（高松市主催）</p>	-	自治体	○	○	○	○	○
<p>③四国の新幹線整備に伴う効果等調査の実施 ・2022年6月 新幹線と四国のまちづくり調査報告書公表 （四国新幹線整備促進期成会）</p>	-	自治体	○	○	→	→	→
<p>◆自治体による計画の策定及び推進</p>	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	→	→	→	→
<p>①地域公共交通計画等の策定及び推進 ・計画策定及び計画の推進等</p>	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	→	→	→	→
<p>②立地適正化計画等の策定及び推進 ・計画策定（高松市、丸亀市、坂出市、多度津町、善通寺市、観音寺市、さぬき市、三豊市）</p>	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	→	→	→	→
<p>③観光基本計画等の策定及び推進 ・計画策定（善通寺市、観音寺市、東かがわ市、三豊市、琴平町）</p>	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	→	→	→	→
<p>④鉄道利用促進方策効果検証事業の実施 ・交通需要予測調査を実施</p>	全線区	自治体	⇒	○	→	→	→
<p>◆調査等の実施</p>	全線区	自治体	○	○	→	→	→
<p>①地域公共交通に関するアンケート・利用実態調査の実施 ・各実証実験時等にアンケートの実施等</p>	全線区	JR四国	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
<p>②より正確な利用実態把握方法の導入 ・実施に向けた検討</p>	全線区	自治体 JR四国				◎	
<p>★5カ年推進計画における調査事業 ・2024年11月～2025年3月 調査事業の実施 沿線住民を対象としたニーズ調査、沿線高校生向けニーズ調査実施</p>	全線区	自治体 JR四国					

【その他】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況
<p>◆安全性向上への協力</p> <p>①異常時訓練への参加協力 ・合同訓練の実施（警察署等） 不審者対応合同訓練、合同テロ対応訓練（高松駅）など</p> <p>②安全PR活動への参加協力 ・全国交通安全運動における踏切安全通行PR活動への協力 「春の全国交通安全運動」に伴う踏切安全通行PRの実施（毎年4月） 「秋の全国交通安全運動」に伴う踏切安全通行PRの実施（毎年9月） ・踏切事故防止キャンペーンの実施（毎年11月）</p> <p>★災害発生時における相互協力に関する協定の締結 ・2021年5月 土木学会四国支部とJR四国における災害発生時における相互協力に関する協定の締結</p> <p>★鉄道施設整備への支援 ・栗林高架橋高欄老朽化対策への支援（国交省、香川県、高松市） 2014～2025年度実施 ・災害復旧への支援（国交省、香川県） 2017年台風18号により被災した護岸の復旧工事費用への支援 2017～2022年度実施</p>	全線区	JR四国	○	○	○	◎	○
	全線区	JR四国	○	○	○	◎	○
	全線区	JR四国	○	→	→	→	→
	全線区	自治体 JR四国	◎	○	○	○	○
<p>◆新型コロナウイルスへの対応</p> <p>①感染防止対策や「新しい生活様式」への対応 ・走行車両の窓開けや車両空調装置による換気の実施 ・列車混雑状況のHP等による情報提供 ・定期消毒や抗ウイルスシート貼付、アクリル板の設置 ・時差出勤やマスク着用等の呼びかけやポスター掲示</p> <p>②感染防止対策や「新しい生活様式」への対応への支援 ・公共交通利用回復緊急支援事業 支援対象 ①車両定期消毒 ②デジタルサイネージ新設 （讃岐府中駅、鴨川駅、八十場駅、讃岐塩屋駅、海岸寺駅、詫間駅） ・香川県公共交通燃料高騰・利用回復対策事業費補助金 支援対象 利用促進事業、広告宣伝事業等 ・「うどん県泊まってかがわ割」「新うどん県泊まってかがわ割」 県内宿泊、旅行商品費用への助成 ・東讃地区におけるモーダルミックスによる利便性向上施策への助成</p> <p>★感染予防対策啓発動画の放映 ・高松駅構内モニターでの放映</p> <p>★無料抗原検査会場の設置 ・高松駅に新型コロナウイルスの無料抗原検査会場を設置</p>	全線区	JR四国	○	→			
	全線区	自治体	◎	○			
	全線区	自治体 JR四国	◎	○			

愛媛県内の取組

～愛媛県鉄道ネットワークあり方懇談会～

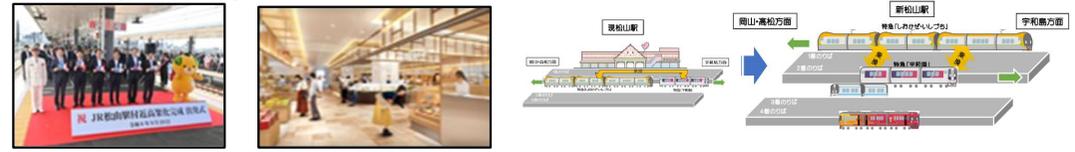
主な取組事例（愛媛県内）

駅を中心としたまちづくり

◆駅周辺整備

松山駅付近連続立体交差事業の推進

- ・2024.9.29「松山駅付近連続立体交差事業」高架線完成及び新JR松山駅開業
- ・高架下商業エリア「JR松山駅だんだん通り」も同時開業
- ・特急列車「しおかぜ・いしづち」と「宇和海」が同一ホームで乗換可能（対面乗換方式）



交通モード間の利便性向上・連携強化、交通結節機能の強化

◆運行体系、ダイヤ面での連携

鉄道とバス等による一体的な公共交通ネットワークの形成

○路線バスとのモーダルミックス実証実験の実施

- ・予土線宇和島駅～松丸駅を含む区間のJR乗車券類を所持の方が宇和島自動車「虹の森公園線」の宇和島駅前～虹の森公園前間、「日吉・野村線」の宇和島駅前～出目間が乗車可能となる実証実験実施（愛媛県南予南部共創型交通アクセス向上事業）
- ※2025年度実証実験ではバス定期券でJR予土線一部区間利用可能を追加



- ・予讃海回り線伊予長浜～伊予大洲間を有効区間とするJR定期券で、並行運行する伊予鉄南予バス（長浜駅前～大洲駅前）を無料で利用できる取組



◆営業面での連携

MaaSの実証

○YODO MaaSの実証実験

- 予土線沿線での生活利用の利便性向上を目的に、鉄道、路線バス、タクシー、コミュニティバスを利用する際に、駅や車内に設置したNFCタグにスマートフォンをタッチし、運賃決済を可能とするもの
- ・利用期間：2022.9.27～12.25
- ・通常の乗車料金から20%割引



駅や路線の活性化、利用環境の充実

◆車両環境整備

特急車両の環境整備（8000系特急車両のリニューアル）

- 8000系特急車両を2027年度までに逐次リニューアル工事
- ・トイレの洋式化
- ・座席（自由席は窓側のみ）への電源コンセント整備等
- 2023.12.5多度津工場にて報道公開
- 2023.12.23「リニューアル8000系」を使用した団体臨時列車運行に合わせ出発式



観光振興への取組

◆観光列車等による観光振興

(1)「伊予灘ものがたり」の運行

- ・各種周年イベントにあわせ記念缶バッジや愛媛県産農産物のプレゼント
- ・予讃線八幡浜以南、予土線での特別運行
- ・愛媛県が開発したオリジナルのデルフィニウム「さくらひめ」を活用した魅力づくりの取組
- ・アテンダント特別企画「スイーツ紀行」運行



(2)「予土線Fun Fun祭り」の開催

- ・「Yodosen Fun Fun Trains」等のラッピング列車を集結させ予土線沿線を盛り上げるイベントを開催
- ・沿線イベント（松丸駅マルシェ・宇和島鉄道全線開通100周年記念事業）との連携
- ・ラッピング列車の展示や働くくるまが大集結
- ・高校生による吹奏楽演奏等、賑わいの創出



(3)「サイクルトレイン」の実証運行

- ・「えひめ・しまなみリンリントレイン」
- ・予土線サイクルトレイン
- ・サイクルトレイン愛ある伊予灘号



主な取組事例（愛媛県内）

(4)臨時列車・企画列車の運行等

- ・「夕焼けビートルロック」運行
- ・下灘駅「夕焼けプラットホームコンサート」



(5)「THE ROYAL EXPRESS」の運行

- ・東急の豪華観光列車「THE ROYAL EXPRESS」が四国・瀬戸内クルーズトレインとして運行



(6)地域のキャラクター等をイメージした列車の運行

- ・「鬼列車」の運行

実施主体：鬼北町、JR四国

運行期間：2021.7～

運行区間：予土線、予讃線(松山～宇和島駅)

鬼北町の「鬼のまちづくり」のシンボル、「鬼王丸」を活かしたデザイン



鬼列車

◆イベント開催時の連携

沿線でのイベントとの連携

- 宇和れんげまつり開催に合わせた臨時列車の運行
 - ・特急宇和海の伊予石城駅臨時停車を実施
- 「愛媛マラソン」開催に合わせた臨時列車運転
- 松山中央公園でのイベント開催に合わせた臨時列車
- えひめ南予さずな博との連携
 - ・予土線3兄弟三重連「ウィンタークルーズ号」を宇和島～江川崎駅間で運転



◆その他

(1)予土線利用促進

- 予土線利用促進対策協議会
 - ・2023.10.27 愛媛高知両県協議会が一本化
 - ・「しまんとグリーンラインフリーきっぷ」発売
- 予土線駅前マルシェ開催
 - ・伊予宮野下、近永、松丸駅前でマルシェ開催
 - ・予土線で来場された方先着で500円分クーポンなどの特典
- JR予土線圏域の明日を考える会
 - ・ハロウィン列車の運行等



(2)新駅（南伊予駅）関連事業の実施

- 車両基地見学や吹奏楽の演奏、伊予灘ものがたりの臨時停車を実施（「南伊予駅周辺を活性化する会」主催）

その他利用促進への取組

◆貨客混載への取組

特急列車を活用した荷物輸送の実証実験

- ・2023.11.17 宇和島産の「みかん」、岡山産の「ぶどう」を特急「宇和海」「しおかぜ」を使用して岡山と松山で販売



◆利用啓発イベントの開催等

マイレール意識の醸成

- ・地元小中学生等の駅、車両基地見学や職場体験学習

◆割引施策の導入

通学定期所持者向け特急利用通学割引

- ・「通学定期de『宇和海』回数券」の発売



◆美化活動

(1)駅構内・駅周辺の美化活動

- ・2023.10 越智商工会へ菊間駅美化活動に対する感謝状贈呈
- ・2023.10 嵯峨御流公和支所三島地区へ伊予三島駅美化活動に対する感謝状贈呈



(2)季節に合わせた飾り付け等

- ・こいのぼり、風鈴、七夕、クリスマスツリー、門松、みかん収穫祭、花の種まき



その他取組

◆安全性向上への協力

異常時訓練・安全PR活動への参加協力

- ・不審者、テロ等の対応訓練実施
- ・総合事故対策訓練



具体的取組（愛媛県内）

対象線区

予讃線（川之江～宇和島）、内子線、予土線（北宇和島～真土）

「実施状況」の凡例

- ◎：各年度のトピック
（各年度に新たな取組を実施又は取組が完了）※基本的にJR四国に関連する内容が対象
- ：各年度に実施（◎以外のもの）
- ：継続して実施（予定含む）
- ⇒：各年度に検討（未実施）
- ：未評価（新型コロナウイルス感染症の影響等により評価が困難）

【利便性向上】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況	
1. 駅を中心としたまちづくり								
① 駅高架事業等の推進 ・2024年9月 「松山駅付近連続立体交差事業」高架線完成及び新JR松山駅開業、高架下商業エリア「JR松山駅だんだん通り」が同時開業	予讃線	自治体 JR四国 交通事業者	○	→	◎	◎	→	
② 駅周辺整備 ・卯之町「はちのじ」まちづくり整備事業の推進（西予市） 卯之町駅舎、駅前複合施設、駅前広場、自由通路等を一体的に整備 2022年11月 駅舎新築工事を西予市が施工、供用開始 ・近永駅周辺賑わい創出プロジェクトの推進（鬼北町） 2025年7月 基本設計及び実施設計に係る公募型プロポーザル実施	全線区	自治体 JR四国	○	◎	→	→	○	
2. 交通モード間の利便性向上・連携強化、交通結節機能の強化								
◆ 運行体系、ダイヤ面での連携								
① パターンダイヤの導入 ・予讃線伊予西条駅～松山駅間導入（2025年3月～） ・予讃線松山駅～宇和島駅間（内子経由）導入（2025年3月～） ・予土線江川崎駅～宇和島駅間導入（2025年3月～）	予讃線	JR四国	⇒	⇒	⇒	○	→	
② 他交通モードとのダイヤ調整 ・実施に向けた検討	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	
③ 二次交通（支線）の見直し等 ・実施に向けた検討	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	
④ 時刻案内での連携 ・鉄道とバスの共通時刻表の作成 JR四国HP（おでかけに便利な鉄道・バス情報）	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	→	→	→	→	
⑤ 鉄道と路線バスによる代替輸送の実施 ・沿線のバス事業者と相互の代替輸送契約の締結 予讃線伊予長浜～伊予大洲駅間（伊予鉄南予バス） 予土線宇和島～松丸駅間（宇和島自動車）	全線区	JR四国 交通事業者	○	→	◎	→	→	
⑥ 通勤・通学時間に対応したダイヤの改善 ・沿線小学校の下校時刻を意識したダイヤ設定（予讃海回り線）	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	⇒	○	→	○	→	
⑦ JRダイヤ改正情報提供 ・JRダイヤ改正時における関係者への事前周知 （愛媛県、県内沿線市町等）	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	→	→	○	→	
★ 鉄道とバス等による一体的な公共交通ネットワークの形成 ・予土線での路線バスとのモーダルミックス実証実験の実施 （愛媛県南予南部共創型交通アクセス向上事業） 予土線宇和島駅～松丸駅間において並行する宇和島自動車の路線バスにJR乗車券類で乗車可能となる実証実験実施（2024年10月～1月） 上記に加えてバス定期券でJRに乗り可能となる実証実験実施（2025年7月～2月） ・予讃海回り線での路線バスとのモーダルミックス実証実験の実施 予讃線伊予長浜駅～伊予大洲駅間において並行する伊予鉄南予バスにJR定期券で乗車可能となる実証実験実施（2024年7月～2月）	全線区	自治体 JR四国 交通事業者				◎	○	

【利便性向上】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況	
◆営業面での連携	①異なる交通モードが利用できる企画乗車券の発売 ・「四万十・宇和海フリーきっぷ」発売 ・「松山日帰り路面電車割引きっぷ」発売（～2025年3月） ・「松山・広島割引きっぷ」発売 ・2024年12月～3月「石鎚スキーきっぷ」発売	全線区	JR四国 交通事業者	○	→	○	◎	→
	②Ma a Sの実現 ・南予観光型Ma a s、YODO Ma a sの実証実験（2022年度） ・JAL Ma a Sと「JAL麗らか四国キャンペーン」のデジタルクーポンとの連携 ・「誘遊四国ANAで行く四国の旅」との連携	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	⇒	◎	○	→	→
◆ハード整備	①駅前広場整備 ・実施に向けた検討	全線区	自治体 JR四国	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	②駅への駐車場・駐輪場整備 ・サイクルビット整備（2021年3月～） ・自転車組立、解体スペースの整備等・駐輪場の整備 ・駐輪場整備（伊予土居駅、伊予三島駅、伊予大洲駅） ・2024年3月 伊予市駅に駐車場シェアリングサービス「akippa」の導入	全線区	自治体 JR四国	○	→	◎	○	○
	★新たな交通モードの導入 ・2024年1月～ 自動運転バス実証運行（伊予上灘駅～日尾野間） 2022年度の実証実験の運行ルート延伸（2025年8月～休止） ・シャトルバス運行実証実験（下灘駅～「道の駅ふたみ」間） （2024年2～3月、11～12月） ・2025年7～11月 電動シェアモビリティ実証実験 予土線沿線を含む南予南部地域において実証実験実施 （愛媛県南予南部共創型交通アクセス向上事業）	全線区	自治体 交通事業者		○	○	○	○
◆その他	①レンタサイクルの実施 ・駅周辺でのレンタサイクルの実施と継続	全線区	自治体	○	→	→	→	→
	★バスの時刻表や路線情報のオープンデータ化 ・GTFSデータの整備及び活用と更新	全線区	自治体 交通事業者	○	→	→	→	→
	★利便性向上商品の開発 ・チケットアプリ「しこくスマートえきちゃん」の開発と導入 2022年11月～ 「いつでも」「どこでも」「キャッシュレス」できっぷを 購入し、きっぷ画面提示で列車に乗車可能な新チケットシス テムを導入 2023年4月～ 片道普通乗車券、自由席特急券、定期券の取扱開始 2024年3月～ 決済手段にPayPayを追加 2024年11月～ デジタル障害者手帳「ミライロID」との連携開始 2025年3月～ 土佐くろしお鉄道線内で完結する乗車券類の取扱い開始 2025年7月 会員登録者数が10万人を突破 2025年9月 第24回日本鉄道賞 特別賞受賞 ・車内補充券購入時におけるQRコード決済対応（2025年4月～）	全線区	JR四国		◎	◎	◎	○

【利便性向上】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況
<p>◆その他</p> <p>★鉄道とタクシーの乗継連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年6月～11月 特急列車内からタクシー手配サービス実証実験実施 予讃線特急停車駅6駅を対象にスマートフォン等で特急列車内の2次元コードより「タクシー手配フォーム」を読み込み、タクシーを予約手配 ・2025年8月～12月 特急列車内からタクシー手配サービス実証実験実施 予讃線特急停車駅9駅を対象に実施 	全線区	JR四国 交通事業者				◎	○
<p>3. 駅や路線の活性化、利用環境の充実</p>							
<p>◆駅環境整備</p> <p>①駅舎の公的整備や活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021.4 新居浜駅に観光物産情報拠点「ここくる にいはま」オープン (新居浜市観光物産協会) <p>②トイレの整備等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施に向けた検討等 <p>③多言語案内の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度～ みどりの券売機プラスの整備(川之江駅、壬生川駅、今治駅、伊予北条駅、松山駅、内子駅、伊予大洲駅、宇和島駅) ・2022年2月 駅案内サインの多言語化(伊予大洲駅) ・駅へのデジタルサイネージの整備(列車運行情報等の案内) 2022年度 川之江～伊予中山までの無人駅と卯之町駅に導入 2024.3 予土線(伊予宮野下駅、近永駅)導入 2024.3 予讃線新居浜駅のサイネージ取替 <p>④Wi-Fi環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川之江駅、伊予三島駅、新居浜駅、伊予西条駅、壬生川駅、今治駅、伊予北条駅、松山駅、伊予市駅、伊予大洲駅、八幡浜駅、宇和島駅で整備済み ・松山駅に、個室型ワークブースを設置 電源、Wi-Fi、空調、LEDリングライト完備 <p>⑤バリアフリー化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数3,000人/日以上以上の駅では、公共交通移動等円滑化基準に適合した設備を整備 	全線区	自治体 JR四国	◎	→	→	→	→
	全線区	自治体 JR四国	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	全線区	JR四国 自治体	◎	◎	○	○	→
	全線区	JR四国 自治体	○	◎	→	→	→
	全線区	JR四国 自治体	○	→	→	→	→
<p>◆車両環境整備</p> <p>①特急車両の環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・N2000系のトイレ様式化 ・2000系の車内案内表示器の多言語化 【8000系特急車両のリニューアル】 ・2027年度までに逐次リニューアル ・トイレの洋式化、座席への電源コンセント整備、バリアフリー対応、エクステリア、インテリアデザイン変更など ※2023年12月より順次運用 【Wi-Fi導入実証実験】 ・2025年9～11月 JR予土線の対象列車に可搬式のWi-Fi機器を設置 (愛媛県南予南部共創型交通アクセス向上事業) 	全線区	JR四国	○	◎	◎	◎	○

【利用促進】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況
1. 観光振興への取組							
<p>◆観光列車等による観光振興</p> <p>①「伊予灘ものがたり」の運行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と一体でのおもてなし 2024年5月 「伊予灘ものがたり」ご乗車20万人達成イベント 2024年7月 「伊予灘ものがたり」運行開始10周年イベント 2024年7月 ものがたり列車10周年を記念し、3つのものがたり列車で連携した特別企画を実施 2024年8月 2代目「伊予灘ものがたり」ご乗車6万人達成イベント 2024年9月 愛媛県南予地区の観光アピールを目的に伊予大洲駅～宇和島駅間を運行 2025年1月 2代目「伊予灘ものがたり」ご乗車7万人達成イベント 2025年3月 「伊予灘ものがたり菜の花編」の運転 2025年3月 「伊予灘ものがたり櫻編」の運転 2025年4月 2代目「伊予灘ものがたり」運行開始3周年イベント 2025年6月 2代目「伊予灘ものがたり」ご乗車8万人達成イベント 2025年7月 「えひめ夏旅なんよキャンペーン」の開催にあわせて、伊予大洲駅～宇和島駅間と宇和島駅～江川崎駅間で特別運行 2025年7月 「伊予灘ものがたり」運行開始11周年イベント 	予讃線	自治体 JR四国	◎	◎	◎	◎	○
<p>②「予土線3兄弟」の運行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しまんトロッコの運行 2023年3月～11月 しまんトロッコ“ありがとう 今年で誕生10周年”乗車記念としてオリジナル缶バッジ配布 ・海洋堂ホビートレイン「かっぱうようよ号」の運行 ・鉄道ホビートレインの運行 2021年度 「ひと結び予土線お便りコンテスト」の実施 	予土線	自治体 JR四国	○	→	→	→	→
<p>③「サイクルトレイン」の運行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車の混乗試験の実施（予讃線） 「えひめ・しまなみリンリントレイン」 2022年3月～ 土休日、一部の普通列車に持ち込み可能 ・自転車の混乗試験の実施（予土線） 2022年3月～ 土休日、全便対象 ・サイクルトレイン愛ある伊予灘号の運行（毎年、3～7日間運行） 	全線区	自治体 JR四国	◎	→	◎	○	→
<p>④地域のキャラクター等をイメージした列車の運行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おさんぼなんよ号」の運行 2016年2月から運行し、愛媛県及び南予地域の自治体のキャラクターをデザインしたラッピング車両 ・「鬼列車」の運行 2021年7月から運行し、鬼北町による「鬼のまちづくり」のシンボル「鬼王丸」等をデザインしたラッピング車両 ・「しまんと開運汽車 すまいるえきちゃん号」の運行 2022年1月から運行し、窪川ポップアートプロジェクトと連携したラッピング車両 	全線区	自治体 JR四国	◎	→	→	→	→

【利用促進】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況
◆観光列車等による観光振興	⑤臨時列車・企画列車の運行等 ・夕焼けビールトロッコ運行（毎年7～8月） ・下灘駅にて「夕焼けプラットホームコンサート」開催（毎年9月） ・「THE ROYAL EXPRESS」の運行（2024年1～3月、2025年1月～3月） 東急の豪華観光列車が四国・瀬戸内クルーズトレインとして運行 各年計6回の3泊4日ツアー	全線区	—	◎	◎	◎	○
	★「予土線Fun Fun祭り」の開催 ・2021年10月 第1回開催 ・2022年5月 第2回開催 ・2023年11月 第3回開催	予土線	◎	◎	◎		
◆イベント開催時の連携	①沿線でのイベントとの連携 ・松山中央公園でのイベント開催に合わせた臨時列車の運行 坊っちゃんスタジアムでのプロ野球公式戦等 愛媛県武道館でのイベント、コンサート ・宇和れんげまつり開催に合わせた臨時列車の運行（毎年4/29） ・夏の花火大会開催に合わせた臨時列車の運行 （今治市、伊予市、松野町） ・2024年10月 「サイクリングしまなみ2024」に合わせ、臨時列車の サイクルトレインを1往復運行 ・「愛媛マラソン」開催に合わせ、観戦に便利な臨時列車を運転	全線区	○	→	◎	◎	○
	②大型キャンペーンとの連携 ・2021年4～6月 四国プレDC ・2021年10～2月 四国DC開催 ・2022年度 四国アフターDC（4/1～6/30） ・2022年度 えひめ南予さずな博との連携	全線区	◎	○			
	③その他取組 ・松山市・JR 四国 観光に関する連携協定 ・2024年2月 伊予西条駅～今治駅間 開通100周年記念事業 ・2024年11月 西条市合併20周年を記念し「伊予西条鉄道フェスタ2024」開催 ・国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ」開催に合わせ、臨時的サイ クルトレインを運行	全線区	◎	→	○	◎	→
◆その他	①インバウンド向け企画乗車券の発売 ・ALL SHIKOKU Rail Passの発売	全線区	○	→	→	→	→
	②自治体と連携した駅起点ツアーの造成 ・「四国家のお宝」シリーズの展開 ・「四国家のお宝」キッズシリーズの展開 ・「地域観光チャレンジ」企画ツアーの造成 四国の4 国立大学の学生の考案	全線区	○	→	○	◎	○

【利用促進】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況
◆その他							
③観光商品等の造成 ・「内子・大洲町並散策1日パス」の発売 Klookでの取扱（QRチケットサービス）を開始（2025年3月～） ・2025年6月 特急列車「しおかぜ」の車両1両分を様々なシーンで活用いただけるよう旅行会社に提案した企画として初めての実施	全線区	J R四国	○	→	○	○	○
④新駅（南伊予駅）関連事業の実施 ・2022年3月 開業3周年記念イベントの開催 ・2025年5月 「南伊予ふれあい祭り」開催 開業5周年及び南伊予駅前「ふれあい広場」完成を記念	予讃線	自治体 J R四国	⇒	◎	→	→	○
⑤予土線利用促進 【愛媛県予土線利用促進対策協議会】 ・YODOSENサポーター事業の展開（ファンの拡大） ・協議会HP等での予土線PR ・2023年10月 予土線利用促進対策協議会を設立 愛媛県、高知県の協議会を一本化 ・2024年2月～2025年3月 「しまんとグリーンラインフリーきっぷ」の発売 【予土線駅前マルシェ開催】 ・伊予宮野下、近永、松丸駅前でマルシェ開催 【JR予土線圏域の明日を考える会】 ・ハロウィン列車を運行 ・愛媛と高知の高校生による「予土あす青春18プロジェクト」 【宇和島KITAI：宇和島市内中学校生徒有志】 ・2024年12月 伊予宮野下駅前マルシェ開催	予土線	自治体 J R四国	○	→	○	◎	○
★その他 ・今治駅ゴールドポスト設置 2021年11月～ 東京パラリンピック競泳の山口尚秀選手（今治市在住）の金メダル獲得を称え、今治駅前の郵便ポストを金色に変更 ・下灘駅における観光利用者向け物品販売 ・デジタル駅スタンプアプリ「エキタグ」 駅などに設置されたNFCタグにスマートフォンをかざすことでデジタルスタンプを収集できるアプリサービス 2024年9月～ 予讃線に導入 2024年11月～ 予土線に導入 2025年7月～ 下灘駅に設置	全線区	自治体 J R四国	○	○	○	○	○

2. その他利用促進への取組

◆利用啓発イベントの開催等							
①公共交通利用促進イベントの開催 ・「にいはまハピフェス！」へのブース出展（毎年5月） ・公共交通利用促進キャンペーンの実施 「四国まるごと公共交通利用促進キャンペーン」開催（毎年9月頃）	全線区	自治体 J R四国 交通事業者	○	○	○	○	○
②ノーマイカー通勤デーの実施 ・「愛媛県公共交通利用促進宣言」毎月1回設定	全線区	自治体 J R四国 交通事業者	○	→	→	→	→
③通勤利用を促す事業所、住民へのPR（マイレール意識の醸成） ・地元小・中学生、高校生の駅見学会を開催 （新居浜駅、内子駅、八幡浜駅、宇和島駅など）	全線区	自治体 J R四国 交通事業者	⇒	○	○	◎	○

【利用促進】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況	
2. その他利用促進への取組								
◆補助制度の活用	①通学定期への運賃補助 ・通学学生への通学定期運賃補助 (大洲市、西予市、内子町、松野町、鬼北町、愛南町)	全線区	自治体	○	→	→	→	→
	②高齢者及び免許返納者への運賃補助 ・自主的に免許を返納した高齢者へのJR四国旅行券交付(松前町) ICい〜カード、タクシー券との選択制	全線区	自治体	○	→	→	→	→
	③遠足等への運賃補助 ・予土線を利用する遠足等の行事に対し運賃補助 (予土線利用促進対策協議会)	予土線	自治体	○	→	→	→	→
◆割引施策の導入	①大口割引、家族割引の導入 ・こども四国フリーきっぷの発売 小学生のお子さまは、ひとり500円でJR四国全線の特急列車の自由席が1日 乗り降り自由、2025年3~4月(春休み)、2025年7~8月(夏休み)	全線区	JR四国	—	—	—	○	○
	★通学定期所持者向け特急利用通学割引 ・「通学定期de『宇和海』回数券」「スマえき通学定期de『宇和海』特急券」 発売 2025年3月~ 予讃線伊予大洲~宇和島駅間で発売	予讃線	JR四国				◎	→
◆公共交通の周知	①地域住民への周知 ・四国まるごと公共交通利用促進キャンペーンの都市イベント開催 ・JR四国HPに並行するバスの時刻も掲載することで、公共交通の周知	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	◎	→	→	→	→
★貨客混載への取組	★列車等を活用した貨客混載 ・2021年3月 「宇和島産の養殖マグロ」を特急「宇和海」で荷物輸送する 実証実験実施 ・2022年11月 特急列車を利用し、宇和島産みかんを岡山へ、岡山県産ぶどう を松山へそれぞれ輸送し販売する実証実験実施 ・新幹線を活用した荷物輸送イベントへの参加 2024年5月 JR6社が新幹線による荷物輸送サービスで初めて連携し、東京駅 で「新幹線でつながる旬食フェア」を開催 「河内晩柑」「志ぐれ」を松山駅~東京駅まで列車にて輸送 2025年2月 大阪駅で「新幹線でつながる旬食フェア」を開催 しまなみの魚介類を今治駅~新大阪駅まで列車にて輸送	予讃線	JR四国	◎	◎	→	○	→
◆美化活動	①駅構内・駅周辺の美化活動 ・各駅構内での清掃活動 OB会などと合同で実施	全線区	自治体 JR四国	○	→	○	○	→
	②その他活動 ・八幡浜駅みかんの収穫祭(地元農協・園児) ・季節に合わせた飾りつけ (こいのぼり、風鈴、七夕飾り、クリスマスツリー、門松)	全線区	自治体 JR四国	○	→	○	○	○

【その他】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況
<p>◆中長期的な公共交通ネットワークのあり方の検討</p> <p>①各交通モードの特性や地域の特性・実情を踏まえた適切な公共交通ネットワークのあり方に関する検討 ・愛媛県鉄道ネットワークあり方検討会</p> <p>②四国の新幹線の早期実現に向けた機運醸成・要望活動 ・四国新幹線整備促進期成会による要望活動等 四国知事会議にて提言のとりまとめ 「四国新幹線整備促進期成会 東京大会」および「四国への新幹線導入に向けた要望活動」の実施 四国の新幹線の早期実現を求める要望書の提出（国土交通省等） 2024年6月～2025年8月「四国の新幹線早期実現に向けた署名活動」の実施（最終的に全体で45万筆を超える署名） ・愛媛県新幹線導入促進期成同盟会 四国への新幹線導入に向けた国土交通省等への要望活動 各種イベントやPR活動の実施による四国新幹線実現に向けた機運醸成</p>	全線区	自治体 J R四国 交通事業者	○	→	→	→	→
<p>◆自治体による計画の策定及び推進</p> <p>①地域公共交通計画等の策定及び推進 ・計画策定及び計画の推進等</p> <p>②立地適正化計画等の策定及び推進 ・計画の推進（松山市、宇和島市、八幡浜市、新居浜市、西条市、伊予市、大洲市、四国中央市、西予市）</p> <p>★その他会議の開催 ・松山市中心市街地活性化協議会 など</p>	全線区	自治体 J R四国 交通事業者	○	→	→	→	→
	全線区	自治体 J R四国 交通事業者	○	→	→	→	→
	予讃線	自治体	○	→	→	→	→
<p>◆調査等の実施</p> <p>①地域公共交通に関するアンケート・利用実態調査の実施 ・各実証実験時等にアンケートの実施</p> <p>②より正確な利用実態把握方法の導入 ・実施に向けた検討</p> <p>★5カ年推進計画における調査事業 ・2024年11月～2025年3月 調査事業の実施 沿線住民を対象としたニーズ調査、沿線高校生向けニーズ調査、全列車全区間乗り込みによる利用実態調査（予讃海回り線、予土線）の実施</p>	全線区	自治体	⇒	○	→	→	→
	全線区	J R四国	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	全線区	自治体 J R四国				◎	

【その他】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況
<p>◆安全性向上への協力</p> <p>①異常時訓練への参加協力 ・合同訓練の実施（警察等） テロ・不審者対応合同訓練など ・総合事故対策訓練 四国運輸局、警察、消防等の関係機関の協力で、松山運転所車両基地にて、 救急・避難誘導訓練、脱線復旧訓練等を実施</p> <p>②安全PR活動への参加協力 ・全国交通安全運動における踏切安全通行PR活動への協力 「春の全国交通安全運動」に伴う踏切安全通行PRの実施（毎年4月） 「秋の全国交通安全運動」に伴う踏切安全通行PRの実施（毎年9月） ・踏切事故防止キャンペーンの実施（毎年11月）</p> <p>★災害発生時における相互協力に関する協定の締結 ・2021年5月 土木学会四国支部とJR四国における災害発生時における相互協力 に関する協定の締結</p> <p>★鉄道施設整備への支援 ・内子高架橋高欄老朽化対策への支援 2014～2021年度実施（国交省、愛媛県、沿線12市町） ・災害復旧への支援（国交省、愛媛県、沿線12市町） 内子線斜面崩壊箇所の復旧工事費用への支援 2020～2021年度実施</p>	全線区	JR四国	○	○	○	○	○
<p>◆新型コロナウイルスへの対応</p> <p>①感染防止対策や「新しい生活様式」への対応 ・走行車両の窓開けや車両空調装置による換気の実施 ・列車混雑状況のHP等による情報提供 ・定期消毒や抗ウイルスシート貼付、アクリル板の設置 ・時差出勤やマスク着用等の呼びかけやポスター掲示</p> <p>②「新しい生活様式」に向けた利用回復、促進への支援 ・愛媛県公共交通燃油高騰対策支援金 支援対象 鉄道車両への動力費 ・県内宿泊割引キャンペーン事業 「みきゃん割」「こみきゃん割」 「疲れたら、愛媛。新みきゃん割」「えひめぐり みきゃん旅割」 県内宿泊費用、旅行商品への助成</p> <p>★無料抗原検査会場の設置 ・松山駅前広場に新型コロナウイルスの無料抗原検査会場を設置</p>	全線区	JR四国	○	→			
	全線区	自治体 JR四国	◎				
	全線区	自治体 JR四国	◎	→		○	

高知県内の取組

～高知県鉄道ネットワークあり方懇談会～

主な取組事例（高知県内）

駅を中心としたまちづくり

◆駅周辺整備

須崎市海のまちプロジェクト

- ・2027年迄に整備予定の図書館複合施設を見据え中心市街地の活性化やコンテンツ制作、仕組み創り等を目指すプロジェクト
- ・2021.12海のまちのエントランスとなる須崎駅舎をリノベーション



◆営業面での連携

異なる交通モードが利用できる企画乗車券の発売

- 「やなせたかしさん ふるさとの地を巡る高知ものべ周遊パス」発売
 - ・やなせたかしさんのふるさとである物部川エリアを周遊
 - ・JR四国土讃線（高知～土佐山田間）、土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線（後免～和食間）、ジェイアール四国バス大桁線（土佐山田～美良布間）、とさでんバス龍河洞線（山田駅～龍河洞間）が利用可能



駅や路線の活性化、利用環境の充実

◆駅環境整備

(1)地域との連携による駅舎整備や活用

- 地元の意見を取り入れた地域住民の交流スペース、鉄道利用者の待合室、公衆トイレの整備等



集落活動センターあわ



日下駅新駅舎（日高村へ譲渡）



土佐久礼駅リニューアル

(2)トイレの整備等

○自治体による公衆トイレ整備



吾桑駅



伊野駅



土佐加茂駅



影野駅



(3)多言語案内の整備

○駅案内サインの多言語化の実施

- 高知駅、旭駅、朝倉駅、伊野駅、佐川駅

○駅へのデジタルサイネージの整備

- ・2024.3土讃線（土佐岩原～窪川）導入 ※乗車人員20人/日未満の駅を除く



交通モード間の利便性向上・連携強化、交通結節機能の強化

◆運行体系、ダイヤ面での連携

鉄道とバス等による一体的な公共交通ネットワークの形成

○路線バスとのモーダルミックス実証実験の実施

- ・2023.7.22～11.12 予土線窪川～十川を含む区間のJR乗車券類を所持の方が四万十交通バス「窪川-大正線」「大正-十和線」の窪川～道の駅とおわ間が乗車可能となる実証実験実施
- ・Google Mapにて実証実験の情報掲載



◆ハード整備

新たな交通モードの導入

- ・西土佐地域における自動運転モビリティ実証実験 サステナブルな公共交通の構築、予土線の利用促進を目的に、江川崎駅周辺で実証実験を実施



主な取組事例（高知県内）

観光振興への取組

◆観光列車等による観光振興

(1)「志国土佐 時代の夜明けのものがたり」の運行

- ・各種周年イベントにあわせ記念缶バッジやうちのプレゼント、フォトボードでの記念撮影
- ・4～6、10～12月の毎週金曜日にごめんなはり線運行
高知駅→奈半利駅 煌海（きらめき）の抄
奈半利駅→高知駅 雄飛（ゆうひ）の抄
- ・須崎総合高校商業部生徒による販売実習
- ・「おきゃく」の雰囲気を楽しめる座席配置を採用したモニターツアーを実施
- ・「須崎駅19分劇場」等、沿線住民によるおもてなし



(2)臨時列車・企画列車の運行等

- ・地域のイベントと連携した企画列車の運行
- ・窪川ポップアートプロジェクトと連携した「しまんと開運汽車 すまいるえきちゃん号」の運行



(3)「予土線Fun Fun祭り」の開催

- ・沿線イベント（西土佐産業祭・台地まつり）との連携
- ・予土線沿線の周遊に便利な臨時列車を運行



◆イベント開催時の連携

(1)映画「竜とそばかすの姫」との連携

- ・高知県を舞台としたアニメ映画「竜とそばかすの姫」に伊野駅や列車が登場
- ・伊野駅駅舎の一部や1番線駅名標を映画をモチーフに特別ラッピング



(2)「らんまん」情報発信

- ・ラッピング列車の運行等
- ・佐川駅駅名標にバイカオウレンや牧野富太郎のイラストラッピング



(3)「あんぱん」地域連携施策

- ・歓迎のぼり旗の掲出（土佐山田、後免、高知）
- ・車内自動放送によるやなせたかし氏のゆかりの施設紹介
- ・連続テレビ小説「あんぱん」と連携したラッピング列車



◆その他

(1)自治体等と連携した駅起点ツアーの造成

- 「四国家のお宝」シリーズ、「四国家のお宝」キッズシリーズ（抜粋）
 - ・【佐川町・高知市】土佐の“歴史”と“人”が繋いだ「野菜物語」
 - ・【須崎市】海と神様に守られるまち須崎
 - ・【本山町】夏休みは森と遊ぼう！
 - ・【日高村】山に囲まれた特有の地「日高村」
- 「地域観光チャレンジ」企画ツアーの造成
 - ・「五感で味わう牧野富太郎」ツアー
 - ・食と酒で感じる清流・四万十川



(2)予土線利用促進

- ・江川崎駅美装（駅舎へのポップアート）
- ・2023.10.27 愛媛高知両県協議会が一本化



その他利用促進への取組

◆利用啓発イベントの開催等

「鉄道の日」記念イベント

- ・高知駅で地元幼稚園児を一日駅長に任命し、出発式を実施
- ・駅コンコースにて園児による合唱と合奏の披露



◆公共交通の周知

地域住民への周知

- ・高知の公共交通応援キャンペーン
- ・県内テレビ局で啓発CMを放映（2021.6～8）新聞広告掲載



◆美化活動

季節に合わせた飾り付け等

- ・こいのぼり、七夕、クリスマスツリー、門松



その他取組

◆安全性向上への協力

異常時訓練・安全PR活動への参加協力

- 地震・津波避難誘導訓練
 - ・2023.11.10大間～須崎駅間で実施し、近くの指定避難場所まで実際に避難
- 踏切安全通行PR
 - ・長岡踏切にて踏切安全通行PR

具体的取組（高知県内）

対象線区

土讃線（土佐岩原～窪川）、予土線（西ヶ方～若井）

「実施状況」の凡例

- ◎：各年度のトピック
（各年度に新たな取組を実施又は取組が完了）※基本的にJR四国に関連する内容が対象
- ：各年度に実施（◎以外のもの）
- ：継続して実施（予定含む）
- ⇒：各年度に検討（未実施）
- ：未評価（新型コロナウイルス感染症の影響等により評価が困難）

【利便性向上】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況	
1. 駅を中心としたまちづくり								
①駅を中心としたまちづくりの検討 ・須崎市海のまちプロジェクト 2027年迄に整備予定の図書館複合施設を見据えた中心市街地の活性化などを 目指すプロジェクト 2021年12月 海のまちのエントランスとなる須崎駅舎をリノベーション 2023年4月 「みなとオアシス 海のまち須崎」を国土交通省の「みなとオア シス」に登録	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	◎	→	→	→	→	
2. 交通モード間の利便性向上・連携強化、交通結節機能の強化								
◆運行体系、ダイヤ面での連携	①パターンダイヤの導入 ・土讃線高知駅～土佐山田駅間導入（2021年3月～） 2025年3月 パターン時間帯を拡大 ・土讃線高知駅～伊野駅間導入（2024年3月～）	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	◎	→	◎	○	→
	②ダイヤ面での連携 ・バス路線の再編による駅への接続向上 嶺北地区バス路線再編に伴う大杉駅の接続改善（2021年度） 窪川～十和地域の路線バス増便・変更による窪川駅の接続改善（2022年度） 高知駅を起点とする「MY遊バス」の運行	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	◎	○	○	→	→
	③時刻、乗継案内での連携 ・鉄道とバスの共通時刻表の作成 JR四国HP（おでかけに便利な鉄道・バス情報） ・交通事業者間での乗継案内放送の実施 高知駅到着時のJR⇄とさでん交通路面電車	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	→	→	→	→
	④鉄道と路線バスによる代替輸送の実施 ・沿線のバス事業者と相互の代替輸送契約の締結 予土線窪川～十川間（四万十交通）	全線区	JR四国 交通事業者	○	→	→	→	→
	⑤JRダイヤ改正情報提供 ・JRダイヤ改正時における関係者への事前周知 （高知県、県内沿線市町村等）	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	→	○	○	→
	★鉄道とバス等による一体的な公共交通ネットワークの形成 ・2023年7～11月 JR乗車券類で並行する路線バスも乗車可能となる実証実験 （予土線窪川～十川間での四万十交通との連携） ・2024年10月～ 空港乗合タクシー実証運行（後免駅～高知空港）の実施 （2025年10月より本格運行に移行）	全線区	自治体 JR四国 交通事業者			◎	◎	→
◆営業面での連携	①異なる交通モードが利用できる企画乗車券の発売 ・「四万十・宇和海フリーきっぷ」発売 ・「しまんと・あしずり号セットくろしお往復きっぷ」発売 ・「徳島・室戸・高知55フリーきっぷ」発売 ・「ひがしこうち観光1日フリーきっぷ」発売 ・「やなせたかしさん ふるさとの地を巡る高知ものべ周遊バス」発売	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	→	◎	◎	○

【利便性向上】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況	
◆営業面での連携	②Ma a Sの実現 ・JAL MaaSと「JAL麗らか四国キャンペーン」のデジタルクーポンとの連携 ・「誘遊四国ANAで行く四国の旅」との連携 ③トクトクきっぷの域外購入 ・2022年11月～ チケットアプリ「しこくスマートえきちゃん」の導入	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	◎	→	○	→	→
◆ハード整備	①駅前広場整備 ・整備に向けた検討、協議等 ②駅への駐車場・駐輪場整備 ・サイクルピット整備（2021年3月～） 自転車組立、解体スペースの整備等・駐輪場の整備 ・2024年3月 駐車場シェアリングサービス「akippa」の導入 （旭駅、伊野駅、佐川駅） ★新たな交通モードの導入 ・自動運転モビリティの実証 2022年8月 サステナブルな公共交通の構築、予土線の利用促進を目的に、 江川崎駅周辺で実証実験を実施 2024年度における長期実証実験の実施に向けた検討（～2025年4月終了）	全線区	自治体 JR四国	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
◆その他	①レンタサイクルの実施 ・駅周辺でのレンタサイクルの実施と継続 ②カーシェアリングとの連携 ・「JR四国レール&カーシェア」の展開 ③バスの時刻表や路線情報のオープンデータ化 ・GTFS-JP（静的バス情報フォーマット）形式で整備 高知県オープンデータウェブサイトで、各路線バスやコミュニティバスが 順次オープンデータ公開 ★利便性向上商品の開発 ・チケットアプリ「しこくスマートえきちゃん」の開発と導入 2022年11月～ 「いつでも」「どこでも」「キャッシュレス」できっぷを 購入し、きっぷ画面提示で列車に乗車可能な新チケットシス テムを導入 2023年4月～ 片道普通乗車券、自由席特急券、定期券の取扱開始 2024年3月～ 決済手段にPayPayを追加 2024年11月～ デジタル障害者手帳「ミライロID」との連携開始 2025年3月～ 土佐くろしお鉄道線内で完結する乗車券類の取扱い開始 2025年7月 会員登録者数が10万人を突破 2025年9月 第24回日本鉄道賞 特別賞受賞 ・車内補充券購入時におけるQRコード決済対応（2025年4月～）	全線区	自治体	⇒	○	→	→	→
		全線区	JR四国	○	→	→	→	→
		全線区	自治体 交通事業者	○	→	→	→	→
		全線区	JR四国		◎	◎	◎	○

【利便性向上】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況	
3. 駅や路線の活性化、利用環境の充実								
<p>◆駅環境整備</p> <p>①駅舎の公的整備や活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年11月 安和駅前地域住民の交流拠点「集落活動センターあわ」を整備 ・2022年10月 日下駅の駅舎を日高村へ譲渡し、交流スペースや待合室、公衆トイレの整備等を検討 ・2024年3月 日下駅新駅舎（日高村）の利用開始 ・2024年10月 土佐久礼駅リニューアルオープン <p>駅舎リノベーション、観光協会の窓口開設、コインロッカー設置</p> <p>②トイレの整備等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年9月 吾桑駅（須崎市）トイレ洋式化 ・2023年3月 伊野駅（いの町）トイレ洋式化 ・2023年3月 土佐加茂駅（佐川町）トイレ洋式化 ・2023年12月 影野駅（四万十町）公衆トイレ整備 <p>③多言語案内の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度～ みどりの券売機プラスの整備（土佐山田駅、後免駅、高知駅、朝倉駅、須崎駅） ・駅案内サインの多言語化実施（高知駅、旭駅、朝倉駅、伊野駅、佐川駅） ・駅へのデジタルサイネージの整備（列車運行情報等の案内） <p>2024年3月 土讃線（土佐岩原～窪川）導入</p> <p>④Wi-Fi環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐山田駅、後免駅、高知駅、旭駅、朝倉駅、伊野駅、須崎駅、窪川駅で整備済み ・高知駅に、個室型ワークブースを設置 電源、Wi-Fi、空調、LEDリングライト完備 <p>⑤バリアフリー化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数3,000人/日以上以上の駅では、公共交通移動等円滑化基準に適合した設備を整備 	全線区	自治体 JR四国	◎	◎	◎	◎	→	
	全線区	自治体 JR四国	⇒	◎	◎	→	→	
	全線区	自治体 JR四国	◎	◎	◎	→	→	
	全線区	自治体 JR四国	○	◎	→	→	→	
	全線区	自治体 JR四国	○	→	→	→	→	
<p>◆車両環境整備</p> <p>①特急車両の環境整備（2700系新型特急車両の導入）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型特急車両2700系を2020年度までに導入 ・車内案内表示器の多言語化（2000系全車両に導入）2022年度 	全線区	JR四国	○	◎				

【利用促進】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況
1. 観光振興への取組							
◆観光列車等による観光振興							
①「志国土佐 時代の夜明けのものがたり」の運行 ・地域の方と一体でのおもてなし 「須崎駅19分劇場」の実施 2024年6月 乗車4万人達成イベント 2024年7月 運行開始4周年記念イベントの実施 2025年3月 「土佐のおきゃくものがたり」の発売 2025年3～4月 「さくらの抄」の運行 2025年4～6月 土佐くろしお鉄道「ごめん・なはり線」で運行 (毎週金曜日) 2025年7月 運行開始5周年記念イベントの実施 2025年8月 乗車5万人達成イベント	土讃線	自治体 JR四国 交通事業者	◎	→	◎	◎	○
②「予土線3兄弟」の運行 ・しまんとロッコの運行 2023年3月～11月 しまんとロッコ“ありがとう 今年で誕生10周年” 乗車記念としてオリジナル缶バッジ配布 ・海洋堂ホビートレイン「かっぱようよう号」の運行 ・鉄道ホビートレインの運行 2021年度 「ひと結び予土線お便りコンテスト」の実施	予土線	自治体 JR四国	○	→	◎	○	→
③「サイクルトレイン」の運行 ・自転車の混乗試験の実施(予土線) 2022年3月～ 土日祝日、全便対象	全線区	自治体 JR四国	◎	→	→	→	→
④臨時列車・企画列車の運行等 ・2021年5月 「Forever2000&2200 さよなら2000系」ツアー 特急列車「南風・しまんと号」の定期運用を終了した2000系車両の 特別貸切運行 ・2022年1月～ 窪川ポップアートプロジェクトと連携したラッピング列車 「しまんと開運汽車 すまいるえきちゃん号」の運行 ・2024年3月 予土線3兄弟三重連「スプリングクルーズ号」の運行 鉄道ホビートレイン・海洋堂ホビートレイン・しまんとロッコの3列車を 連結し、宇和島駅から窪川駅まで運行	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	◎	→	◎	→	→
★「予土線Fun Fun祭り」の開催 ・2021年10月 第1回開催 ・2022年5月 第2回開催 ・2023年11月 第3回開催	予土線	自治体 JR四国	◎	◎	◎		

【利用促進】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況
<p>◆イベント開催時の連携</p> <p>①四国デスティネーションキャンペーンとの連携 ・2021年4～6月 四国プレDC ・2021年10～2月 四国DC開催 ・2022年度 四国アフターDC (4/1～6/30)</p> <p>②高知県観光キャンペーンとの連携 ・2023年3月 高知県の観光博覧会『牧野博士の新休日』に合わせて、『高知県・JR四国の観光振興に係る連携・協力に関する協定』の締結 協定期間：2023/4/1～2024/3/31</p> <p>③その他取組 ・「須崎まつり海上花火大会」開催に合わせた臨時列車運転 ・「四国に新幹線を夏まつり」にJR四国ブース出展（毎年8月開催） 2024年度はイベントに合わせて「鉄道ホビートレイン」の特別運行（須崎駅～高知駅～土佐山田駅を往復運行）と高知駅での見学会を実施 ・「ご当地キャラまつりin須崎」（毎年9月開催） 会場（桐間多目的公園）最寄りの多ノ郷駅に特急列車（6本）を臨時停車 ・2022年7月 特急「しおかぜ」「南風」運行開始50周年&鉄道開業150周年記念（臨時列車ツアーの実施など） ・2023年5月 「瀬戸大橋線開業35周年スペシャルツアー」Remember2000「リバイバル南風号」の実施 ・2023年6月 アンパンマン列車ご利用100万人達成 ・2023年3月 土讃線須崎駅～日下駅間開通100周年記念事業 ・2024年11月 土讃線日下駅～高知駅間開通100周年記念事業 ・2023年度 「らんまん」情報発信 連続テレビ小説「らんまん」と連携したラッピング列車の運行など ・2025年3月～ 「あんぱん」地域連携施策 連続テレビ小説「あんぱん」と連携したラッピング列車の運行 列車内自動放送によるやなせたかし氏のふるさとゆかりの施設の紹介 （特急「南風」「しまんと」土佐山田駅及び後免駅到着前） ・2025年4月～アンパンマン列車25周年 初代アンパンマン列車のデザインを復刻し、特急「あしずり」号として期間限定運転</p>	全線区	自治体 JR四国	◎	○			
	全線区	自治体 JR四国	○	○	◎		
	全線区	自治体 JR四国	○	○	◎	◎	○
◆観光情報の発信	全線区	自治体	⇒	→	→	→	→
	全線区	自治体 JR四国	⇒	→	→	→	→

【利用促進】

取組内容		対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況
◆その他	①インバウンド向け企画乗車券の発売 ・ ALL SHIKOKU Rail Passの発売	全線区	JR四国 交通事業者	○	→	→	→	→
	②自治体と連携した駅起点ツアーの造成 ・ 「四国のお宝」シリーズの展開 ・ 「地域観光チャレンジ」企画ツアーの造成 四国の4国立大学の学生の考案	全線区	自治体 JR四国	○	→	◎	◎	→
	③地元高校生や住民の声による車内放送の実施 ・ 時代の夜明けのものがたり車内において、地元高校生がアナウンスを実施	土讃線	自治体 JR四国	⇒	○	→	→	→
	④海洋堂ホビー館との連携 ・ 2021年7月～2022年5月 ラッピング列車の運行 「海洋堂ウルトラマンフィギュア展」と連携し「海洋堂ホビートレイン『ウルトラトレイン号』」を運行	予土線	自治体 JR四国	◎	○	○	⇒	⇒
	⑤予土線利用促進 【予土線利用促進対策協議会】 ・ 2023年8月 江川崎駅美装工事が完了 予土線利用促進への取組として、予土線駅舎へのポップアートを検討 ・ 2023年10月 予土線利用促進対策協議会を設立 愛媛県、高知県の協議会を一本化 ・ 2024年2月～2025年3月 「しまんとグリーンラインフリーきっぷ」の発売 【JR予土線圏域の明日を考える会】 ・ 愛媛と高知の高校生による「予土あす青春18プロジェクト」	予土線	自治体 JR四国	○	→	○	◎	○
★その他 ・ 2021年度 映画「竜とそばかすの姫」との連携 ・ 2021年11月 航空事業者との連携 高知空港を発着し、瀬戸内、九州、奄美大島を巡る遊覧飛行ツアー開催 ・ デジタル駅スタンプアプリ「エキタグ」 駅などに設置されたNFCタグにスマートフォンをかざすことでデジタルスタンプを収集できるアプリサービス 2024年11月 土讃線、予土線に導入	土讃線	自治体 JR四国 交通事業者	◎			◎	→	

2. その他利用促進への取組

◆利用啓発イベントの開催等	①公共交通利用促進イベントの開催 ・ 「鉄道の日」記念イベントの開催（毎年10月） 高知駅で地元幼稚園児を一日駅長に任命し、出発式を実施駅コンコースにて園児による合唱と合奏の披露	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	◎	○	→	◎	→
	②ノーマイカーデーの実施 ・ こうち520(ゴーニーマル)運動の推進(毎月5日と20日)	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	→	→	→	→
	③企業や官公庁でのフレックスタイム等の導入	全線区	自治体	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒

【利用促進】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況	
◆補助制度の活用	①通学定期への運賃補助 ・自治体による通学学生への通学定期運賃補助 ・2024年3月～2025年1月 南国市地域公共交通通学定期券半額応援キャンペーン	全線区	自治体	○	→	→	◎	→
	②高齢者及び免許返納者への運賃補助 ・運転免許自主返納者への自治体による支援	全線区	自治体	○	→	→	→	→
	③団体利用への運賃補助 ・予土線を利用する遠足等の行事に対し運賃補助 (予土線利用促進対策協議会)	予土線	自治体	○	→	→	→	→
	★高知県内の就職活動に伴う交通費補助 ・2021年5月～ 県外在住で高知県内で就職活動を行う学生等を対象に交通費の一部を補助	全線区	自治体	◎	→	→	→	→
◆割引施策の導入	①昼間限定の割引回数券、高齢者への割引施策の導入	全線区	J R 四国	—	⇒	⇒	⇒	⇒
	★通学定期所持者向け特急利用通学割引 ・「定期券de特急『あしずり号』回数券」発売 2021年4月～2022年3月 土讃線大間～窪川駅間で発売	土讃線	J R 四国	◎				
◆公共交通の周知	①地域住民への周知 ・公共交通の利用促進を目的に、「ちょっといいこと始めよう！公共交通」をスローガンとした啓発プロモーション活動を実施 ・高知の公共交通応援キャンペーンの実施 公共交通をテーマにしたキャラクター、子ども絵画（小学生限定）や川柳の作品を募集	全線区	自治体 J R 四国 交通事業者	◎	→	→	→	→
	②公共交通を利用していない方へのPR強化	全線区	自治体 J R 四国 交通事業者	○	→	→	→	→
	③出張時における公共交通の利用促進	全線区	自治体 J R 四国 交通事業者	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	④企画乗車券のPR強化 ・実施に向けた検討	全線区	自治体 J R 四国 交通事業者	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
◆美化活動	①駅構内・駅周辺の美化活動 ・四国鉄道OB会高知支部による土佐大津駅の清掃活動	全線区	自治体 J R 四国	⇒	○	→	◎	→
	②その他活動 ・季節に合わせた飾りつけ (こいのぼり、七夕飾り、クリスマスツリー、門松)	全線区	自治体 J R 四国	○	→	→	◎	○

【その他】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況
◆中長期的な公共交通ネットワークのあり方の検討	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	○	○	○	○
	-	自治体	○	○	○	○	○
◆自治体による計画の策定及び推進	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	→	→	→	→
	全線区	自治体 JR四国 交通事業者	○	→	→	→	→
★その他会議の開催	土讃線	自治体		○	→	→	→
◆調査等の実施	全線区	自治体	○	→	→	→	→
	全線区	JR四国	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
★5カ年推進計画における調査事業	全線区	自治体 JR四国				◎	

【その他】

取組内容	対象線区	実施主体	2021 実施状況	2022 実施状況	2023 実施状況	2024 実施状況	2025上期 実施状況
<p>◆安全性向上への協力</p> <p>①異常時訓練への参加協力 ・合同訓練の実施 「地震・津波避難誘導訓練」の実施 高知駅でのテロ対応合同訓練など</p> <p>②安全PR活動への参加協力 ・全国交通安全運動における踏切安全通行PR活動への協力 ・全国交通安全運動における踏切安全通行PR活動への協力 「春の全国交通安全運動」に伴う踏切安全通行PRの実施（毎年4月） 「秋の全国交通安全運動」に伴う踏切安全通行PRの実施（毎年9月） ・踏切事故防止キャンペーンの実施（毎年11月） ・「交通安全ひろば」へのブース出展 踏切支障報知装置体験、踏切内での事故写真パネル展示等</p> <p>★災害発生時における相互協力に関する協定の締結 2021年5月 土木学会四国支部とJR四国における災害発生時における相互協力に関する協定の締結</p>	全線区	JR四国	○	→	○	◎	→
<p>◆新型コロナウイルスへの対応</p> <p>①感染防止対策や「新しい生活様式」への対応 ・走行車両の窓開けや車両空調装置による換気の実施 ・列車混雑状況のHP等による情報提供 ・定期消毒や抗ウイルスシート貼付、アクリル板の設置 ・時差出勤やマスク着用等の呼びかけやポスター掲示</p> <p>②「新しい生活様式」に向けた利用回復、促進への支援 ・「高知観光リカバリーキャンペーン」の実施 高知県内宿泊を伴う旅行のうち交通費用に対して助成金を交付 ・「高知観光トク割キャンペーン」の実施 県内宿泊費用、旅行商品への助成</p> <p>★無料抗原検査会場の設置 ・高知駅南口前に新型コロナウイルスの無料抗原検査会場を設置</p>	全線区	JR四国	○	→			
	全線区	自治体	◎	→			
	全線区	自治体 JR四国		○			